岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第411集

明後沢（みょうごさわ）遺跡群発掘調査報告書

ほ場整備姥沢上野地区工事関連遺跡発掘調査

岩手県水沢地方振興局水沢農村整備事務所
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

明後沢（みょうごさわ）遺跡群発掘調査報告書

ほ場整備姥沢上野地区工事関連遺跡発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代を始めとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これらの多くの先人たちが創造していた文化財を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺跡が消滅することはまことに欲しいことでありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明があたるのも事実であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、(財) 岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置を取って参りました。

本報告書は、「ほ場整備姥沢上野地区工事」に関連して、平成13年度に実施した明後沢遺跡群の調査結果をまとめたものであります。この調査は、平成12年度に岩手県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘調査の結果を受けて、当センターが実施したものであります。

今回の調査では、前年度の試掘結果から予想されたとおり、古代の竪穴住居と多くの溝跡、土坑が検出されており、本遺跡が古代の集落跡であることが明らかになりました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解あるいは啓蒙普及の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの試掘調査及び本報告書作成に御援助・ご協力を賜りました水沢地方振興局水沢農村整備事務所・前沢町教育委員会をはじめ、関係各位に衷心より謝意を表します。

平成15年 1 月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、岩手県胆沢郡前沢町古城字幅123－１他に所在する明後沢遺跡群の平成13年度における発掘調査結果を収録したものである。

2．本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と調査略号は次の通りである。

遺跡番号：ＮＥ36－2175、調査略号：ＭＧＳ－01

3．本調査は、ほ場整備姥沢上野地区工事に伴う緊急発掘調査である。岩手県教育委員会生涯学習文化課の調整を経て、水沢地方振興局水沢農村整備事務所からの委託を受け、㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

4．野外調査の期間と調査面積・調査担当者は次の通りである。

調 査 期 間　…　平成13年４月12日～８月６日

調 査 面 積　…　4,720㎡

調査担当者　…　亀大二郎、鳥居達人

5．本報告書の執筆は鳥居達人と亀大二郎が分担し、編集は亀大二郎が行った。

6．室内整理作業は、平成13年11月１日～平成14年３月31日まで実施した。

7．基準点の測量と航空写真撮影は、次の機関に委託した。

基準点の測量　…　(株)アクト技術開発

航空写真撮影　…　東邦航空株式会社

8．発掘調査・整理作業に於いて、次の機関の協力を得た。

前沢町教育委員会

9．本遺跡の調査に関わる記録と遺物等の資料は、岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

序
例　言

【本　文】

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 6
　1　遺跡の位置と地質・地理的環境 …… 6
　2　周辺の遺跡 …… 6
　3　遺跡の基本土層 …… 7
Ⅲ　調査と整理の方法 …… 12
　1　野外調査 …… 12
　（1）グリットの設定 …… 12
　（2）粗堀と遺構検出 …… 12
　（3）遺構の命名について …… 12
　（4）遺構の精査と実測・遺物の採り上げ … 13
　（5）写真撮影 …… 13
　2　室内整理 …… 14
　（1）遺物 …… 14
　（2）遺構 …… 14
　（3）凡例 …… 14
Ⅳ　検出した遺構と遺物 …… 16
　1　A'・B'区 …… 16
　2　C'・D'区 …… 29
　3　E'・F'区 …… 44
Ⅴ　まとめ …… 65
　1　出土遺物 …… 65
　2　検出遺構 …… 66
参考文献 …… 14, 67

【図　版】

第1図　岩手県全図 …… 2
第2図　遺跡の位置図 …… 3
第3図　周辺の地形と調査区 …… 4
第4図　地質図 …… 5
第5図　周辺の遺跡図 …… 8
第6図　調査区及びグリッド設定図 …… 11
第7図　凡例 …… 14
第8図　A'・B'区遺構配置図 …… 15
第9図　ＳＫＩ01・02・03竪穴状遺構 …… 17
第10図　ＳＫ01・02・04・05・06・09土坑 …… 18
第11図　ＳＫ11・12・13・15・16土坑 …… 21
第12図　ＳＸ01・02・03・04・05陥し穴 …… 22
第13図　ＳＤ01・02溝 …… 23
第14図　ＳＤ03・04・66・26・27溝 …… 24
第15図　ＳＤ05・06・65溝 …… 27
第16図　C'・D'区遺構配置図 …… 28
第17図　ＳＩ01竪穴住居 …… 30
第18図　ＳＩ02竪穴住居 …… 31
第19図　ＳＫ17・18土坑・ＳＤ07・08溝 …… 32
第20図　ＳＤ09・10・25・15・16溝 …… 33
第21図　ＳＤ11・12・13・14溝 …… 36
第22図　ＳＤ17・18・19・20・21溝 …… 39
第23図　ＳＤ22・23・24溝 …… 40
第24図　ＳＸ10柱穴群・ＳＸ11粘土採掘場 … 41
第25図　E'・F'区遺構配置図 …… 43
第26図　ＳＩ03竪穴住居 …… 45
第27図　ＳＩ03・04竪穴住居 …… 46
第28図　ＳＩ05竪穴住居 …… 47
第29図　ＳＫＩ04・05竪穴状遺構 …… 49
第30図　ＳＫ21・22・24・27・28・29土坑 …… 50
第31図　ＳＫ30・31土坑
　・ＳＸ06・07・08陥し穴 …… 51
第32図　ＳＤ31・32・33・34・35・36溝 …… 53
第33図　ＳＤ42・43溝 …… 55
第34図　ＳＤ41・44・45・50・51溝 …… 56
第35図　ＳＤ46・47・48・49・52・53溝 …… 59
第36図　ＳＤ54・55・56・57・58・59・60・62溝 …… 61
第37図　ＳＤ63・64溝・ＳＸ12複合窯 …… 64

第38図　A'～C'区の遺物 …… 68
第39図　C'・D'区の遺物 …… 69
第40図　C'・D'区の遺物 …… 70
第41図　C'・F'区の遺物 …… 71
第42図　E'・F'区の遺物 …… 72
第43図　E'・F'区の遺物 …… 73
第44図　E'・F'区の遺物 …… 74
第45図　E'・F'区の遺物 …… 75
第46図　E'・F'区及び遺構外の遺物 …… 76

【表】

第1表　近隣の遺跡表 …… 9・10
第2表　グリッド・旧国土座標第X系対照表 … 11
第3表　各地区における遺構一覧表 …… 13
第4表　住居址ごとの坏分類 …… 65

【写真図版】

写真図版1　遺跡遠景及び調査区 …… 79
写真図版2　調査前風景及び基本土層 …… 80
写真図版3　A'・B'区の遺構 …… 81
写真図版4　A'・B'区の遺構 …… 82
写真図版5　A'・B'区の遺構 …… 83
写真図版6　A'・B'区の遺構 …… 84
写真図版7　A'・B'区の遺構 …… 85
写真図版8　A'・B'区の遺構 …… 86
写真図版9　A'・B'区の遺構 …… 87
写真図版10　C'・D'区の遺構 …… 88
写真図版11　C'・D'区の遺構 …… 89
写真図版12　C'・D'区の遺構 …… 90
写真図版13　C'・D'区の遺構 …… 91
写真図版14　C'・D'区の遺構 …… 92
写真図版15　C'・D'区の遺構 …… 93
写真図版16　C'・D'区の遺構 …… 94
写真図版17　E'・F'区の遺構 …… 95
写真図版18　E'・F'区の遺構 …… 96
写真図版19　E'・F'区の遺構 …… 97
写真図版20　E'・F'区の遺構 …… 98
写真図版21　E'・F'区の遺構 …… 99
写真図版22　E'・F'区の遺構 …… 100
写真図版23　E'・F'区の遺構 …… 101
写真図版24　E'・F'区の遺構 …… 102
写真図版25　E'・F'区の遺構 …… 103
写真図版26　E'・F'区の遺構 …… 104
写真図版27　E'・F'区の遺構 …… 105
写真図版28　E'・F'区の遺構 …… 106
写真図版29　E'・F'区の遺構 …… 107
写真図版30　E'・F'区の遺構 …… 108
写真図版31　E'・F'区の遺構 …… 109
写真図版32　A'～D'区の遺物 …… 110
写真図版33　C'・D'区の遺物 …… 111
写真図版34　C'・D'区の遺物 …… 112
写真図版35　C'～F'区の遺物 …… 113
写真図版36　E'・F'区の遺物 …… 114
写真図版37　E'・F'区の遺物 …… 115
写真図版38　E'・F'区及び遺構外の遺物 … 116

Ⅰ　調査に至る経過

明後沢遺跡群は、「担い手育成基盤整備事業姥沢上野地区」の施行に伴って、その事業区域に位置することから発掘調査することとなったものである。

「担い手育成基盤整備事業姥沢上野地区」は、胆沢郡前沢町古城地内の受益面積52haの地区が昭和７～15年頃10区画に整理されたが、区画形状が小さく農道の幅員も狭く大型機械化体制の導入に支障をきたしている。

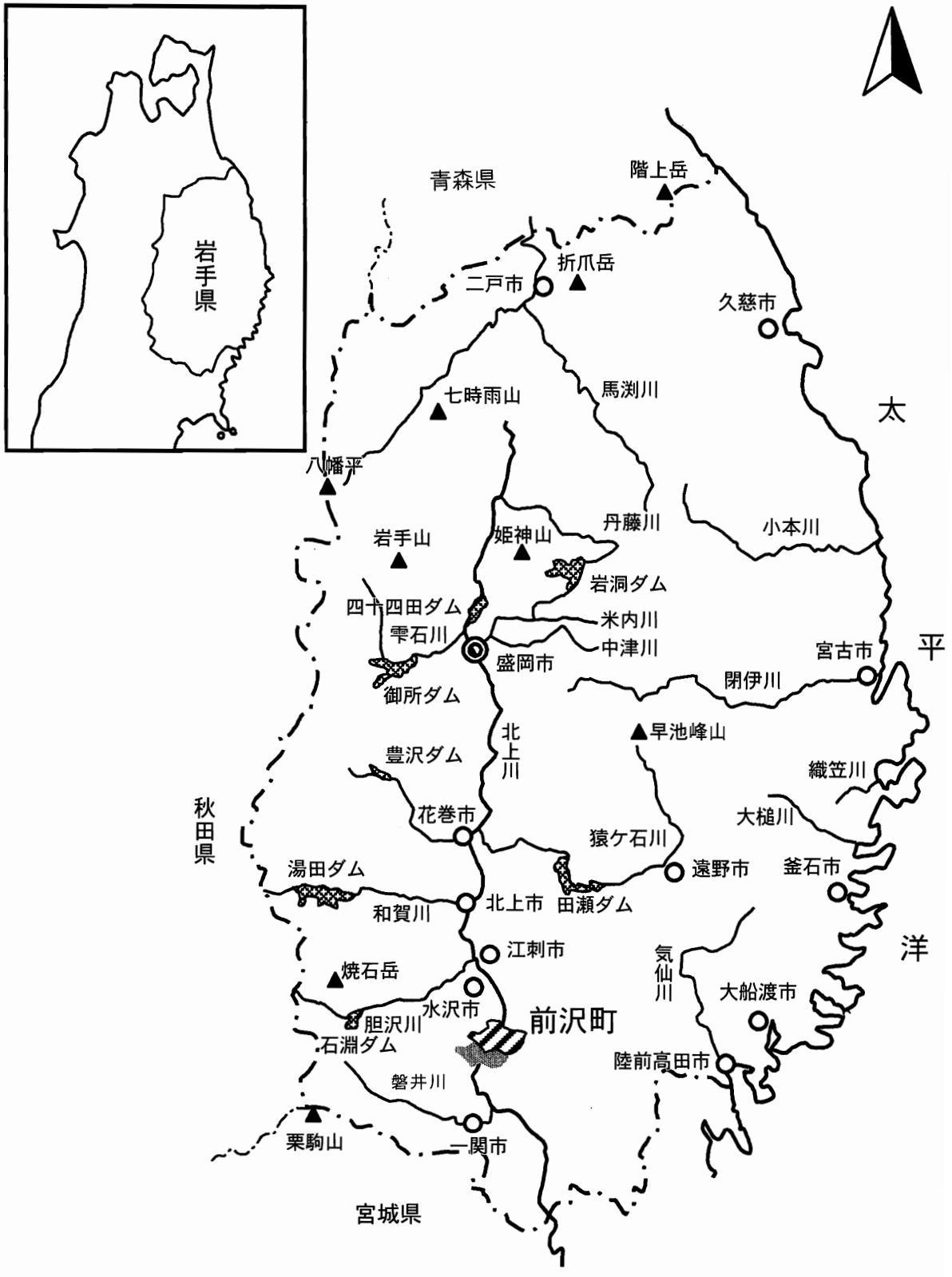
又小水路は土水路で用排兼用となっているため浅く、排水不良地帯が大部分をしめ、耕地の汎用が困難な状況である。

これらの阻害要因を除去し、効率的で安定的な経営体に農地を集積し、高生産性農業の確立を図り、併せて農村環境水準の向上を資するために、大区画ほ場整備を実施するものとして、平成９年に新規採択された地区で、平成12年度で４年目である。

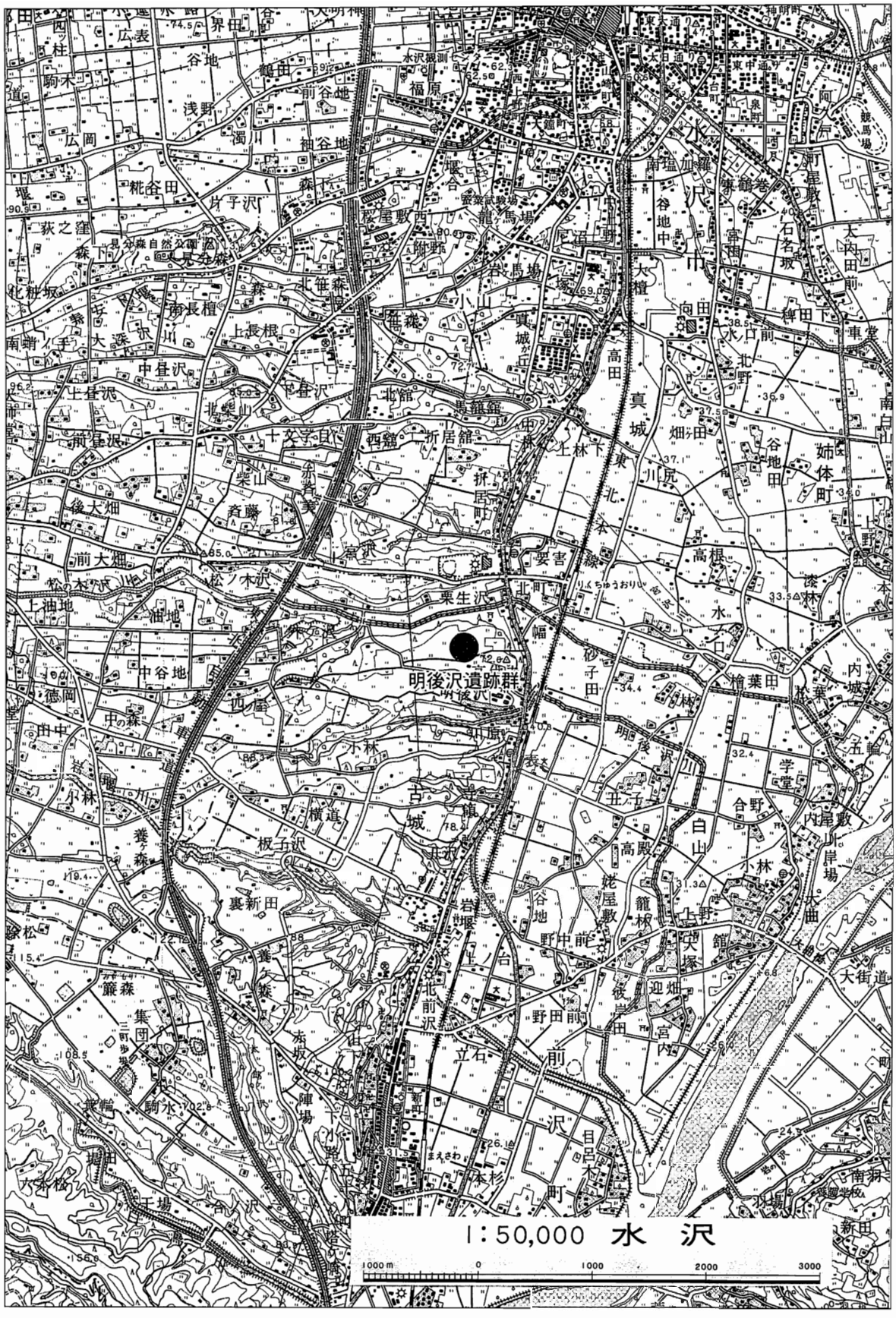
当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱については、水沢地方振興局胆江土地改良事業所から（平成10年度から水沢農村整備事務所）平成９年５月15日付け胆土地第146号「県営ほ場整備実施に伴う遺跡の分布調査について（依頼）」の文章によって岩手県教育委員会にたいして分布調査の依頼をしたのが最初である。依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成９年６月12、17、19日に分布調査を実施したが、その結果は平成９年７月15日付け教文第353号「県営ほ場整備実施に伴う遺跡の分布調査について（回答）」で水沢地方振興局胆江土地改良事業所へ回答し、その際工事施行範囲内が明後沢遺跡群の範囲内であることが付記された。

回答を受けた水沢地方振興局水沢農村整備事務所では、明後沢遺跡群を含む面工事実施年度である平成10年10月２日付け水農整第869－４号「担い手育成基盤整備事業姥沢上野地区における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」の文章によって岩手県教育委員会にたいして、試掘調査を依頼した。依頼を受けた岩手県教育委員会では平成10年12月14～18日に試掘調査を実施したが、その結果は平成10年12月28日付け教文第1039号「担い手育成基盤整備事業姥沢上野地区における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」で水沢地方振興局水沢農村整備事務所へ回答し、その際県指定明後沢遺跡隣接地であり、同じ性格と考えられる遺構が確認されたため再調査の実施と発掘調査が必要である旨が付記された。

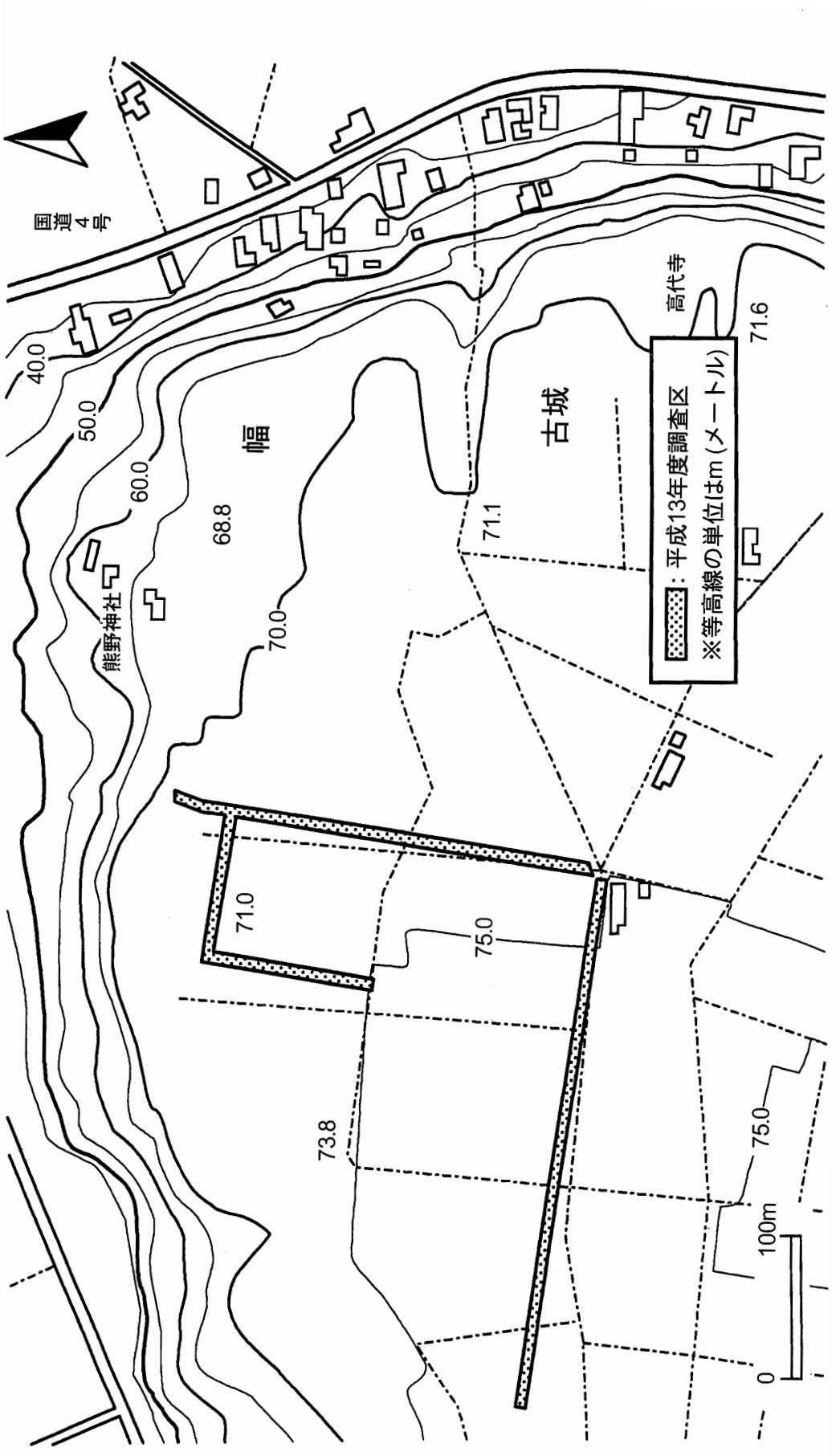
（水沢地方振興局水沢農村整備事務所）


岩手県
青森県
階上岳
折爪岳
二戸市
久慈市
七時雨山
馬渕川
太
八幡平
丹藤川
小本川
岩手山
姫神山
岩洞ダム
四十四田ダム
米内川
雫石川
中津川
盛岡市
宮古市
平
閉伊川
御所ダム
北上川
早池峰山
豊沢ダム
織笠川
秋田県
花巻市
大槌川
猿ケ石川
湯田ダム
遠野市
釜石市
和賀川
北上市
田瀬ダム
江刺市
洋
気仙川
焼石岳
大船渡市
水沢市
胆沢川
前沢町
石淵ダム
陸前高田市
磐井川
栗駒山
一関市
宮城県

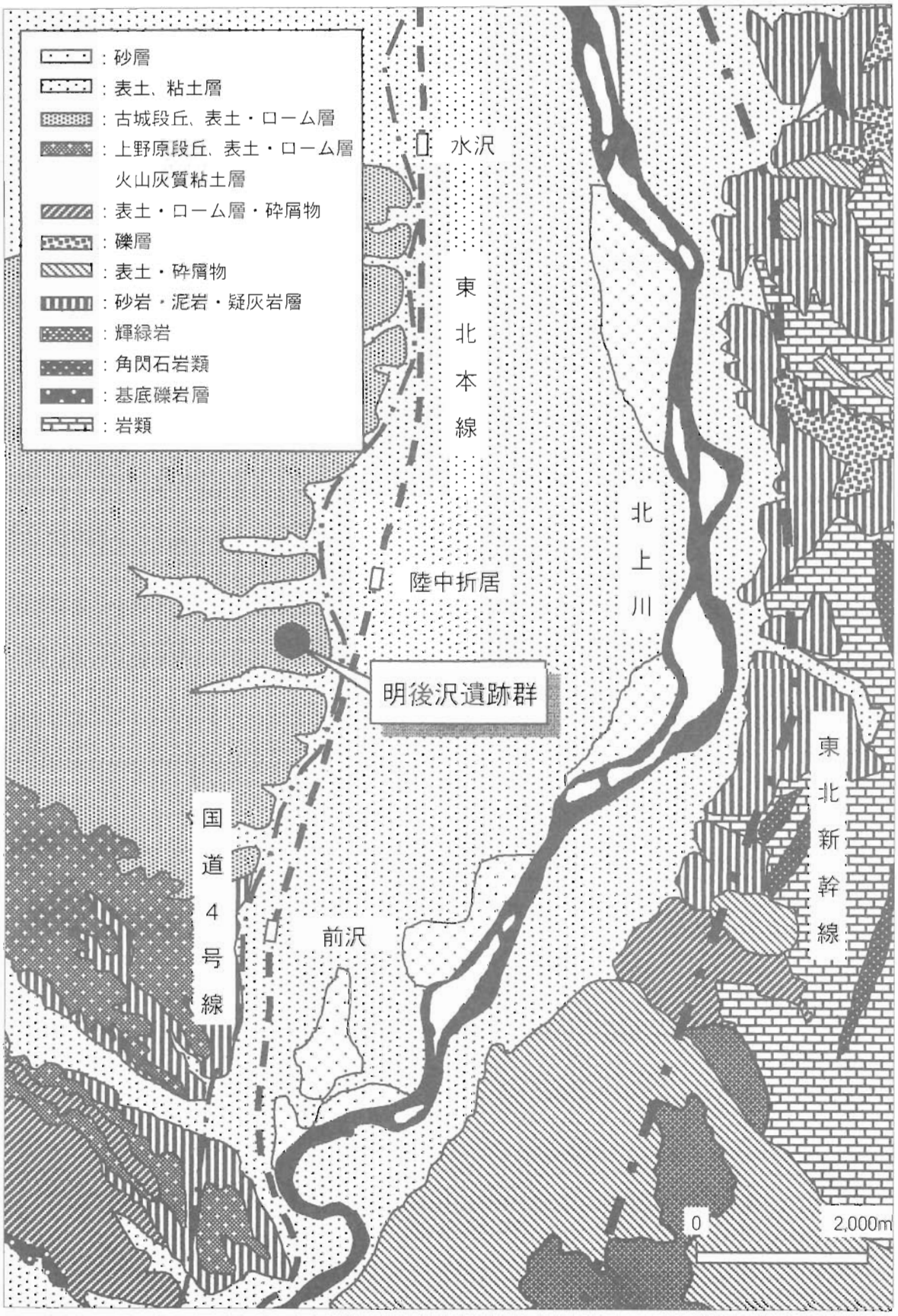
第１図　岩手県全図



第２図　遺跡の位置図



第３図　周辺の地形と調査区


：砂層
：表土、粘土層
：古城段丘、表土・ローム層
：上野原段丘、表土・ローム層
火山灰質粘土層
：表土・ローム層・砕屑物
：礫層
：表土・砕屑物
：砂岩・泥岩・疑灰岩層
：輝緑岩
：角閃石岩類
：基底礫岩層
：岩類
水沢
東北本線
北上川
陸中折居
明後沢遺跡群
国道4号線
前沢
東北新幹線
0
2,000m

第４図　地質図

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の位置と地質・地理的環境（第１～４図）

明後沢遺跡群が所在する前沢町は、胆沢扇状地と北上川低地帯、北上山地西縁丘陵の間に位置する。東西13.3km、南北9.0kmのひし形に近い形状で広がり、南は平泉町と衣川村に、北は水沢市、東は東山町、西は胆沢町に接している。

胆沢扇状地は、高位から一首坂段丘、胆沢段丘、水沢段丘に分かれる。一首坂段丘の構成層は、上部、下部２枚の礫層とローム層で、レンズ状に凝灰岩質の砂岩層がある。数枚の火山灰がのるが、焼石火山と栗駒火山が供給源と見られる上部の黒沢尻火山灰層と、これを整合する下部の前沢火山灰層が著名である。胆沢段丘の構成は折居礫層とこれを被覆する黒沢尻火山灰層（ローム層）とからなる。この段丘には、一首坂段丘にある前沢火山灰はのらない。黒沢尻火山灰は鍵層となる淡紅色軽石と細かい明褐色火山灰で構成される。低位の水沢段丘は基底礫層と砂・粘土の互層で黒色帯の泥炭層を挟む。この面を黒沢尻火山灰は被覆せず、新規段丘で最終氷期以降の形成と見られる。沖積面の小段丘は完新世以降の北上川水系の浸食面である。東側の北上山地西縁丘陵や南側の生母地区には、岩盤層や古生界・中世界の古い地層が分布し、西方の段丘区とは対照的な地質区となる。

本遺跡群がある古城段丘は胆沢段丘に含まれる。この段丘を刻むように南から岩堰川・明後沢川・松の木沢川が北上川にそそぎ込んでおり、明後沢川と松の木沢川に南北を挟まれた地区に明後沢遺跡群は位置している。遺跡群のある地区はほぼ平坦であるが、東側の国道４号から古城段丘に向かって勾配が急になっている。標高は海抜70～75ｍほどである。

明後沢遺跡群はこれまで「明後沢遺跡」と呼称してきたが、発掘調査の結果及び岩手県教育委員会・前沢町教育委員会の分布調査をもとに遺跡を細分化し、「明後沢遺跡群」と呼称するようになった。明後沢遺跡群は次の遺跡を含む。

明後沢遺跡、八郎舘遺跡、宗角舘遺跡、熊野遺跡、鳥小沢遺跡、幅遺跡、前堀遺跡

今回の調査は明後沢遺跡群の北側に位置する幅遺跡内を行った。

2　周辺の遺跡（第５図）

前沢町には現在140カ所あまりの遺跡が確認されているが、発掘調査等により遺跡の全容が明らかになっているものは少ない。

旧石器時代の遺跡は白鳥永沢遺跡があるが、詳しいことは分かっていない。また、この時代のものと思われる石刃が数点見つかったという記録は残っている。

縄文時代の遺跡としては、中期の小林繁長遺跡（44）、晩期の川岸場Ⅰ・Ⅱ遺跡（40・41）が知られている。

弥生時代の遺物は同じく川岸場Ⅱ遺跡（41）から発見されている。

古墳時代の遺跡は、胆沢町南都田の角塚古墳が有名であるが、前沢町内で古墳と確認されるものは現在存在していない。白鳥地区に「七つ盛」と呼ばれた７つの古墳があったと記録にあるが、明治23年の鉄道敷設工事の際に破壊され消滅したと伝えられる。

平安時代の遺跡としては、今回調査した明後沢遺跡群に含まれる県指定史跡・明後沢遺跡（２）が知られている。この遺跡は、古代城柵説、古代寺院説、瓦の窯場説等あるが、幾度かの調査を経た今でも、まだそ

の性格は分かっていない。ただ、水沢の胆沢城と同一の笵を用いた布目瓦が多数出土することから、胆沢城とほぼ同時代に朝廷によって立てられた施設であることは明らかで、古代東北開発史上重要な遺跡であり、その性格の解明が待たれる。

安倍氏の時代になると、安倍頼時の子・白鳥八郎行任の白鳥舘（69）、臣・麻生治長の大麻生柵（45）・六日入柵（34）等の遺跡が見られる。安倍氏滅亡の後には、『後三年』に「白鳥村の在家四百戸を焼く」の文献記述からこの土地は清原氏支配の源であったことが推定されるが、それを実証するような遺跡は今のところ見つかっていない。藤原氏の時代には秀衡の臣・照井太郎の照井舘（65）がある。

源頼朝によって藤原氏が滅びると、胆沢の地は葛西氏の臣・柏山氏が治めるところとなる。中世と呼ばれるこの時代の城館については、柏山氏の家臣・三田将監の築いた前沢城（73）をはじめ、九郎舘（９）、中畑城（25）、赤生津城（106）などがある。

3　遺跡の基本土層

（１）A'・B'・C'・F'区基本土層

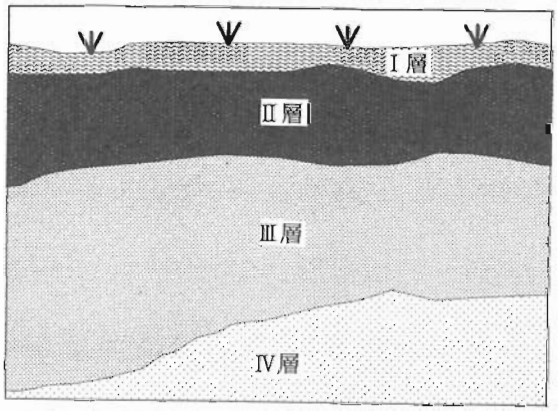
Ⅰ　層：表土　水田耕作の表土、場所によって旧耕作土の層が入る。

Ⅱ　層：黒褐色のシルト

Ⅲ　層：黄褐色の粘土質シルト

Ⅳ　層：礫層

A'・B'・C'・F'区は、遺構外に古代以前の層はほとんどみられない（C'区の北側及びF'区の中央を除く）。表土の下に黒褐色シルトが続くが、遺物は全く含まず比較的新しい層である。



A'・B'・C'・F'区基本土層模式図（写真図版２）

この層の下に地盤層となる黄褐色の粘土層と礫層が続く。

（２）D'・E'区基本土層

Ⅰ　層：表土　水田耕作の表土、場所によって旧耕作土の層が入る。

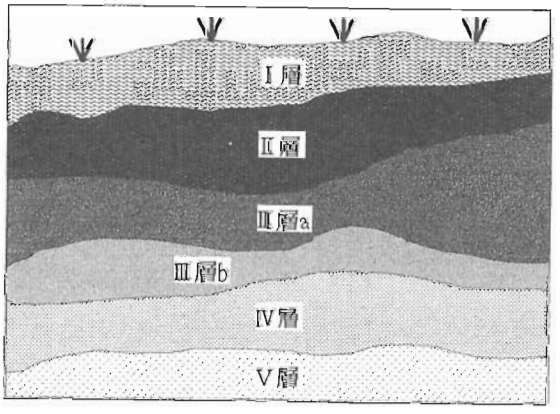
Ⅱ　層：黒褐色のシルト

Ⅲ層ａ：暗褐色のシルト
古代の遺構が検出される。

Ⅲ層ｂ：暗褐色シルト（D'区の１部で見られる層）
縄文の遺物が出土する。

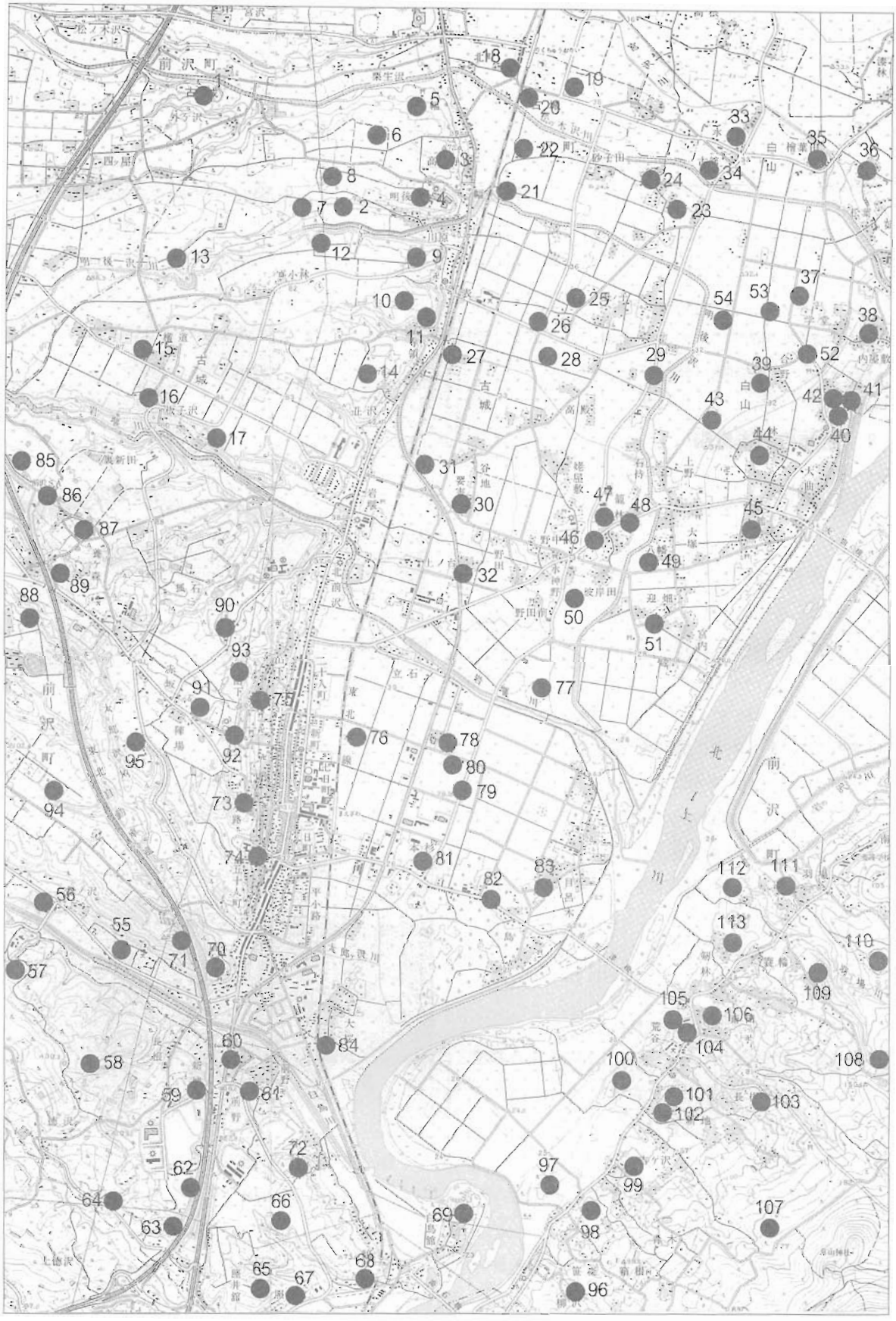
Ⅳ　層：黄褐色の粘土質シルト

Ⅴ　層：礫層



D'・E'区基本土層模式図（写真図版２）

C'区の北側、D'区、E'区及びF'区の中央には、黒褐色シルトの下に遺物包含層である暗褐色シルトが見られる。暗褐色シルトは平安の遺物を含む層（Ⅲ層ａ）と、縄文の遺物を含む層（Ⅲ層ｂ）に分かれるが、Ⅲ層ｂはD'区の一部とF'区の中央に見られる層である。Ⅲ層の下には地盤層である黄褐色粘土の層と礫層が続く。

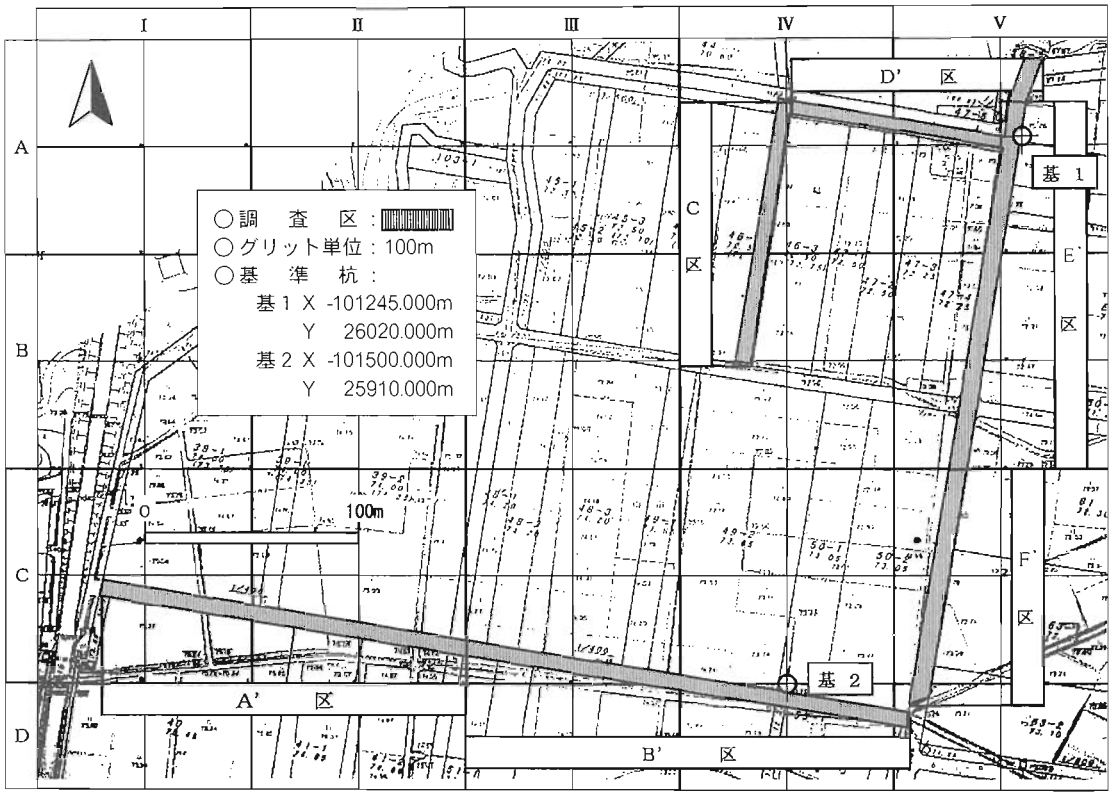

前沢町
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113

第５図　周辺の遺跡図

第１表　周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	遺跡の種別	時代	所在地	備考
1	古城外ヶ沢	散布地	縄文前期・古代	古城字外ヶ沢	Ｈ９位置変更
2	明後沢遺跡群 明後沢	散布地・城館跡？	平安	古城字明後沢・姥沢	
3	明後沢遺跡群 八郎舘	城館跡・散布地	縄文・平安・中世	古城字高代寺	Ｈ９範囲拡大
4	明後沢遺跡群 宗角舘	城館跡	平安・中世	古城字姥沢	Ｈ９範囲拡大
5	明後沢遺跡群 熊野	散布地	平安	古城字幅	Ｈ９新規
6	明後沢遺跡群 幅	散布地・瓦窯跡？	縄文・平安	古城字幅・雨沼・志人沢	Ｈ９新規及び報告遺跡
7	明後沢遺跡群 鳥子沢	散布地・城館跡	平安・中世	古城字鳥子沢	Ｈ９新規
8	明後沢遺跡群 前堀	散布地	縄文・古代	古城字前掘	Ｈ11新規
9	九郎舘	城館跡	中世	古城字南上野	
10	寺ノ上	散布地	古代	古城字寺ノ上	Ｈ９新規
11	寺ノ上経塚	経塚	中世	古城字寺ノ上	Ｈ９新規
12	長者舘	城館跡	中世	古城字南上野	Ｈ９新規
13	高日向	散布地	弥生・平安	古城字高日向	Ｈ９新規
14	古城上野	散布地	縄文中期・古代	古城字寺領上野	Ｈ９範囲拡大
15	雷神Ⅱ	散布地	縄文中期	古城字横道前	Ｈ９位置変更
16	古城合ノ沢Ⅰ	集落跡？	縄文	古城字合ノ沢	Ｈ９新規
17	古城合ノ沢Ⅱ	散布地	縄文	古城字合ノ沢	Ｈ９新規
18	北舘	環濠屋敷跡	中世	古城字北舘	
19	北舘東Ⅰ	散布地	古代	古城字北舘東	
20	北舘東Ⅱ	散布地	縄文・古代	古城字北舘東	Ｈ９新規
21	舘合下	散布地	平安	古城字舘合下	Ｈ９範囲拡大
22	砂子田	散布地	古代	古城字砂子田	Ｈ９新規
23	林Ⅰ	散布地	古代	古城字林後（一部白山松ヶ林）	Ｈ９新規
24	林Ⅱ	散布地	古代	古城字林後	Ｈ９新規
25	中畑城（樫山城）	城館跡	中世	古城字水上西	
26	内ノ山	環濠屋敷跡	中世	古城字内ノ町	Ｈ９位置変更
27	寺領沖	散布地	古代	古城字寺領沖	
28	水尻	散布地	縄文・古代	古城字水尻	Ｈ９新規
29	古城方八丁	散布地	縄文・古代	古城字宿ノ前	
30	要害	散布地・環濠屋敷跡	古代・中世	古城字要害	
31	亀田	環濠屋敷跡	中世	古城字亀田	
32	上ノ台	環濠屋敷跡	中世	古城字上ノ台	
33	水ノ口	集落跡	縄文・平安	白山字水ノ口	Ｈ９範囲拡大
34	六日入	城館跡	古代・中世	白山字古舘	
35	檜葉田	散布地	平安	白山字檜葉田	Ｈ９新規
36	松葉	散布地	平安	白山字松葉	Ｈ９新規
37	学堂	散布地	平安	白山字学堂	Ｈ９新規
38	内屋敷	散布地	平安	白山字内屋敷	
39	合野	散布地	古代	白山字合野	Ｈ９位置変更
40	川岸場Ⅰ	散布地	縄文晩期・弥生・平安	白山字川岸場	
41	川岸場Ⅱ	集落跡・環濠屋敷跡	縄文晩期・弥生・平安・近世	白山字川岸場	
42	大室経塚	一字一石経塚	中世末	白山字川岸場	Ｈ９新規
43	白山上野	散布地	縄文後期	白山字上野	Ｈ９新規
44	小林繁長	散布地	縄文中期・晩期・弥生・平安	白山字小林・古宿	Ｈ９範囲拡大
45	上麻生城（大麻生柵）	城館跡	古代・中世	白山字舘	
46	田高Ⅰ	散布地	縄文	白山字田高・籠林	
47	田高Ⅱ	散布地・環濠跡	縄文前期・中期・古代・中世	白山字田高	
48	五輪経塚	経塚	平安末	白山字籠林	Ｈ11新規
49	八幡	散布地	縄文晩期	白山字八幡	Ｈ９新規
50	彼岸田	散布地	縄文・平安	白山字彼岸田	Ｈ11新規
51	迎畑	散布地	奈良・平安	白山字迎畑・宮内	Ｈ11新規
52	学堂Ⅱ	散布地	古代	白山字合野・学堂	Ｈ11新規
53	道上	散布地	古代	白山字道上	Ｈ11新規
54	川前	散布地	古代	白山字川前	Ｈ11新規
55	合ノ沢Ａ	散布地	縄文	字合ノ沢	Ｈ10範囲拡大
56	合ノ沢Ｂ	散布地	縄文	字合ノ沢	Ｈ10新規
57	永沢東	散布地	縄文	字永沢	
58	長根	散布地	縄文	字長根	Ｈ11位置変更
59	新城Ⅰ	城館跡	縄文・平安・中世	字新城	Ｈ11位置変更
60	新城Ⅱ	散布地	平安	字新城	Ｈ10新規

No.	遺跡名	遺跡の種別	時代	所在地	備考
61	新城Ⅲ	その他の墓	近世	字新城	H10新規
62	舞鶴公園	散布地	縄文中期・古代	字徳沢	
63	徳沢一里塚	一里塚	近世	字徳沢	
64	徳沢Ⅰ	散布地	縄文	字徳沢	H10新規
65	照井舘	散布地・城館跡	縄文・中世	字照井舘	H10範囲拡大
66	南陣場	散布地	縄文	字南陣場	H10新規
67	小沢口	散布地	縄文・平安	字小沢口・照井舘	H10範囲拡大
68	衣関	散布地	平安	字衣関	H10範囲拡大
69	白鳥舘	城館跡	古代・中世	字白鳥舘	
70	塔ヶ崎	寺院跡？	礎石？	字合ノ沢・泊ヶ崎	
71	泊ヶ崎	散布地	縄文・平安	字泊ヶ崎	
72	南陣場窯跡	窯跡	近代	字南陣場	H10新規
73	前沢城	城館跡	中世	字陣場	
74	三沢氏居館跡	城館跡	近世	字下小路	H10新規
75	専念寺山窯跡	窯跡	近世	字山下	H10新規
76	栗ヶ島	散布地・環濠屋敷跡	中世・近世	字新町裏	H10新規
77	阿部館	城館跡？	古代～中世	字阿部舘	
78	竹沢	集落跡	平安	字竹沢	H10範囲拡大
79	谷地	散布地	縄文	字谷地	H10新規
80	五合田	その他の墓	近世	字五合田	H10新規
81	目呂木本杉	散布地	古代	字本杉	
82	長壇高畑	散布地	平安	字長壇・高畑	H10新規
83	道場	散布地	縄文	字道場・宿	
84	大桜	集落跡	平安	字大桜・屋敷・赤面	H10範囲拡大
85	養ヶ森B	散布地	縄文	字養ヶ森	H10新規
86	養ヶ森C	散布地	縄文	字養ヶ森	H10新規
87	養ヶ森	集落跡	平安	字養ヶ森	H11位置変更
88	簾森	散布地	縄文	字簾森	H10新規
89	上ノ原	散布地	縄文	字養ヶ森	
90	狐石	散布地	縄文	字狐石	H10新規
91	赤坂Ⅰ	散布地	縄文	字赤坂	H10範囲拡大
92	赤坂Ⅱ	散布地	平安	字赤坂	H10新規
93	赤坂Ⅲ	散布地	縄文	字赤坂	旧清水沢
94	駒水	散布地	縄文	字駒水	H10新規
95	陣場	散布地	縄文	字陣場	H10新規
96	柳沢	散布地	縄文	生母字柳沢	H11新規
97	上水	散布地	縄文後期	生母字上水・吉田	H11新規
98	箱根	散布地	縄文	生母字箱根	旧笹森
99	青木	散布地	縄文後期・晩期	生母字青木・吉ヶ沢	
100	田谷	散布地	平安	生母字田谷	H11新規
101	生母長根Ⅰ	散布地・経塚？	縄文・平安末？	生母字長根	H11新規
102	生母長根Ⅱ	経塚？	平安末？	生母字長根	H11新規
103	気仙坊塚	その他の塚	近世	生母字長根	H11新規
104	生母宿	散布地・屋敷跡	旧石器・近世	生母字荒谷	
105	荒谷	散布地	弥生	生母字荒谷	H11新規
106	東舘（赤生津城）	城館跡	中世	生母字斉田	
107	硬水	散布地	縄文	生母字新地	H11新規
108	峠Ⅰ	散布地	縄文	生母字峠	H11新規
109	蓑輪	散布地	縄文前期・中期	生母字蓑輪	H11新規
110	日向	散布地	縄文	生母字日向	H11新規
111	羽場舘	城館跡	中世	生母字羽場	
112	竹ノ内	散布地	縄文	生母字竹ノ内	H11新規
113	古舘	城館跡	中世	生母字剣林	



第６図　調査区及びグリッド設定図

第２表　グリット・旧国土座標第Ｘ系対照表

横グリット		Y座標（＝＋）		
Ⅰ	6	25585	～	25589
	7	25590	～	25594
	8	25595	～	25599
	9	25600	～	25604
	10	25605	～	25609
	11	25610	～	25614
	12	25615	～	25619
	13	25620	～	25624
	14	25625	～	25629
	15	25630	～	25634
	16	25635	～	25639
	17	25640	～	25644
	18	25645	～	25649
	19	25650	～	25654
	20	25655	～	25659
Ⅱ	1	25660	～	25664
	2	25665	～	25669
	3	25670	～	25674
	4	25675	～	25679
	5	25680	～	25684
	6	25685	～	25689
	7	25690	～	25694

横グリット		Y座標（＝＋）		
Ⅱ	8	25695	～	25699
	9	25700	～	25704
	10	25705	～	25709
	11	25710	～	25714
	12	25715	～	25719
	13	25720	～	25724
	14	25725	～	25729
	15	25730	～	25734
	16	25735	～	25739
	17	25740	～	25744
	18	25745	～	25749
	19	25750	～	25754
	20	25755	～	25759
Ⅲ	1	25760	～	25764
	2	25765	～	25769
	3	25770	～	25774
	4	25775	～	25779
	5	25780	～	25784
	6	25785	～	25789
	7	25790	～	25794
	8	25795	～	25799
	9	25800	～	25804

横グリット		Y座標（＝＋）		
Ⅲ	10	25805	～	25809
	11	25810	～	25814
	12	25815	～	25819
	13	25820	～	25824
	14	25825	～	25829
	15	25830	～	25834
	16	25835	～	25839
	17	25840	～	25844
	18	25845	～	25849
	19	25850	～	25854
	20	25855	～	25859
Ⅳ	1	25860	～	25864
	2	25865	～	25869
	3	25870	～	25874
	4	25875	～	25879
	5	25880	～	25884
	6	25885	～	25889
	7	25890	～	25894
	8	25895	～	25899
	9	25900	～	25904
	10	25905	～	25909
	11	25910	～	25914

横グリット		Y座標（＝＋）		
Ⅳ	12	25915	～	25919
	13	25920	～	25924
	14	25925	～	25929
	15	25930	～	25934
	16	25935	～	25939
	17	25940	～	25944
	18	25945	～	25949
	19	25950	～	25954
	20	25955	～	25959
Ⅴ	1	25960	～	25964
	2	25965	～	25969
	3	25970	～	25974
	4	25975	～	25979
	5	25980	～	25984
	6	25985	～	25989
	7	25990	～	25994
	8	25995	～	25999
	9	26000	～	26004
	10	26005	～	26009
	11	26010	～	26014
	12	26015	～	26019
	13	26020	～	26024

縦グリット		X座標（＝－）		
A	a	101200	～	101204
	b	101205	～	101209
	c	101210	～	101214
	d	101215	～	101219
	e	101220	～	101224
	f	101225	～	101229
	g	101230	～	101234
	h	101235	～	101239
	i	101240	～	101244
	j	101245	～	101249
	k	101250	～	101254
	l	101255	～	101259
	m	101260	～	101264
	n	101265	～	101269
	o	101270	～	101274
	p	101275	～	101279
	q	101280	～	101284
	r	101285	～	101289
	s	101290	～	101294
	t	101295	～	101299

縦グリット		X座標（＝－）		
B	a	101300	～	101304
	b	101305	～	101309
	c	101310	～	101314
	d	101315	～	101319
	e	101320	～	101324
	f	101325	～	101329
	g	101330	～	101334
	h	101335	～	101339
	i	101340	～	101344
	j	101345	～	101349
	k	101350	～	101354
	l	101355	～	101359
	m	101360	～	101364
	n	101365	～	101369
	o	101370	～	101374
	p	101375	～	101379
	q	101380	～	101384
	r	101385	～	101389
	s	101390	～	101394
	t	101395	～	101399

縦グリット		X座標（＝－）		
C	a	101400	～	101404
	b	101405	～	101409
	c	101410	～	101414
	d	101415	～	101419
	e	101420	～	101424
	f	101425	～	101429
	g	101430	～	101434
	h	101435	～	101439
	i	101440	～	101444
	j	101445	～	101449
	k	101450	～	101454
	l	101455	～	101459
	m	101460	～	101464
	n	101465	～	101469
	o	101470	～	101474
	p	101475	～	101479
	q	101480	～	101484
	r	101485	～	101489
	s	101490	～	101494
	t	101495	～	101499

縦グリット		X座標（＝－）		
D	a	101500	～	101504
	b	101505	～	101509
	c	101510	～	101514
	d	101515	～	101519
	e	101520	～	101524

※各グリットにおける
旧国土座標（第Ｘ系）値

単位：メートル

Ⅲ　調査と整理の方法

1　野外調査

(1)　グリッドの設定（第6図）

今後調査が予想される東側区域をカバーできるように、旧国土座標第Ｘ系に合わせて座標設定及びグリッドの設定を行った。今回調査を行った最西北端を始点とし、100m間隔ごとに東西にＩからＶまで、南北にＡからＤまでを設置した。さらにそれぞれを20等分し、５m間隔ごとＹ軸方向に１～20まで、Ｘ軸方向にａ～ｔまでのグリットを組んだ。

また、調査区は南北に約300m、東西に約400mと広範囲にわたるため、A'～F'区の６区に分けた。

基準杭の位置は基１がＸ＝－101245.000m・Ｙ＝26020.000m、基２がＸ＝－101500.000m・Ｙ＝25910.000mで、それぞれC'～F'区、A'・B'区の基準に用いた。また、各区域ごとに３～６カ所、合計19カ所の補助杭を設置し、広範囲に渡る調査範囲をカバーできるように設置した。

各基準杭、各補助杭における旧国土座標第Ｘ系の位置は下表の通りである。

区域	杭名	X座標(m)	Y座標(m)	区域	杭名	X座標(m)	Y座標(m)
A'	補14	-101460.000	25610.000		補5-2	-101275.000	25910.000
	補13	-101460.000	25660.000	D'	補１	-101230.000	25920.000
	補12	-101470.000	25660.000		補２	-101230.000	25950.000
	補11	-101470.000	25710.000		補2-1	-101245.000	25950.000
	補10	-101480.000	25710.000		補3-2	-101245.000	25995.000
	補９	-101480.000	25755.000	E'	基１	-101245.000	26020.000
B'	補８	-101500.000	25810.000		補３	-101275.000	26015.000
	補8-1	-101500.000	25840.000	F'	補４	-101365.000	26005.000
	基２	-101500.000	25910.000		補６	-101500.000	25960.000
C'	補５	-101360.000	25910.000		補７	-101500.000	25995.000
	補5-1	-101365.000	25910.000				

基準杭及び補助杭の旧国土座標Ｘ系における位置

(2)　粗掘りと遺構検出

調査にあたり、岩手県教育委員会生涯学習文化課による事前調査を参考にして再度試掘を行い、表土の深さ、遺構検出面までの土層の状況を確認した。その結果、調査区全域が平坦で、層序も比較的単純なことから、遺構検出面の十数cm上まで重機（バックホー）で粗堀を行った。その後、順次人力による鋤簾掛けを行い遺構を検出をしていった。

(3)　遺構の命名について

報告書作成にあたっては、遺構の種類ごとに下記の記号を用いた。また、各地区における遺構の一覧を第３表に示すが、欠番になっているものは整理作業の過程で遺構としての認定から除外したものである。

竪穴住居跡：ＳＩ　　竪穴状遺構：ＳＫＩ　　土坑：ＳＫ　　溝跡：ＳＤ
その他（陥し穴、柱穴群、粘土採掘場）：ＳＸ

第3表　各地区における遺構一覧表

区域	遺　構　名	遺　構　名	遺　構　名	遺　構　名
A'区	ＳＫＩ01竪穴状遺構	ＳＫ04土坑	ＳＸ01陥し穴	ＳＤ01溝
	ＳＫＩ02竪穴状遺構	ＳＫ05土坑	ＳＸ02陥し穴	ＳＤ02溝
	ＳＫ01土坑	ＳＫ06土坑	ＳＸ04陥し穴	
	ＳＫ02土坑	ＳＫ09土坑	ＳＸ05陥し穴	
B'区	ＳＫＩ03竪穴状遺構	ＳＫ15土坑	ＳＤ04溝	ＳＤ27溝
	ＳＫ11土坑	ＳＫ16土坑	ＳＤ05溝	ＳＤ65溝
	ＳＫ12土坑	ＳＸ03陥し穴	ＳＤ06溝	ＳＤ66溝
	ＳＫ13土坑	ＳＤ03溝	ＳＤ26溝	
C'区	ＳＫ17土坑	ＳＤ08溝	ＳＤ11溝	ＳＤ14溝
	ＳＫ18土坑	ＳＤ09溝	ＳＤ12溝	ＳＤ25溝
	ＳＤ07溝	ＳＤ10溝	ＳＤ13溝	ＳＸ10掘立柱状柱穴群
D'区	ＳＩ01竪穴住居	ＳＤ17溝	ＳＤ21溝	ＳＸ11粘土採掘場
	ＳＩ02竪穴住居	ＳＤ18溝	ＳＤ22溝	
	ＳＤ15溝	ＳＤ19溝	ＳＤ23溝	
	ＳＤ16溝	ＳＤ20溝	ＳＤ24溝	
E'区	ＳＩ03竪穴住居	ＳＫ31土坑	ＳＤ36溝	ＳＤ48溝
	ＳＩ04竪穴住居	ＳＸ06陥し穴	ＳＤ41溝	ＳＤ49溝
	ＳＩ05竪穴住居	ＳＸ07陥し穴	ＳＤ42溝	ＳＤ50溝
	ＳＫＩ04竪穴状遺構	ＳＤ31溝	ＳＤ43溝	ＳＤ51溝
	ＳＫ21土坑	ＳＤ32溝	ＳＤ44溝	ＳＸ08陥し穴
	ＳＫ22土坑	ＳＤ33溝	ＳＤ45溝	
	ＳＫ24土坑	ＳＤ34溝	ＳＤ46溝	
	ＳＫ27土坑	ＳＤ35溝	ＳＤ47溝	
F'区	ＳＫＩ05竪穴状遺構	ＳＤ53溝	ＳＤ58溝	ＳＤ64溝
	ＳＫ28土坑	ＳＤ54溝	ＳＤ59溝	ＳＸ12複合窯
	ＳＫ29土坑	ＳＤ55溝	ＳＤ60溝	
	ＳＫ30土坑	ＳＤ56溝	ＳＤ62溝	
	ＳＤ52溝	ＳＤ57溝	ＳＤ63溝	

(4)　遺構の精査と実測・遺物の採り上げ

遺構は、土層断面及び平面を実測と写真撮影で記録した。土層の断面は、住居状のものは4分法、土坑及び溝跡は2分法、大きな溝跡は複数本のベルトを組んで記録をとった。

遺物は遺構に伴うものは遺構名と出土層位を、遺構外のものはグリット名を記入して採り上げた。

(5)　写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7㎝判カメラ（白黒）と35㎜判カメラ（白黒・カラーリバーサルフィルム）を使用した。また、ポラロイドカメラをフィールドカード作成等のメモ的な用途に併用した。撮影にあたっては、撮影内容を記載した「撮影カード」を対象物を撮る前に撮影し、アルバム整理を行いやすくした。

調査終了時には航空写真撮影を行ったが、A'～D'区はすでに工事に取り掛かっており、明後沢遺跡群の遠景写真とE'・F'区の撮影となった。

2　室内整理

(1)　遺　物

遺物の処理は、遺物の仕分け・注記・登録と平行して接合・復元をし、写真撮影を行った。その後、実測・トレース・拓本作製を行った。

土器の実測は原則として、反転実測が可能なものと、一部には破片実測も併せて掲載した。遺物写真の番号は遺物図版の番号と一致しており、掲載遺物の縮尺率については３分の１を原則としてスケールを付した。

遺物写真の縮尺は、２分の１および４分の１で掲載している。

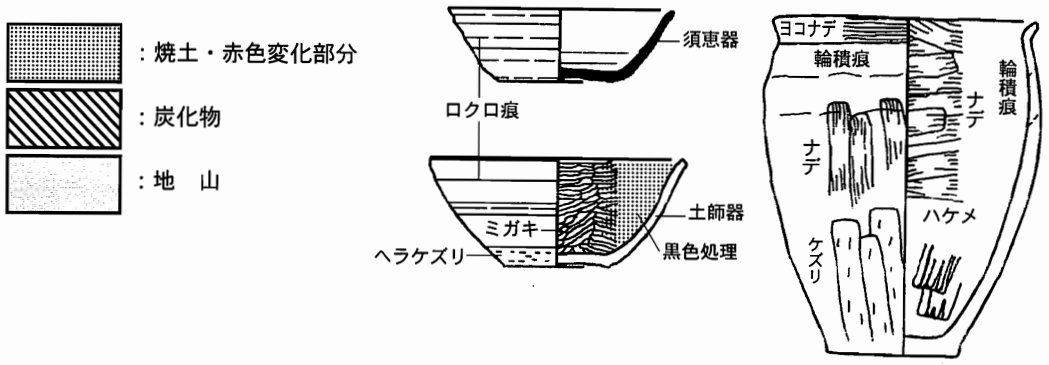
(2)　遺　構

遺構図版は、発掘調査時に20分の１もしくは40分の１で作成した平面図をさらに２分の１に、大型の遺構においては2.5分の１もしくは３分の１に縮小した。各遺構図版にはそれぞれスケールを付しいる。縮小により断面図が不鮮明になるものは、平面図の２倍の縮尺で掲載している図面もある。

平面図における方位は原則として上を北、もしくは左を北にしている。

(3)　凡　例

実測図版中の遺構分布図や土器の調整方法等については、次の凡例に示すとおりである。



第７図　凡例

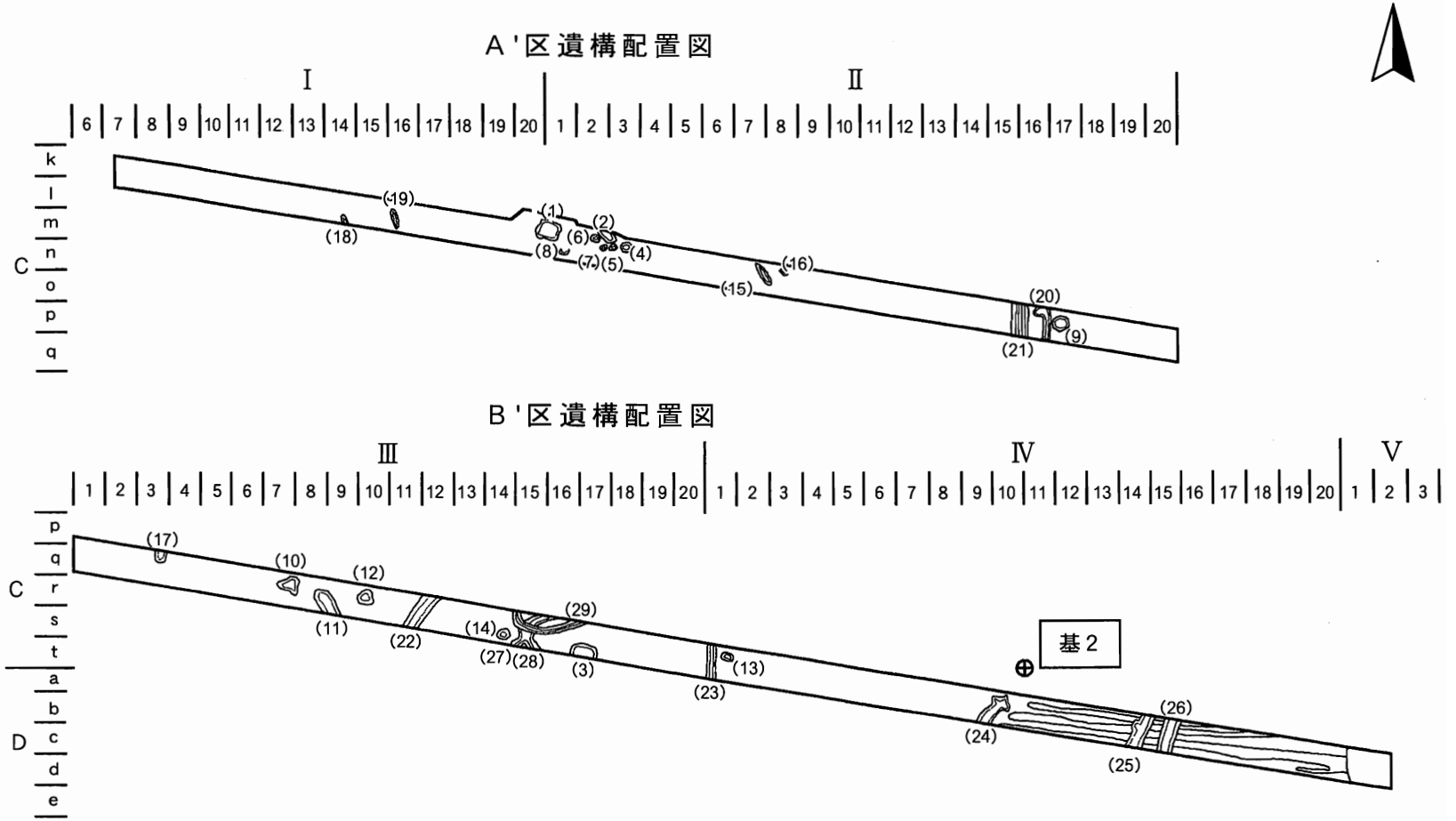
＜参考・引用文献＞

国土地図株式会社　　表層地質図（水沢）

前沢町教育委員会1997「田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書」『岩手県前沢町文化財調査報告書第４集』

前沢町教育委員会1998「町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ古城・白山地区」『岩手県前沢町文化財調査報告書第６集』

前沢町教育委員会2000「前沢町遺跡地図」『岩手県前沢町文化財調査報告書第11集』



（1）SKI01竪穴状　（5）SK02土坑　（9）SK09土坑　（13）SK15土坑　（17）SX03陥し穴　（21）SD02溝　（25）SD26溝　（29）SD65溝
（2）SKI02竪穴状　（6）SK04土坑　（10）SK11土坑　（14）SK16土坑　（18）SX04陥し穴　（22）SD03溝　（26）SD27溝
（3）SKI03竪穴状　（7）SK05土坑　（11）SK12土坑　（15）SX01陥し穴　（19）SX05陥し穴　（23）SD04溝　（27）SD05溝
（4）SK01土坑　（8）SK06土坑　（12）SK13土坑　（16）SX02陥し穴　（20）SD01溝　（24）SD66溝　（28）SD06溝

第８図　A'・B'区遺構配置図

Ⅳ　検出した遺構と遺物

本遺跡群に含まれる明後沢遺跡は、古瓦が出土する遺跡として知られており、その理由として諸処の仮説が立てられている。今回の調査は、明後沢遺跡の北東に位置する幅遺跡を行ったものである。

遺構は、平安時代前期の住居跡５棟と60条近くの溝跡（近・現代のも含む）や多くの土坑類、柱穴状土坑群のほか縄文時代と思われる溝状の陥し穴を数基検出している。

遺物の出土量は少ないが、縄文土器・石器、平安時代の土師器、須恵器（坏・甕）、古瓦、12世紀頃のかわらけが少数出土している。

１　A′・B′区（第８図）

（１）ＳＫＩ01竪穴状遺構（第９図、写真図版３）

＜位　置＞　ⅡＣ－１ｎグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸2.9m、短軸2.5m。壁高10～11cmで、四辺ともやや緩やかに立ち上がる。

＜平面形＞　隅丸方形を呈しており、南西隅に膨みを伴う。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　床は平坦で全面に炭化物が点在し、特に東および南側からまとまって検出している。西側壁面近くの焼土はカマド跡とも考えられるが、芯材及び抜き取り穴、煙道は検出していない。

出土品がないので時期を推定できないが、炭化物の保存状態は非常に良い。

（２）ＳＫＩ02竪穴状遺構（第９図、写真図版３）

＜位　置＞　ⅡＣ－３ｎグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸不明、短軸1.5m。壁高35～50cmで、床面までかなり深い。

＜平面形＞　調査区外にかかっているのではっきりとした形は分からないが、検出部分で見るとひし形に近い。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　焼土および炭化物は検出していない。壁面及び床面に凹凸があり、粘土採掘場もしくは木根痕の可能性が高い。

（３）ＳＫＩ03竪穴状遺構（第９図、写真図版３）

＜位　置＞　ⅢＤ－17ａグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸1.9m、短軸不明。壁高20cmで、やや外傾気味に立ち上がる。

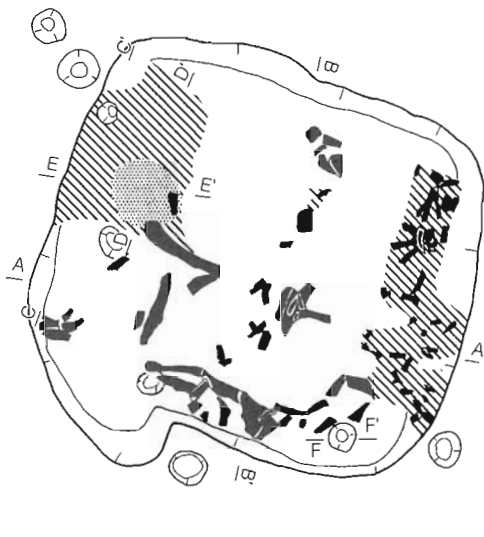
＜平面形＞　調査区外に一部かかっているのではっきりとした形は分からないが、検出部分で見ると隅丸方形を呈している。壁の向きはＳＫＩ01竪穴状遺構とほぼ同じである。

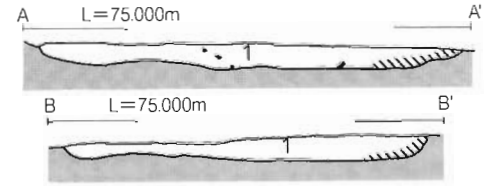
＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　床面は平坦である。壁づたいに炭化物、西側の床面に0.25㎡ほどの広さで焼土と炭化物が混在した土を検出している。

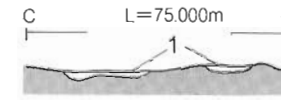
遺物がなく時期を推定できないが、炭化物の保存状態からＳＫＩ01竪穴状と同じ頃の遺構と考えられる。

SKI01竪穴状遺構

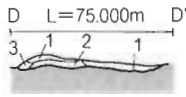




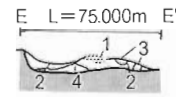
SKI01 A－A'・B－B'
1．10YR 2/3 黒褐色　砂質シルト　しまり強
炭化物を５％、上位に10YR3/4暗褐色シルトを５％含む



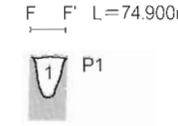
SKI01 C－C'
1．10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト　しまり中
炭化物を１％含む



SKI01 D－D'
1．10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト　しまりなし
炭化物を50％含む
2．10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト　しまり強
炭化物を30％、焼土粒を５％含む
3．10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト　しまり強
炭化物を10％、10YR6/6明黄褐色粘土を粒状に50％含む

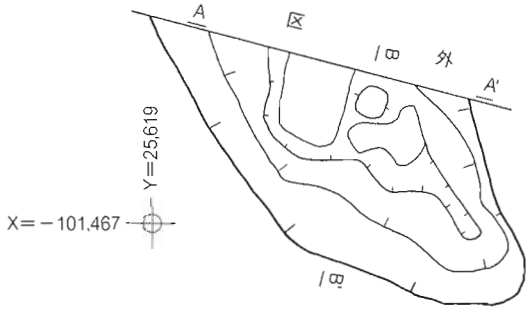


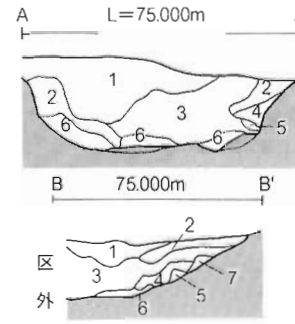
SKI01 E－E'
1．10YR 6/8 明黄褐色　焼土　しまりなし
2．10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト　しまりなし
炭化物を50％含む
3．10YR 4/4 褐色　シルト　しまり中
炭化物を50％含む
4．10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト　しまり強
炭化物を30％、焼土を粒状に５％含む



SKI01 P1F－F'
1．10YR 2/2 黒褐色　砂質シルト　しまり中

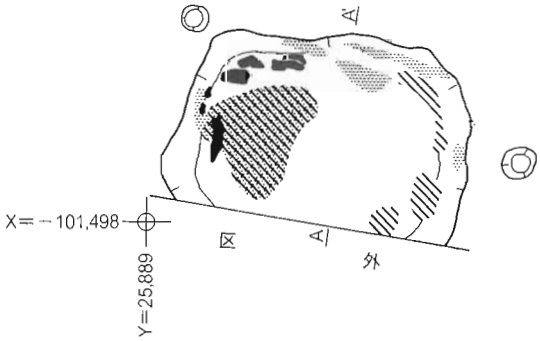
SKI02竪穴状遺構

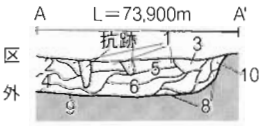


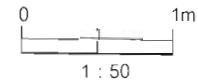


SKI02 A－A'・B－B'
1．10YR 2/3 黒褐色　シルト　しまりなし
やや粘性あり
2．10YR 2/3 黒褐色　シルト　しまり中
粘性あり
3．10YR 2/2 黒褐色　シルト　しまりなし
やや粘性あり　砂粒を少量含む
4．10YR 2/2 黒褐色　シルト　しまり中
粘性あり　砂粒を含む
5．10YR 3/4 暗褐色　シルト　しまり中
粘性あり
6．10YR 3/4暗褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合
しまりなし
7．10YR 6/8 明黄褐色　粘土　しまり中

SKI03竪穴状遺構

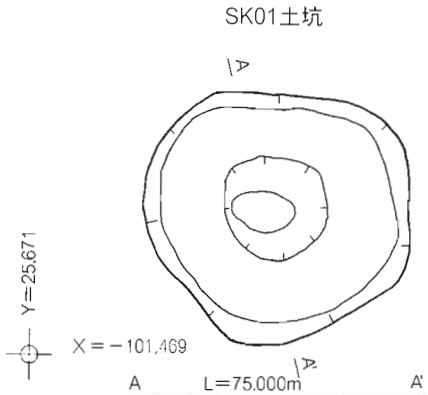




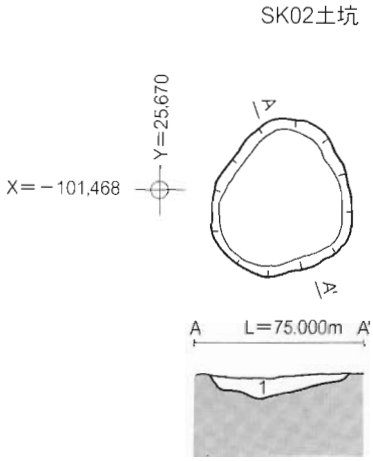


SKI03
1．10YR 2/3 黒褐色　砂質シルト　しまり中　灰白色土を５％含む
2．10YR 2/3 黒褐色　シルト　しまり中　やや粘性あり
3．10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト　しまり中
4．10YR 3/4 暗褐色　粘性シルト　しまり中
5．10YR 3/2 黒褐色　シルト　しまり中　やや粘性あり　炭化物を30％含む
6．10YR 3/2 黒褐色　シルト　しまり弱　炭化物を10％、焼土粒を５％含む
7．10YR 3/2 黒褐色　シルト　しまり弱　炭化物を５％、焼土粒を10％含む
8．10YR 4/4 褐色　砂質シルト　しまりなし　下部にブロック状焼土を含む
9．10YR 4/4 褐色　シルト　しまりなし　やや粘性あり
10．10YR 4/4 褐色　砂質シルト　しまりなし

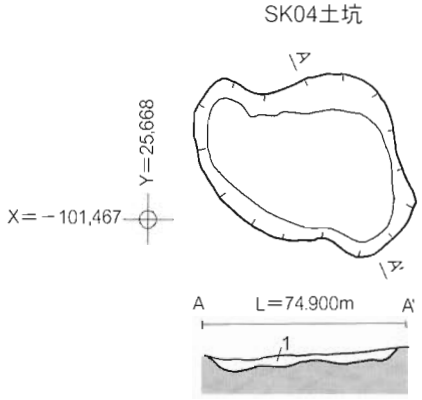
第９図　SKI01･02･03竪穴状遺構



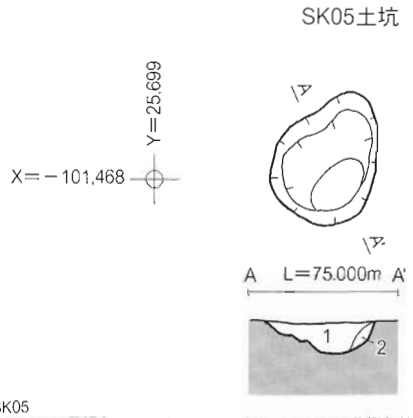
SK01
1．10YR2/3黒褐色　シルト　しまり中
2．10YR4/4褐色　粘土　しまり中



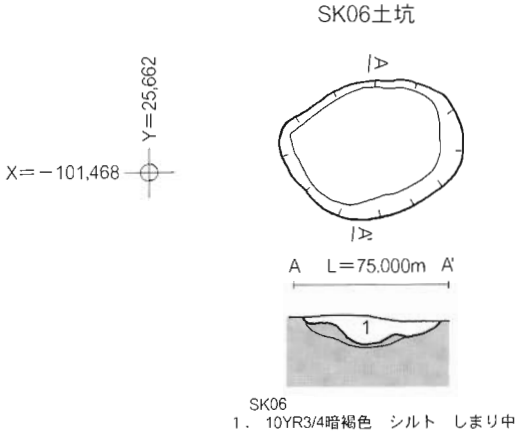
SK02
1．10YR2/3黒褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合　しまり中



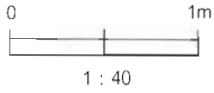
SK04
1．10YR4/6褐色　粘性シルト　しまり中　木根を少量含む

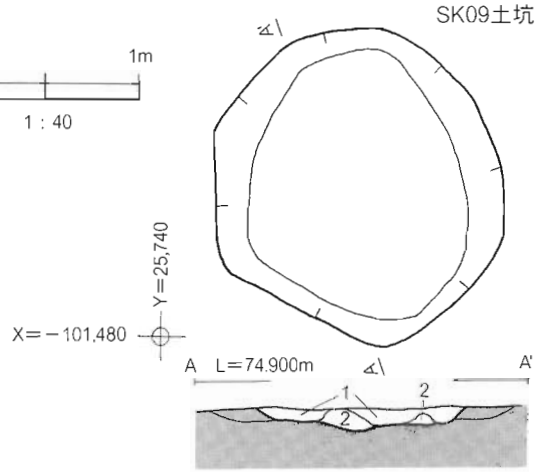


SK05
1．10YR2/3黒褐色　シルト　しまりなし　10YR5/8黄褐色粘土を10%含む
2．10YR5/8黄褐色　粘土　しまり中　10YR2/3黒褐色シルトを５%含む



SK06
1．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり中





SK09
1．10YR4/4褐色　シルト　しまり中　砂を若干含む
2．10YR5/8黄褐色　粘土　しまり中　（壁の崩落）

第10図　SK01･02･04･05･06･09土坑

土坑関係（第10・11図、写真図版３～６）

A'・B'区からは11基の土坑を検出している。ＳＫ02土坑は埋土の状態が比較的新しく、近・現代に造られた可能性が高い。それ以外の土坑は出土遺物もなく、時期不明である。

各土坑の規模・形態を次表に示す。

A'・B'区の土坑（ＳＫ）一覧

区	(No)遺構名	グリット位置	直径cm	深さcm	形　態	埋　土	備　考
A'区	(４)SK01	ⅡＣ-３ｎ	140×140	35	ほぼ円形	シルトと粘土の２層	時期不明
	(５)SK02	ⅡＣ-３ｎ	84× 75	10	三角形	黒褐色シルトの単層	近・現代
	(６)SK04	ⅡＣ-２ｎ	125× 95	7	不整な楕円形	褐色シルトの単層	時期不明
	(７)SK05	ⅡＣ-３ｎ	72× 55	16	不整な楕円形	シルトと粘土の２層	時期不明
	(８)SK06	ⅡＣ-１ｎ	95× 72	16	楕円形	暗褐色シルトの単層	時期不明
	(９)SK09	ⅡＣ-17ｐ	166×150	12	やや楕円形	褐色シルトの単層	時期不明
B'区	(10)SK11	ⅢＣ-７ｒ	156× 98	24	凸形	暗褐色土と褐色土２層	時期不明
	(11)SK12	ⅢＣ-８ｓ	？× 55	16	細長い楕円	褐色シルト２層	時期不明
	(12)SK13	ⅢＣ-10ｓ	100× 74	34	長方形	褐色土と暗褐色土２層	時期不明
	(13)SK15	ⅣＣ-１ｔ	118× 68	15	楕円形	暗褐色土の単層	時期不明
	(14)SK16	ⅢＣ-15ｔ	130× 85	35	不整な楕円形	３層に分かれる	時期不明

※径が？なのは、遺構が調査区外にかかっている為である。また、深さは地山の面を基準としている。

（15）**ＳＸ01陥し穴**（第12図、写真図版６）

＜位　置＞　ⅡＣ－８ｃグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸2.93m、短軸50cm、深さ50～98cmである。

＜平面形＞　細長い楕円形を呈しており、長軸はＮＮＷ－ＳＳＥを向いている。

＜埋　土＞　古代以前の埋土と思われる暗褐色粘土を２層目に含む３層に大別される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　底面が凸状で、長軸の両サイドが中央より40～50cmほど深い。短軸方向の断面形状は上部が広がった漏斗状を呈している。

（16）**ＳＸ02陥し穴**（第12図、写真図版６）

＜位　置＞　ⅡＣ－８ｏグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸1.15m、短軸30cm、深さ20cm前後である。

＜平面形＞　細長い楕円形を呈しており、長軸はＮＮＷ－ＳＳＥを向いている。

＜埋　土＞　古代以前の埋土と思われる暗褐色シルトを１層目に含む３層に大別される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＸ01陥し穴の東側に２ｍほどの間隔で並んでいる。上部が削られているため深さはあまりないが、埋土の状態や位置・方向からＳＸ01と同時期に造られた陥し穴と考えられる。

（17）**ＳＸ03陥し穴**（第12図、写真図版６）

＜位　置＞　ＩＣ－14ｍグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸不明、短軸50㎝、深さ90㎝前後である。

＜平面形＞　検出部で見ると南北方向を向いた楕円形を呈している。

＜埋　土＞　基本層のⅡ層目に近い黒色シルトを主体とする４層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　短軸方向の断面の形状は漏斗状を呈しており、地山面の下30㎝あたりから急に狭くなっている。

（18）**ＳＸ04陥し穴**（第12図、写真図版７）

＜位　置＞　ＩＣ－16ｍグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸不明、短軸30㎝、深さ50㎝前後である。

＜平面形＞　検出部の形状は南北に延びた細長い楕円形を呈している。

＜埋　土＞　古代以前の埋土と思われる暗褐色シルトを上半部に含む３層に大別される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　底部の北側が上場より奥に入り込んでおり、長軸方向の断面形状は台形になる。

（19）**ＳＸ05陥し穴**（第12図、写真図版７）

＜位　置＞　ⅢＣ－３ｑグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸2.28ｍ、短軸36㎝、深さ80㎝前後である。

＜平面形＞　南北に細長い楕円形を呈している。

＜埋　土＞　暗褐色シルトを上層と下層に含む４層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　断面の形状が下方途中から狭くなる。長軸の方向がＳＸ04陥し穴と同じで埋土の状態も似ており、同時期に造られたと考えられる。

（20）**ＳＤ01溝**（第13図、写真図版７）

＜位置･走行＞　ⅡＣ－16ｐグリットに位置し、南北に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅60～80㎝、深さ15～34㎝である。

＜断面形＞　南側は浅い皿状を呈しているが、北に向かうに従って深くなっていく。

＜埋　土＞　不明。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　北側調査区外の手前で西側に折れ曲がっており、平面の形が逆Ｊ字状を呈している。

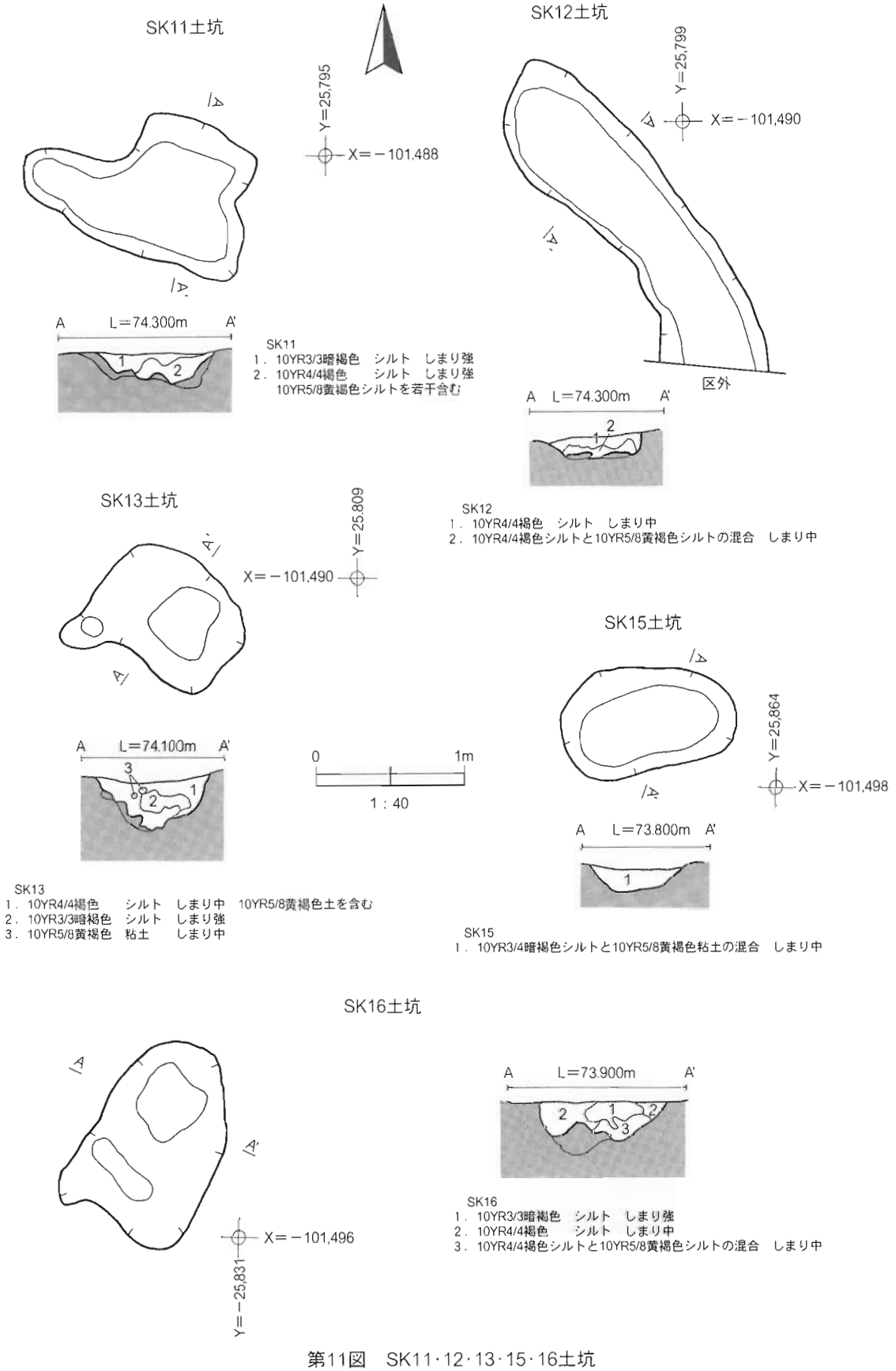
（21）**ＳＤ02溝**（第13図、写真図版７）

＜位置･走行＞　ⅡＣ－15ｐグリットに位置し、南北に延びている。

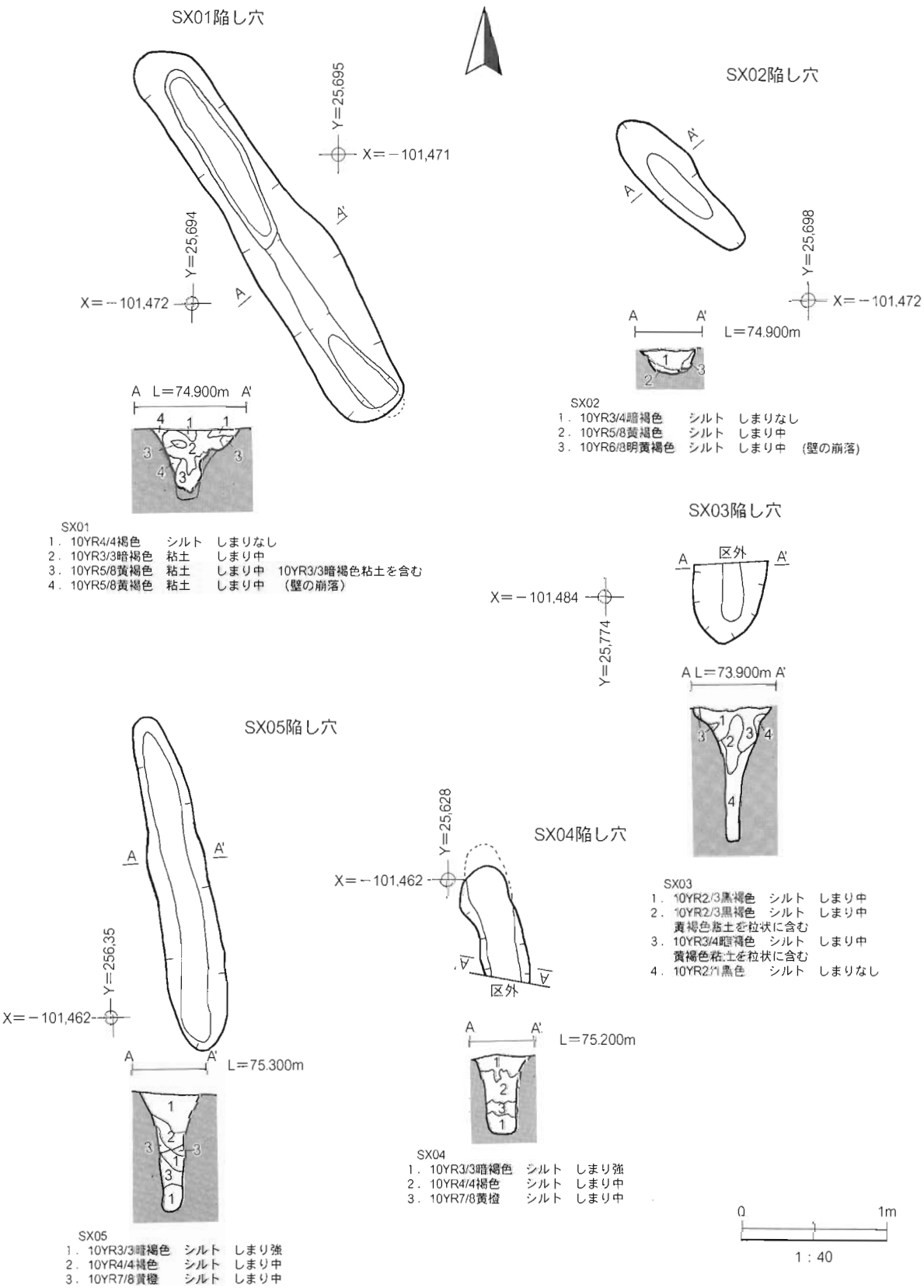
＜規　模＞　全長不明、幅2.0～2.4ｍ、深さ65～75㎝である。

＜断面形＞　上部が広がったＶ字形を呈している。西側の面に若干の凹凸がみられる。

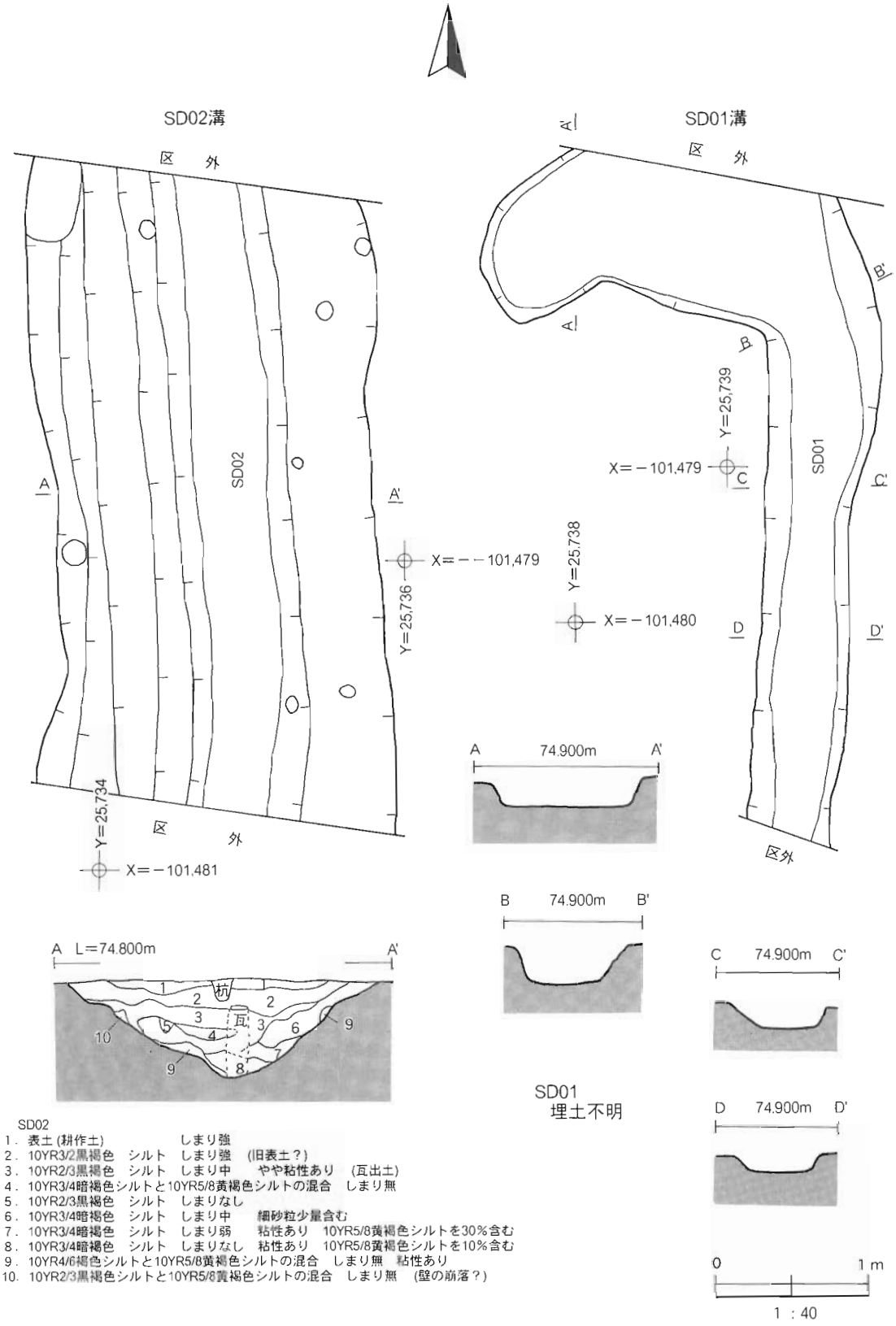
＜埋　土＞　10層に細分される。表土の杭跡以外は自然堆積と思われる。



第11図　SK11·12·13·15·16土坑

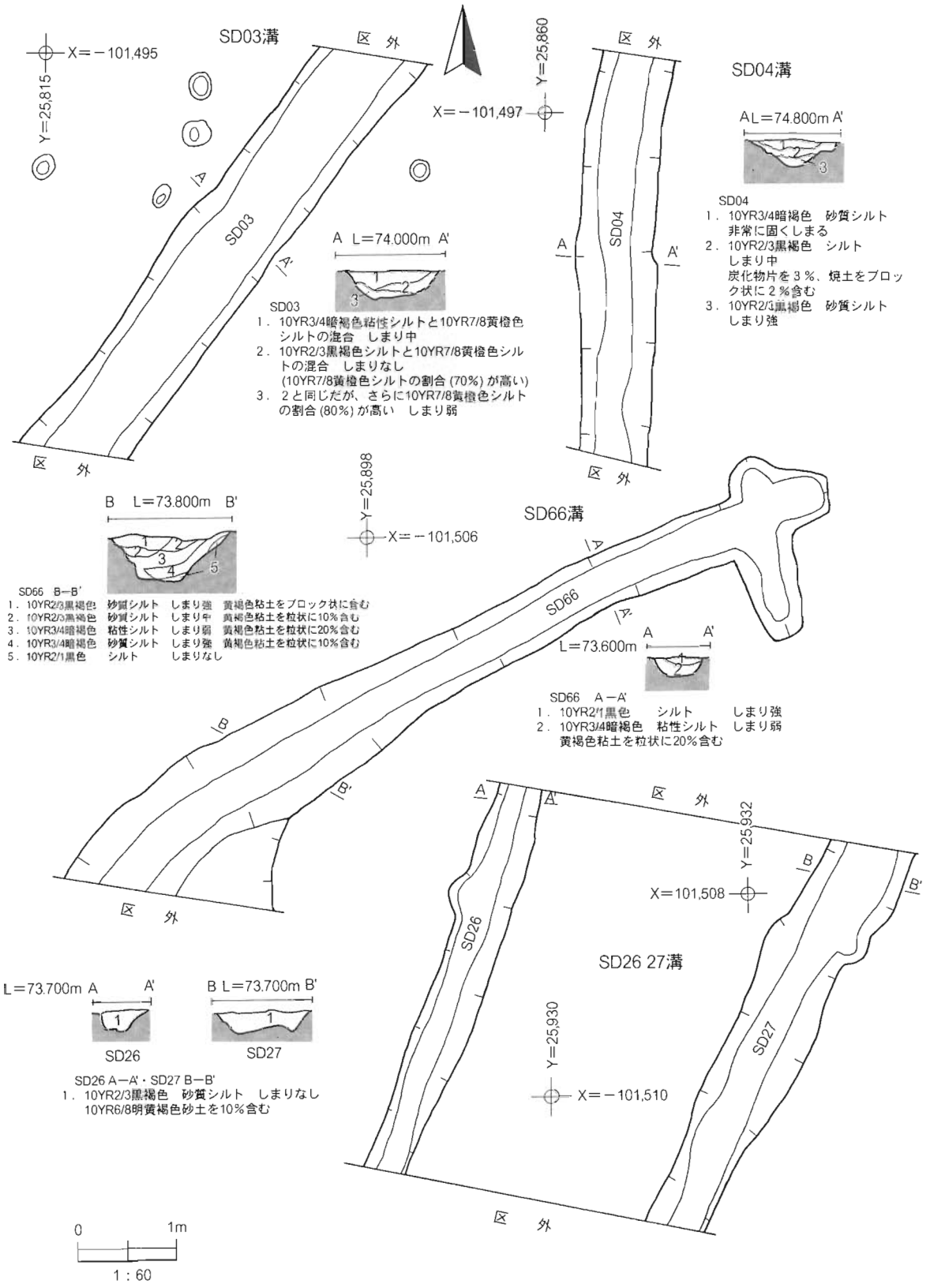


第12図　SX01·02·03·04·05陥し穴



SD02
1．表土（耕作土）　しまり強
2．10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　（旧表土？）
3．10YR2/3黒褐色　シルト　しまり中　やや粘性あり　（瓦出土）
4．10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合　しまり無
5．10YR2/3黒褐色　シルト　しまりなし
6．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり中　細砂粒少量含む
7．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり弱　粘性あり　10YR5/8黄褐色シルトを30％含む
8．10YR3/4暗褐色　シルト　しまりなし　粘性あり　10YR5/8黄褐色シルトを10％含む
9．10YR4/6褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合　しまり無　粘性あり
10．10YR2/3黒褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合　しまり無　（壁の崩落？）

第13図　SD01･02溝



第14図　SD03·04·66·26·27溝

＜遺　物＞　２層下（旧表土下）から古瓦片が２点（１・２）と、甕の体部とみられる須恵器片が１点（３）出土している。
＜特　徴＞　今回の調査で検出した溝の中では、最も規模が大きい。古瓦片や須恵器片が出土しており、古代に造られた可能性が高い。調査区の幅が狭いため全体像がつかめずその用途は分からない。

（22）**ＳＤ03溝**（第14図、写真図版８）
＜位置･走行＞　ⅢＣ－12ｔグリットに位置し、ＮＮＥ－ＳＳＷ方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅90㎝前後、深さ20～30㎝である。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　暗褐色粘性シルトもしくは黒褐色シルトと黄橙色シルトの混合土を主体とする３層に大別される。
＜遺　物＞　埋土中位からロクロ成形されたかわらけ片（４）が出土している。
＜特　徴＞　底部は平坦で、上場・下場もほぼ並行に延びている。出土遺物からは12世紀頃に造られた遺構と考えられる。

（23）**ＳＤ04溝**（第14図、写真図版８）
＜位置･走行＞　ⅣＤ－１ａグリットに位置し、南北にまっすぐ延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅70～85㎝、深さ15～20㎝である。
＜断面形＞　全面にわたって広がったＶ字状を呈している。
＜埋　土＞　３層に大別される。２層目に炭化物と焼土を含んでいる。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　上部が削られており深さはあまりない。底部が平坦で、上場・下場ともほぼ並行に延びている。

（24）**ＳＤ66溝**（第14図、写真図版８）
＜位置･走行＞　ⅣＤ－８ｂグリットに位置し、ＥＥＮ－ＷＷＳ方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.6～1.0ｍ、深さ15～50㎝である。
＜断面形＞　底が平坦な皿状を呈している。
＜埋　土＞　北側の断面は２層、南側の断面は５層に細分される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　底部が凹凸で部分的に深くなっており、北東端で溝が切れている。先端の十字状になっている部分は、土坑との重複と考えられる。

（25）**ＳＤ26溝**（第14図、写真図版８）
＜位置･走行＞　ⅣＤ－14ｃグリットに位置し、ＮＮＥ－ＳＳＷ方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.4～0.65ｍ、深さ20～35㎝である。
＜断面形＞　不整な皿状を呈している。
＜埋　土＞　黒褐色シルトに黄褐色砂質シルトが混入した単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　底部や側部にやや凹凸が見られる。

（26）**ＳＤ27溝**（第14図、写真図版９）

＜位置･走行＞　ⅣＤ－15ｃグリットに位置し、ＮＮＥ－ＳＳＷの方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅60～85㎝、深さ15～30㎝である。

＜断面形＞　不整なＵ字形を呈している。

＜埋　土＞　黒色土に砂質の黄褐色土が混入した単層である。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ26溝と走行が同じで埋土の状態が類似しており、同じ頃に造られたと考えられる。

（27）**ＳＤ05溝**（第15図、写真図版９）

＜位置･走行＞　ⅢＣ－16ｓグリットに位置し、ＥＥＮ－ＷＷＳの方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅0.5～0.7ｍ、深さ15～20㎝である。

＜断面形＞　浅い皿状を呈している。

＜埋　土＞　５層に細分される。Ｂ－Ｂ'の断面から判断して、ＳＤ65溝より新しい。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ06溝と直行するように交わっており、２つの溝に何らかの繋がりが考えられる。

（28）**ＳＤ06溝**（第15図、写真図版９）

＜位置･走行＞　ⅢＣ－16ｓグリットに位置し、ＮＮＥ－ＳＳＷの方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅60～70㎝、深さ20㎝前後である。

＜断面形＞　やや深めのＵ字形を呈している。

＜埋　土＞　３層に大別される。Ｃ－Ｃ'の断面から判断して、ＳＤ65溝より新しい。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ05溝と直交している。深さ及び幅はＳＤ05溝と同程度で埋土の状態も似ており、同時期に造られたと考えられる。

（29）**ＳＤ65溝**（第15図、写真図版９）

＜位置･走行＞　ⅢＣ－16ｓグリットに位置する。調査区の途中でＵ字状に湾曲し、ＮＮＷ及びＥＥＮの方向に延びている。

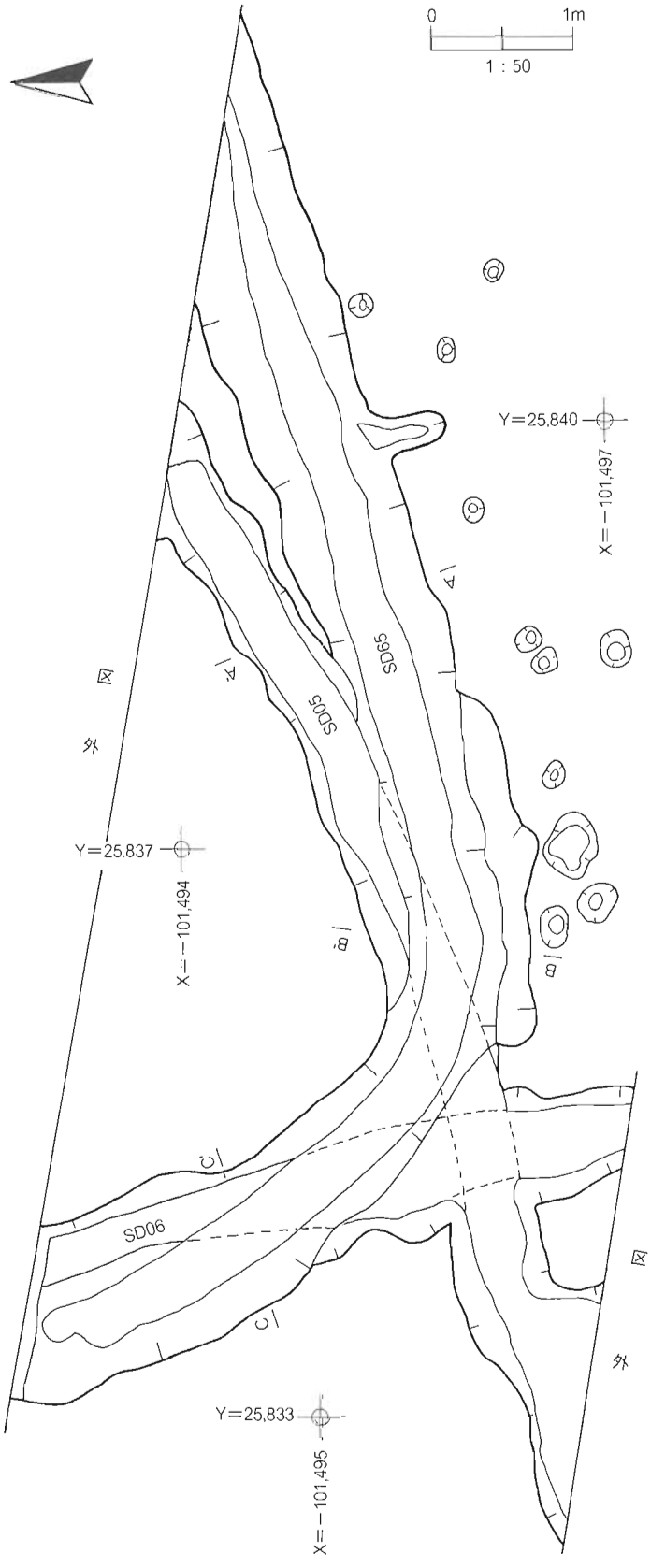
＜規　模＞　全長不明、幅0.8～1.0ｍ、深さ50㎝前後である。

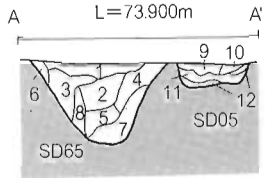
＜断面形＞　東側はＶ字状、西側はやや底部が広がったＵ字状を呈している。

＜埋　土＞　８層に細分される。埋土の状態は人為的に埋められたようである。

＜遺　物＞　内黒でロクロ成形をしている坏片が１点（５）出土している。

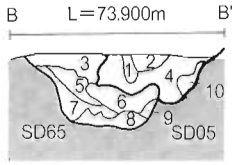
＜特　徴＞　大きくＵ字状に曲がっており、今回検出されたＵ・Ｊ字状溝の中で最も規模が大きい。遺物から判断すると平安時代に造られた遺構と考えられる。





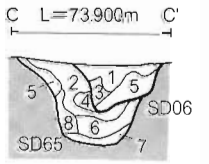
SD65・05　A－A'

1．10YR2/1黒色　マサ土　しまり中
　粘性ややあり
2．10YR2/1黒色　マサ土　しまり弱
　粘性あり
3．10YR2/1黒色　マサ土　しまりなし
4．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり中
5．10YR3/4暗褐色　シルト　しまりなし
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に含む
6．10YR2/3黒褐色　シルト　しまりなし
7．10YR3/4暗褐色　シルト　しまりなし
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に含む
　（5より多い）
8．10YR5/8黄褐色　シルト　しまり中
9．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり強
10．10YR2/3黒褐色　シルト　しまり中
11．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり中
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に含む
12．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり強
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に含む



SD65・05　B－B'

1．杭跡
2．10YR3/4暗褐色　シルト　しまりなし
3．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり中
　黄褐色シルトを粒状に含む
4．10YR2/1黒色　マサ土　しまり弱
　粘性あり
5．10YR2/1黒色　マサ土　しまり弱
6．10YR2/1黒色　マサ土　しまりなし
7．10YR2/3黒褐色　シルト　しまり小
　黄褐色シルトを粒状に含む
8．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり弱
　黄褐色シルトを粒状に含む
9．10YR3/4暗褐色　シルト　しまりなし
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に含む
10．10YR5/6黄褐色　粘土　しまり弱
　10YR2/3黒褐色土をまばらに30％含む

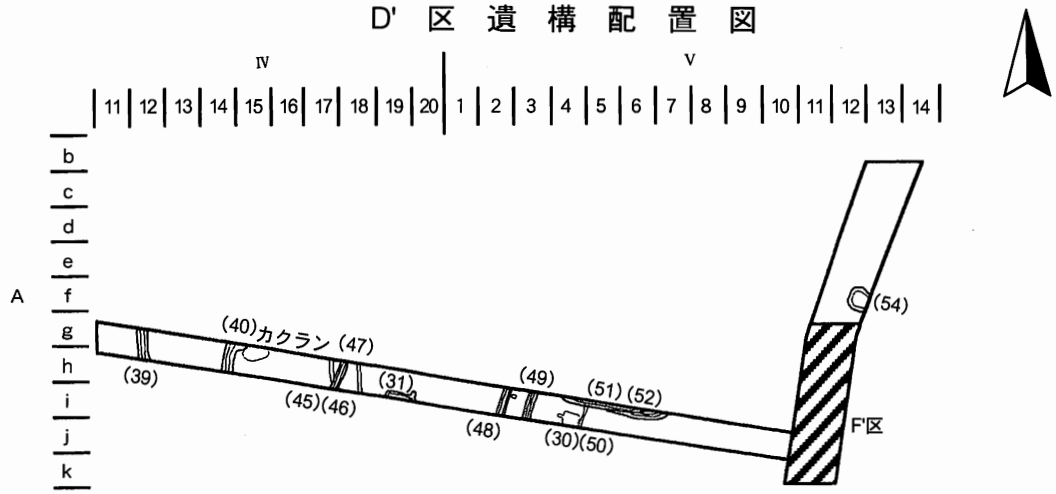


SD65・06　C－C'

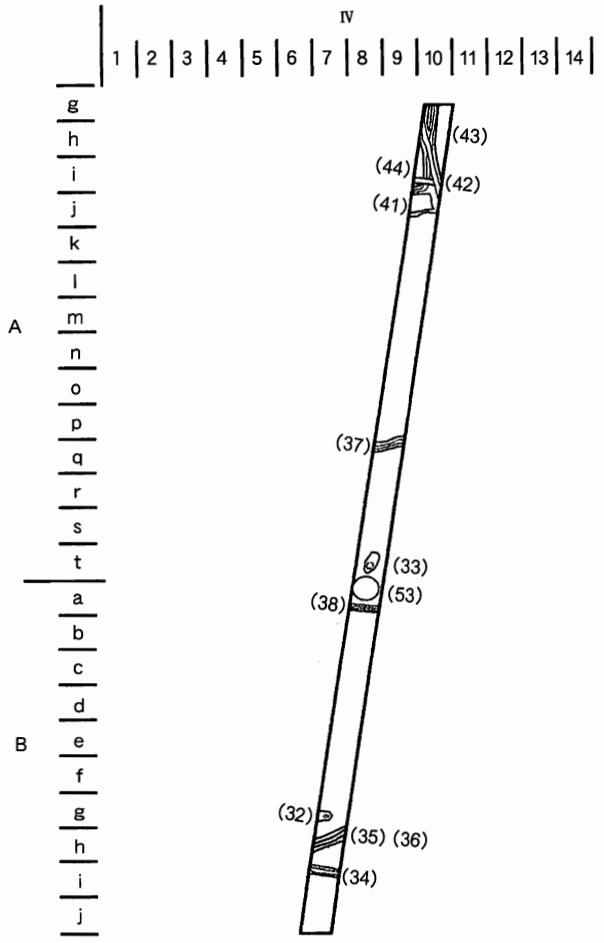
1．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり中
2．10YR3/4暗褐色　シルト　しまり中
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に含む
3．10YR3/3暗褐色　シルト　しまり中
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に含む
4．10YR3/3暗褐色　粘土　しまり弱
5．10YR2/1黒色　マサ土　しまり弱
6．10YR2/3黒褐色　シルト　しまりなし
7．10YR2/3黒褐色　シルト　しまり中
　粘性ややあり、黄褐色土を粒状に含む
8．10YR5/6黄褐色　粘土　しまり弱
　10YR2/3黒褐色土をまばらに30％含む

第15図　SD05・06・65溝

D' 区 遺 構 配 置 図



C' 区 遺 構 配 置 図



(30) SI01竪穴住居
(31) SI02竪穴住居
(32) SK17土坑
(33) SK18土坑
(34) SD07溝
(35) SD08溝
(36) SD09溝
(37) SD10溝
(38) SD25溝
(39) SD15溝
(40) SD16溝
(41) SD11溝
(42) SD12溝
(43) SD13溝
(44) SD14溝
(45) SD17溝
(46) SD18溝
(47) SD19溝
(48) SD20溝
(49) SD21溝
(50) SD22溝
(51) SD23溝
(52) SD24溝
(53) SX10掘立柱状柱穴群
(54) SX11粘土採掘場

第16図　C'·D'区遺構配置図

2　C′・D′区（第16図）

（30）ＳＩ01竪穴住居（第17図、写真図版10）

＜位　置＞　ＶＡ－４ｊグリットに位置する。

＜規　模＞　ＳＤ22溝を境に東側の上部が削られており、南側が調査区外に延びているため長軸、短軸ともに不明である。検出部での北辺は2.15ｍで、西辺は2.2ｍあり、壁高は北側で６㎝、西側で15㎝ある。いずれも外傾気味に立ち上がる。

＜平面形＞　正確な形状は不明であるが、検出部で見ると隅が比較的角張った方形と推定する。

＜カマド＞　Pit１の埋土に炭化物や構築粘土と思われる焼土ブロックが含まれており、底面に焼成を受けている部分があることからカマド跡の可能性が考えられる。ただし、床面近くまで削られており、煙道や煙出し部分ははっきりしない。

＜遺　物＞　土師器の坏と甕の口縁部が数点、須恵器の坏口縁部が１点（11）出土している。いずれもロクロ成形してある。その他土鈴の紐に似た土製品の破片が１点（８）出土している。

＜特　徴＞　上部がかなり削られており住居跡と断定するにはやや不十分であるが、出土遺物の多さから生活空間があったことは間違いないと考えられる。

（31）ＳＩ02竪穴住居（第18図、写真図版11）

＜位　置＞　ⅣＡ－19ｉグリットに位置する。

＜規　模＞　南側が調査区外まで延びており、南北方向の長さは不明である。東西方向の長さは4.65ｍで、壁高は12～20㎝あり、外傾しながら立ち上がっている。

＜平面形＞　正確な形状は不明であるが、検出した部分で推定するとＳＩ01竪穴住居同様に比較的隅の角張った方形をしているようである。

＜カマド＞　北東隅より70㎝のところに位置する。煙道の向きはＥＥＮの方向である。

＜遺　物＞　土師器の坏と甕の破片が数点、須恵器の坏片が１点（18）出土しておりほとんどがロクロ成形してある。また内外黒色処理している坏片が１点（19）出土している。

＜特　徴＞　床面が木根により撹乱状態にあるため、柱穴は検出されていない。壁の向きがＳＩ01竪穴住居と同方向を向いており、出土遺物も類似していることから同時期に建てられていたと考えられる。

土坑関係（第19図、写真図版11・12）

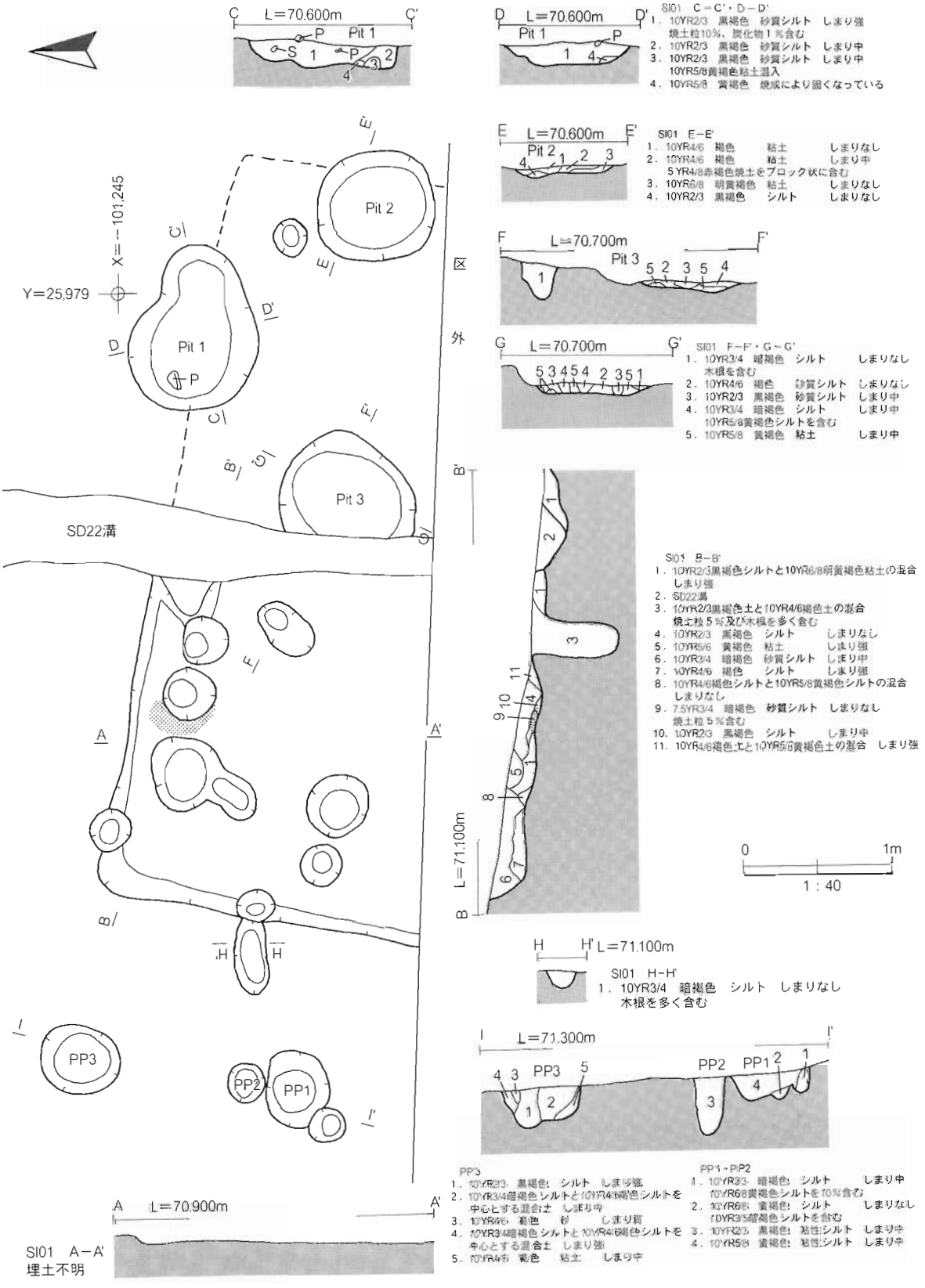
Ｃ′区からは２基の土坑を検出した。ＳＫ17土坑からは甕の頸部と思われる須恵器片が１点（27）出土している。

各土坑の規模・形態は下表のとおりである。

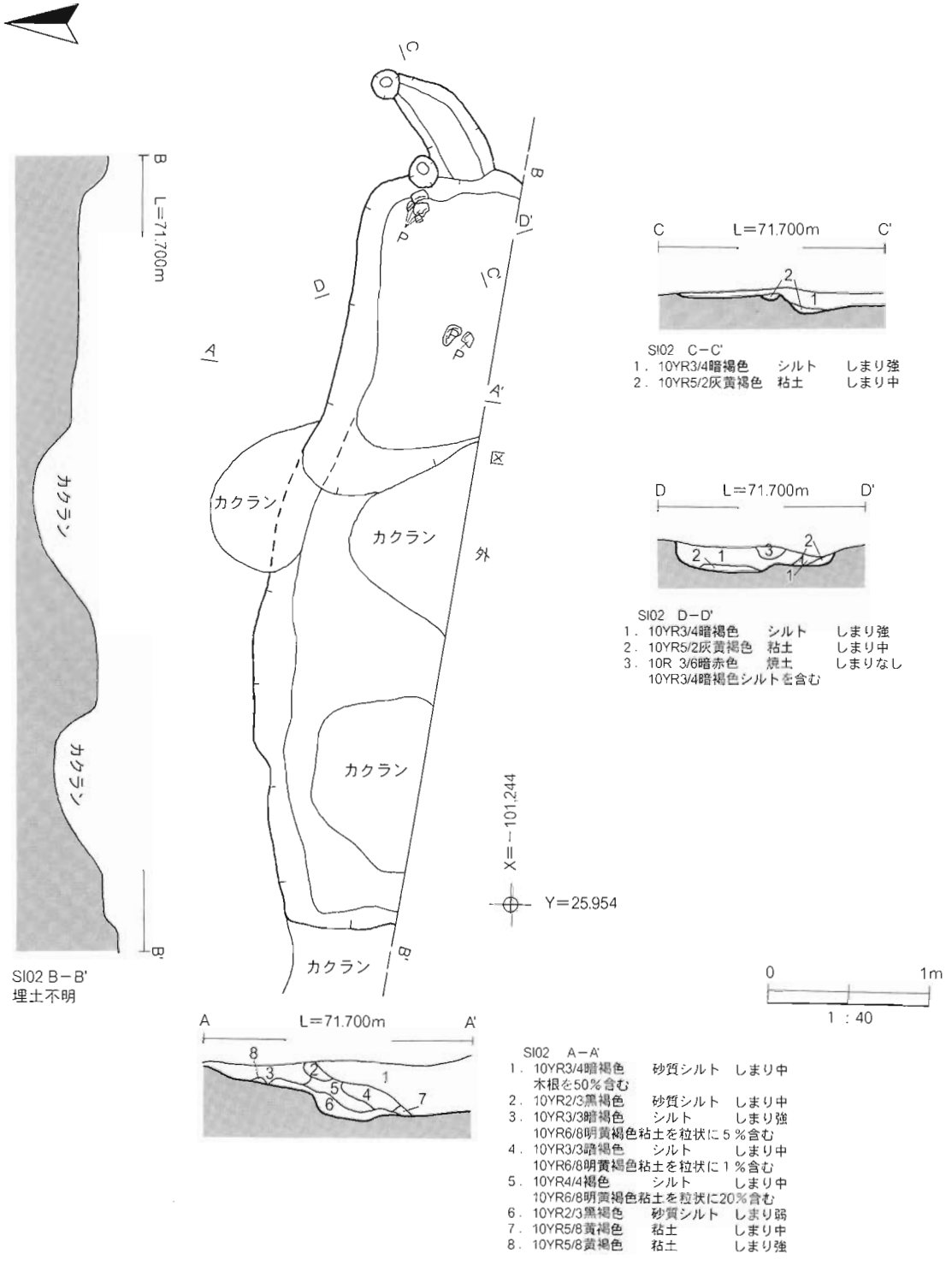
Ｃ′区の土坑（ＳＫ）一覧

区	(No)遺構名	グリット位置	直径㎝	深さ㎝	形　態	埋　土	備　考
Ｃ′区	(32)SK17	ⅣＢ-７ｇ	？×110	25	ひょうたん形	３層に分かれる	古代
	(33)SK18	ⅣＡ-８ｔ	220× 85	40	楕円形	３層に分かれる	時期不明

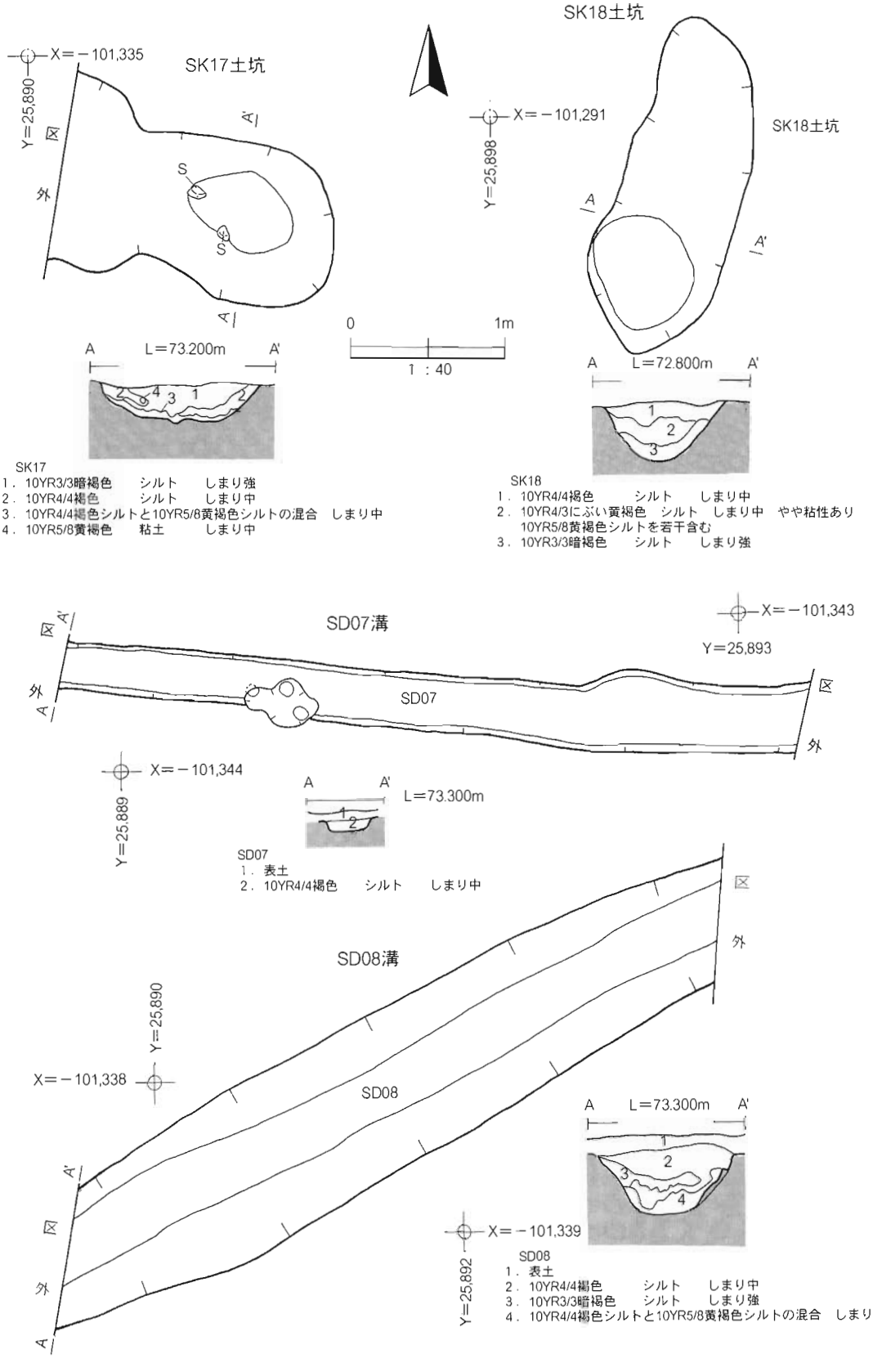
※径が？なのは、遺構が調査区外にかかっている為である。また、深さは地山面を基準としている。



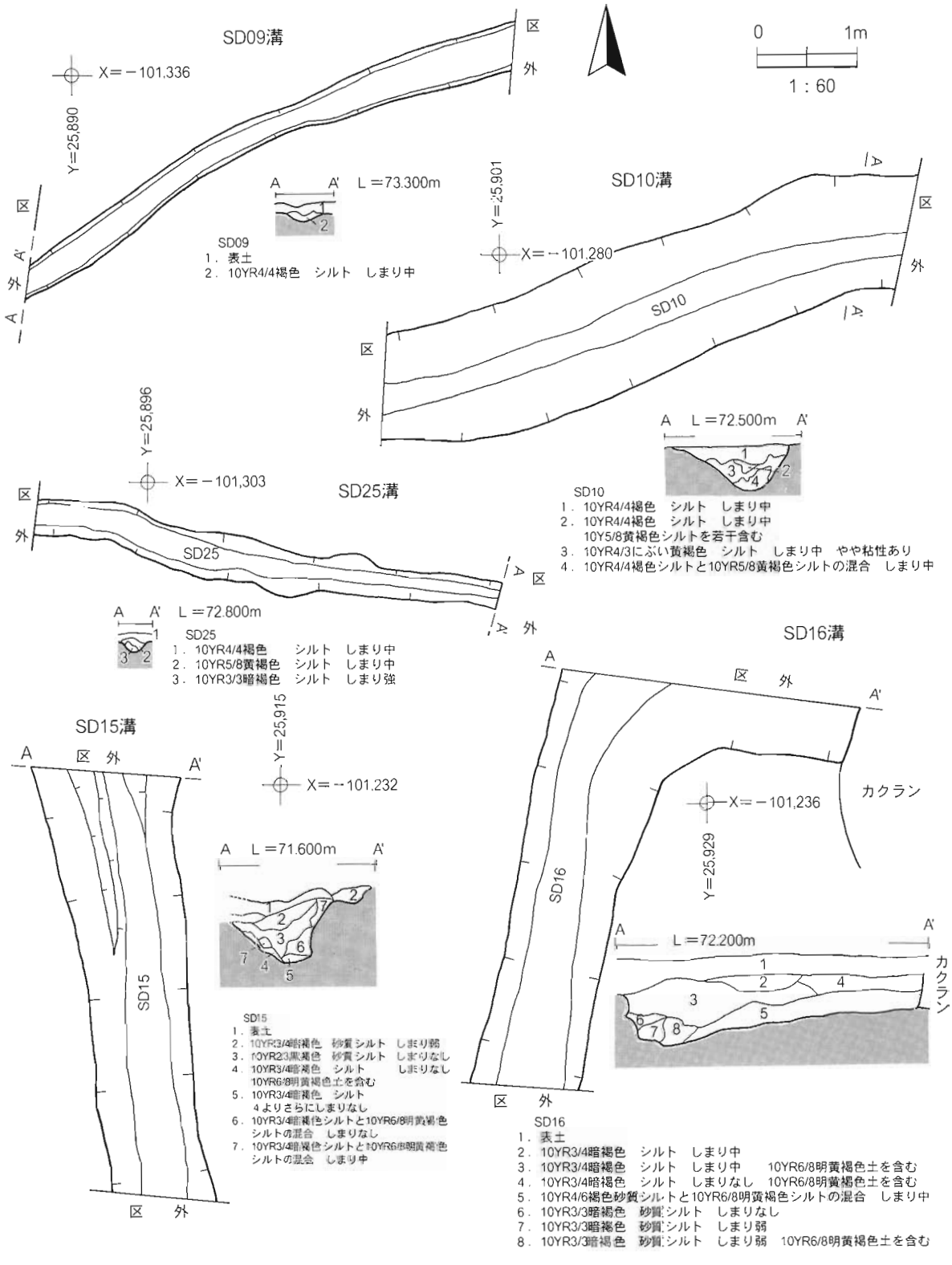
第17図　SI01竪穴住居



第18図　SI02竪穴住居



第19図　SK17·18土坑、SD07·08溝



第20図　SD09·10·25·15·16溝

（34）ＳＤ07溝（第19図、写真図版12）

＜位置･走行＞　ⅣＢ－７ｉグリットに位置し、東西方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅30～50㎝、深さ3㎝前後である。

＜断面形＞　浅い皿形を呈している。

＜埋　土＞　褐色シルトの単層である。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　上部が削られているため深さはほとんどない。底部は平坦で、上場・下場ともほぼ直線的に延びている。

（35）ＳＤ08溝（第19図、写真図版12）

＜位置･走行＞　ⅣＢ－７ｈグリットに位置し、ＥＥＮ－ＷＷＳ方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅0.85～1.0ｍ、深さ35～40㎝である。

＜断面形＞　やや上部が広がったＵ字状を呈している。

＜埋　土＞　褐色シルトを主体とする３層に大別される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　底部は平坦で、上場・下場ともほぼ直線的に延びている。

（36）ＳＤ09溝（第20図、写真図版12）

＜位置･走行＞　ⅣＢ－７ｈグリットに位置し、ＥＥＮ－ＷＷＳ方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅25～45㎝、深さ5～20㎝である。

＜断面形＞　底が丸い皿状を呈している。

＜埋　土＞　褐色シルトの単層である。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　底部・上場・下場とも凹凸があり、やや湾曲している。

（37）ＳＤ10溝（第20図、写真図版13）

＜位置･走行＞　ⅣＡ－９ｑグリットに位置し、ＥＥＮ－ＷＷＳ方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅1.1～1.3ｍ、深さ35～45㎝である。

＜断面形＞　北側がなだらかなＶ字状を呈している。

＜埋　土＞　褐色シルトを主体とする４層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　東側がやや深くなっており、底部・上場・下場ともやや凹凸がある。ＳＤ08溝と規模、走行、埋土の状態が似ており、同時期に造られた可能性が高い。

（38）ＳＤ25溝（第20図）

＜位置･走行＞　ⅣＢ－８ａグリットに位置し、ほぼ東西方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅30～50㎝、深さ5～10㎝である。

＜断面形＞　底が丸まった浅いＵ字状を呈している。

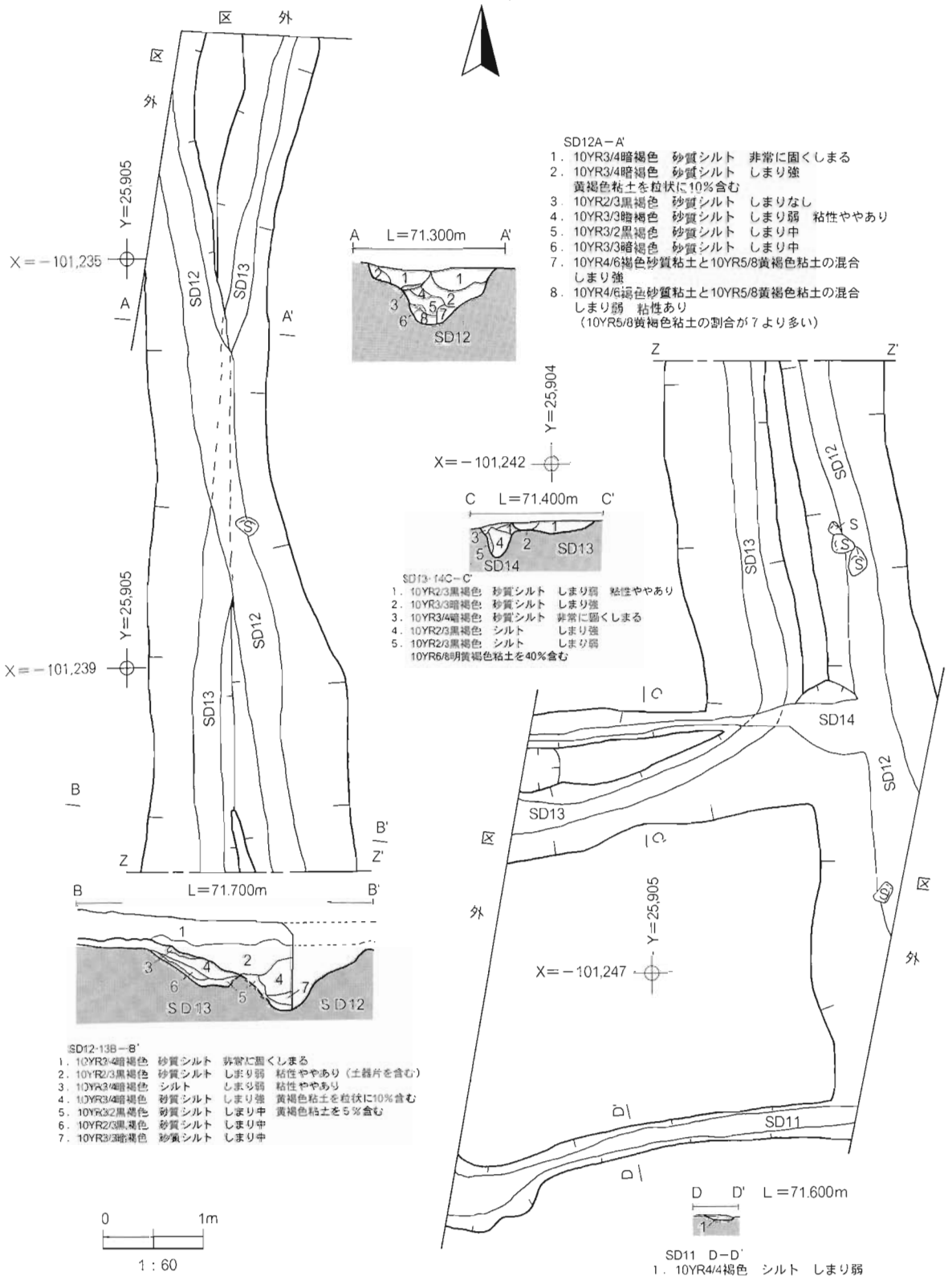
＜埋　土＞　明黄褐色粘性シルトと暗褐色シルトの２層に大別される。
＜遺　物＞　かわらけと思われるものの口縁部片が１点（28）、古瓦片が１点（29）出土している。
＜特　徴＞　出土遺物からは平安末頃の遺構と考えられる。

（39）**ＳＤ15溝**（第20図、写真図版13）
＜位置･走行＞　ⅣＡ－12ｈグリットに位置し、ほぼ南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅1.0～1.4ｍ、深さ30～50㎝である。
＜断面形＞　底部が平坦なＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　明黄褐色土が混じった暗褐色シルトを主体とする７層に細分される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　側面に凹凸がみられる。北側がやや広がり気味で、段状になっている。

（40）**ＳＤ16溝**（第20図、写真図版13）
＜位置･走行＞　ⅣＡ－14ｈグリットに位置し、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅1.0～1.5ｍ、深さ40～50㎝である。
＜断面形＞　底が平坦なＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　明黄褐色土が混じった暗褐色シルトと暗褐色砂質シルトを主体とする８層に細分される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　北側の調査区外との境目で東へ湾曲しているが、その先は撹乱状態である。

（41）**ＳＤ11溝**（第21図、写真図版13）
＜位置･走行＞　ⅣＡ－10ｉグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅30～70㎝、深さ５㎝前後である。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　褐色シルトの単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　表土下にわずかに残っていた浅い溝である。底部は平坦であるが、側面は凹凸が見られる。

（42）**ＳＤ12溝**（第21図、写真図版14）
＜位置･走行＞　ⅣＡ－10ｉグリットに位置し、ほぼ南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.7～1.0ｍ、深さ50～60㎝である。
＜断面形＞　上部が広がったＶ字状を呈している。
＜埋　土＞　暗褐色砂質シルトを主体とする５層に細分される。
＜遺　物＞　土師器片が出土している。１点（30）は甕の口縁部で、もう１点は内黒の糸切り痕を伴った坏（31）の底部である。
＜特　徴＞　ＳＤ13溝とＸ字状に交叉している。埋土の状態からはＳＤ12溝の方が新しいと考えられる。南に向かって深くなっている。



第21図 SD11·12·13·14溝

（43）ＳＤ13溝（第21図、写真図版14）

＜位置･走行＞　ⅣＡ－10ｉグリットに位置する。調査区の途中で大きく湾曲し、北及び西方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅0.6～1.0m、深さ15～40cmである。

＜断面形＞　底部が丸く、上部が広がったＶ字状を呈している。

＜埋　土＞　暗褐色砂質シルトを主体とする５層に細分される。下部に黄褐色粘土が混入している。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ12溝とＸ字状に交叉している。ＳＤ12溝とは逆に、北側が深くなっている。

（44）ＳＤ14溝（第21図、写真図版14）

＜位置･走行＞　ⅣＡ－10ｉグリットに位置し、東西方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅20～50cm、深さ35cm前後である。

＜断面形＞　深めのＵ字状を呈している。

＜埋　土＞　黒褐色シルトを主体とする４層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ12溝に交わったところで途切れている。ＳＤ11溝とほぼ平行に並んでいるが、埋土の状態ははかなり異なっており、時期的には一致しないと考えられる。

（45）ＳＤ17溝（第22図、写真図版14）

＜位置･走行＞　ⅣＡ－18ｈグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅30～60cm、深さ５～15cmである。

＜断面形＞　平たい皿状を呈している。

＜埋　土＞　暗褐色シルトの単層である。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　底部、側面ともやや凹凸がある。南側で若干東に湾曲しＳＤ18溝とＶ字状に交わる。上部がほとんど削られており、深さはあまりない。

（46）ＳＤ18溝（第22図、写真図版14）

＜位置･走行＞　ⅣＡ－18ｈグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅60～90cm、深さ20cm前後である。

＜断面形＞　やや上部が広がったＶ字状を呈している。

＜埋　土＞　４層に細分される。自然堆積の中央に比較的新しい層が入り込んでいる。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　底部は平坦で、上場と下場ともほぼ並行に延びている。埋土の状態から自然に埋もれた溝を再度掘り起こして、使用していたように考えられる。

（47）ＳＤ19溝（第22図、写真図版14）

＜位置･走行＞　ⅣＡ－18ｈグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅40～65cm、深さ５cm前後である。

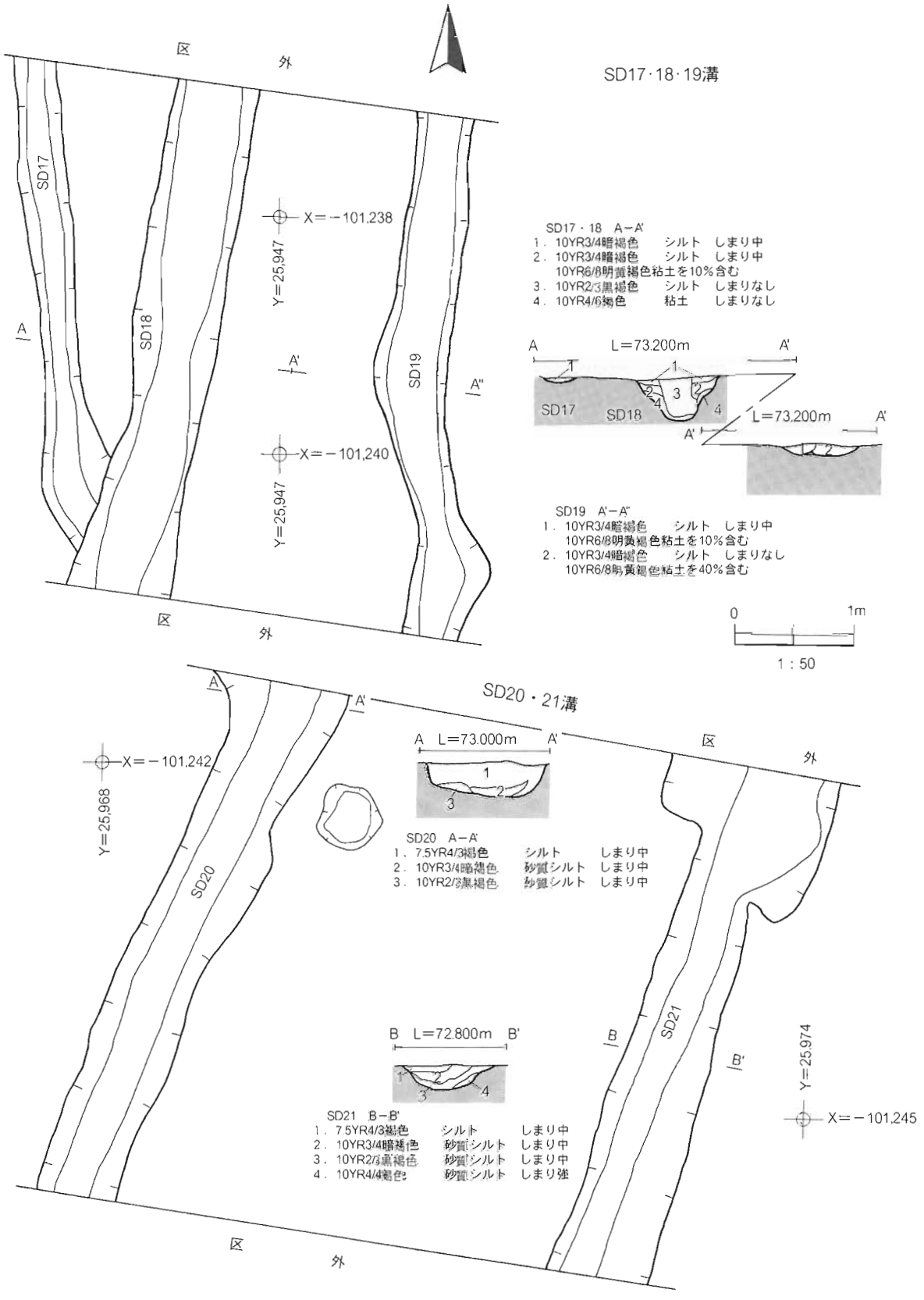
＜断面形＞　浅い皿形状を呈している
＜埋　土＞　暗褐色シルトを主体とする３層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　上部が削られており深さはあまりない。底部は平坦であるが、側面は若干湾曲している。埋土や走行方向からＳＤ17溝と同時期の遺構と考えられる。

（48）**ＳＤ20溝**（第22図、写真図版15）
＜位置･走行＞　ⅣＡ－２ｉグリットに位置し、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅70～90㎝、深さ15～25㎝である。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　褐色シルトを主体とする３層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　底部は平坦で、上場と下場ともほぼ平行に延びている。

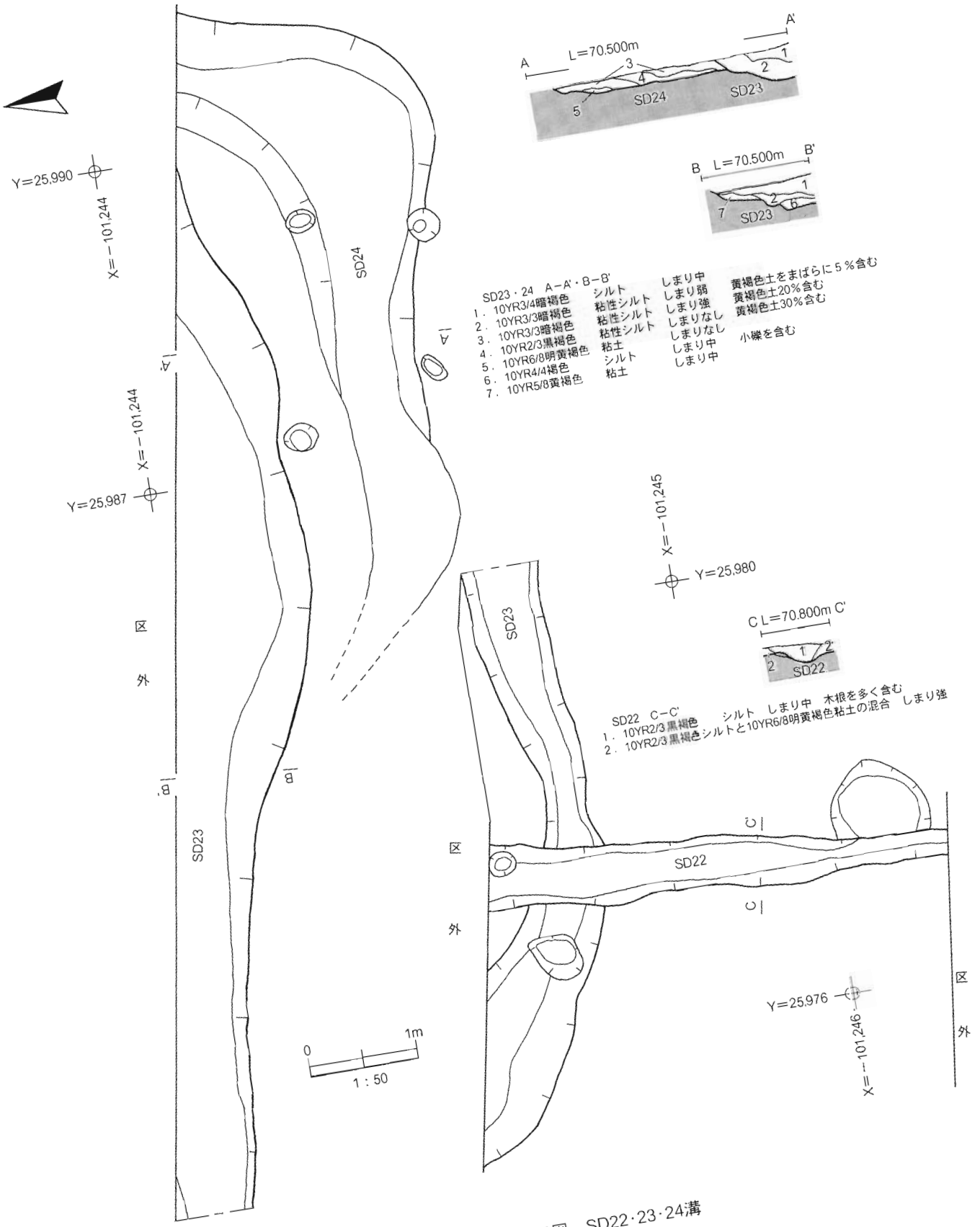
（49）**ＳＤ21溝**（第22図、写真図版15）
＜位置･走行＞　ⅣＡ－３ｉグリットに位置し、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.8～1.4ｍ、深さ20～30㎝である。
＜断面形＞　浅い椀状を呈している。
＜埋　土＞　４層に細分される。
＜遺　物＞　須恵器片が１点（32）、土師器片が３点（33～35）出土している。須恵器片は甕の口縁部でロクロ成形の痕があり、後述のＳＤ35・36溝周辺から出土した須恵器片と接合した。土師器は坏の口縁部（ロクロ成形、内黒）と底部が１点ずつ、甕もしくは壷の底部（ロクロ成形）が１点である。
＜特　徴＞底部は平坦で上場、下場ともほぼ並行に延びている。北側が木根により撹乱状態にある。

（50）**ＳＤ22溝**（第23図、写真図版15）
＜位置･走行＞　ＶＡ－５ｊグリットに位置し、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅25～60㎝、深さ10～17㎝である。
＜断面形＞　南側はＶ字状で、北に行くに従って広がり浅い皿状となる。
＜埋　土＞　黒褐色シルトを主体とする２層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　ＳＩ01竪穴住居跡を中央で分断するように位置している。埋土からは比較的新しい遺構と考えられる。

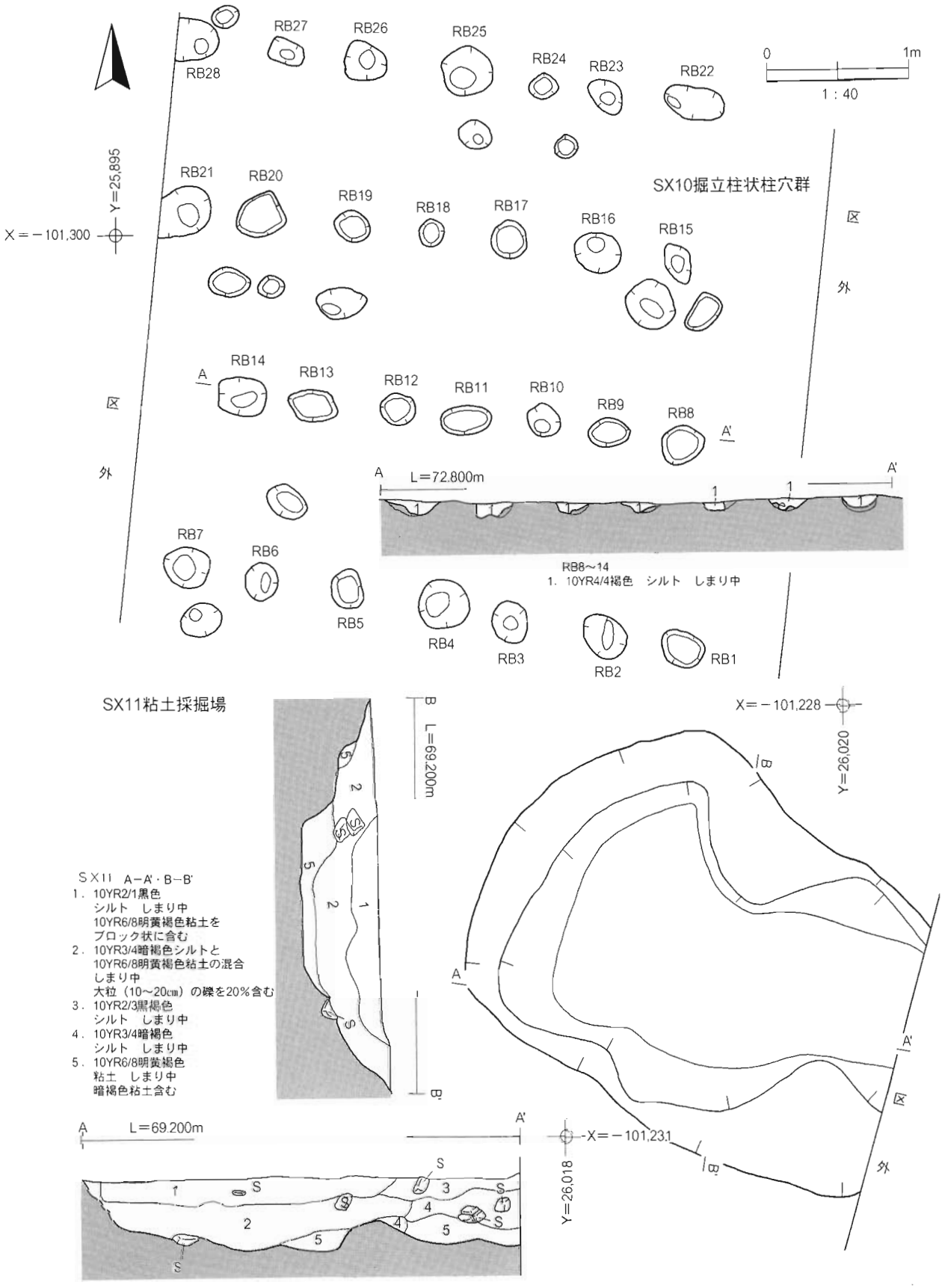
（51）**ＳＤ23溝**（第23図、写真図版15）
＜位置･走行＞　ＶＡ－５ｊグリットに位置する。東西方向に延びており、両サイドで北側に湾曲している。
＜規　模＞　全長不明、幅0.3～1.4ｍ、深さ10～30㎝である。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　暗褐色シルトと褐色シルトを主体とする４層に細分される。



第22図　SD17・18・19・20・21溝



第23図　SD22·23·24溝



第24図　SX10掘立柱状柱穴群　SX11粘土採掘場

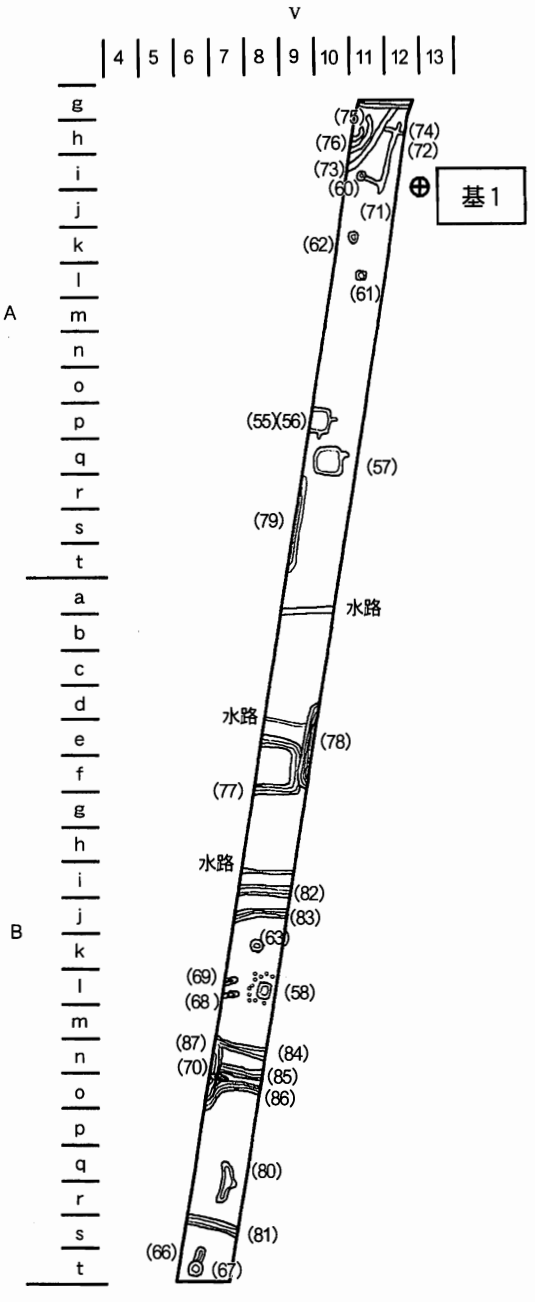
＜遺　物＞　石篦が１点（37）、縄文土器片５点（38～42）、須恵器片が２点（36・44）、土師器片が数点出土している。土師器片の３点（45～47）はロクロ成形しており、うち１点（45）は内黒の坏口縁部である。
＜特　徴＞　断面の形状、平面の形状とも変化に富んでおり、雨裂溝と考えられる。

（52）**ＳＤ24溝**（第23図、写真図版15）
＜位置･走行＞　ＶＡ－５ｊグリットに位置する。調査区の途中でＵ字状に折れ曲がり、両サイドが北側に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.8～1.6m、深さ15～20cmである。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　２層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　埋土の状態からはＳＤ23溝の方が新しいと推定されるが、同じく雨裂溝と考えられる。

（53）**ＳＸ10掘立柱状柱穴群**（第24図、写真図版16）
＜位　置＞　ⅣＢ－８ａグリットに位置する。
＜規　模＞　調査区外にかかるため東西の列数は不明であるが、南北は1.1～1.3m間隔で４列に並んでいる。
＜平面形＞　楕円状もしくは円形を呈している。
＜埋　土＞　褐色シルトの単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　調査区の幅が狭いため柱の位置関係は確認できていない。東西の間隔がないことから、柵跡の可能性も考えられる。

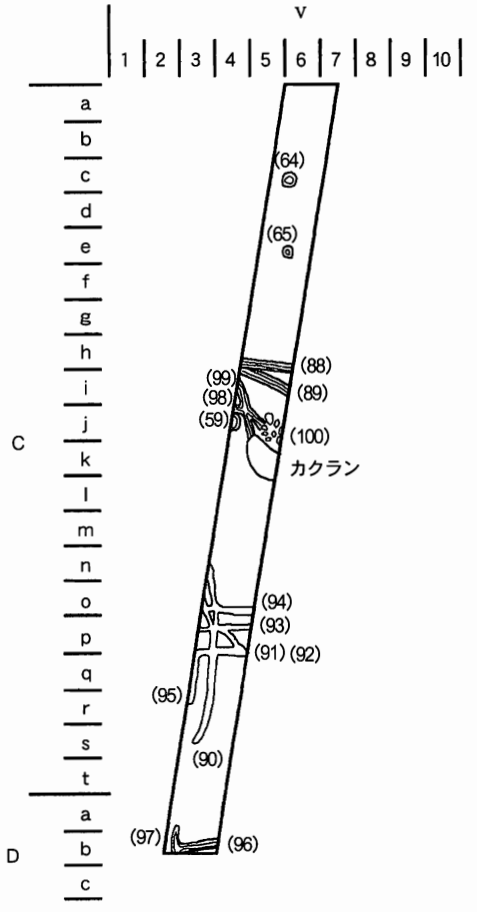
（54）**ＳＸ11粘土採掘場**（第24図、写真図版16）
＜位　置＞　ＶＡ－12ｇグリットに位置する。
＜規　模＞　調査区外にかかっており正確には不明であるが、検出部でみると長軸3.2m、短軸2.3mである。
＜平面形＞　長軸がＮＷ－ＳＥを向いた、長方形を呈している。
＜遺　物＞　土師器片が２点（48・49）と須恵器片が２点（50・51）出土している。土師器片は坏の口縁部と甕の底部で、いずれもロクロ成形である。また、坏片は内面黒色処理を施している。須恵器片は２点とも甕の体部で、外面にタタキ目を残す。
＜特　徴＞　竪穴住居に似た形状をしているが、埋土底部に粘土層を含み、底部や側面の形状が部分的に採掘したように起伏に富んでいる。

E' 区 遺 構 配 置 図



(55) SI03竪穴住居
(56) SI04竪穴住居
(57) SI05竪穴住居
(58) SKI04竪穴状
(59) SKI05竪穴状
(60) SK21土坑
(61) SK22土坑
(62) SK24土坑
(63) SK27土坑
(64) SK28土坑
(65) SK29土坑
(66) SK30土坑
(67) SK31土坑
(68) SX06陥し穴
(69) SX07陥し穴
(70) SX08陥し穴
(71) SD31溝
(72) SD32溝
(73) SD33溝
(74) SD34溝
(75) SD35溝
(76) SD36溝
(77) SD42溝
(78) SD43溝
(79) SD41溝
(80) SD50溝
(81) SD51溝
(82) SD44溝
(83) SD45溝
(84) SD46溝
(85) SD47溝
(86) SD48溝

F' 区 遺 構 配 置 図



(87) SD49溝
(88) SD52溝
(89) SD53溝
(90) SD56溝
(91) SD57溝
(92) SD58溝
(93) SD59溝
(94) SD60溝
(95) SD62溝
(96) SD54溝
(97) SD55溝
(98) SD63溝
(99) SD64溝
(100) SX12複合窯

第25図　E'·F'区遺構配置図

3　E′・F′区（第25図）

（55）ＳＩ03竪穴住居（第26・27図、写真図版17）

＜位　置＞　ＶＡ－10Ｐグリットに位置する。

＜規　模＞　西側が調査区外まで延びており東西方向の長さは不明であるが、南北方向の長さは3.5ｍである。壁高は20㎝前後で、壁断面の形状は南側は直立気味に、東側はやや外傾気味に立ち上がっている。

＜平面形＞　正確な形状は不明であるが、隅丸の長方形と推定される。

＜カマド＞　東側と南側で検出された。東側は東北の隅から1.15ｍに位置しており、長軸はほぼ東西を向いている。煙道の長さは途中で切れているため不明である。南側は南東隅から1.1ｍに位置し、ほぼ南方を向いている。煙道の長さは1.1ｍを測る。南側のカマド周辺に袖や支脚に使用したと思われる石や土器がそのまま残っており、カマドを東から南へ付け替えて使用していたと考えられる。

＜遺　物＞　土師器の坏もしくは甕の破片が数点出土している。ほとんどがロクロ成形で坏の底部には回転糸切り痕を伴っており、内面黒色処理のものはない。また、左利き用と思われる鎌の破片（54）が出土している。

＜特　徴＞　南東隅に直径70㎝・深さ20㎝のピットを伴っており、中から土器片が数点出土している。柱穴は壁際に２ヶ所、床面で３ヶ所検出された。直径はいずれも20㎝前後で、深さは６～39㎝である。

（56）ＳＩ04竪穴住居（第27図、写真図版17）

＜位　置＞　ＶＡ－10Ｐグリットに位置し、ＳＩ03竪穴住居と重複している。

＜規　模＞　ＳＩ03竪穴住居によって切られており、詳細は不明である。

＜平面形＞　不明

＜カマド＞　北東隅に設置している。煙道の長さは1.2ｍで軸方向は東西を向いている。

＜遺　物＞　遺物はＳＩ03竪穴住居と重複する。

＜特　徴＞　床面の高さがＳＩ03竪穴住居とほとんど同じで、大部分が切られているため形状・規模が不明である。かろうじてカマドの位置がＳＩ03竪穴住居の壁の外にあったので検出することができた。ＳＩ03竪穴住居より古いが、時間的ずれはさほどないようである。

（57）ＳＩ05竪穴住居（第28図、写真図版18・19）

＜位　置＞　ＶＡ－11ｒグリットに位置する。

＜規　模＞　長軸4.8ｍ、短軸3.6ｍである。壁高は15～20㎝で四方ともやや外傾して立ち上がっている。

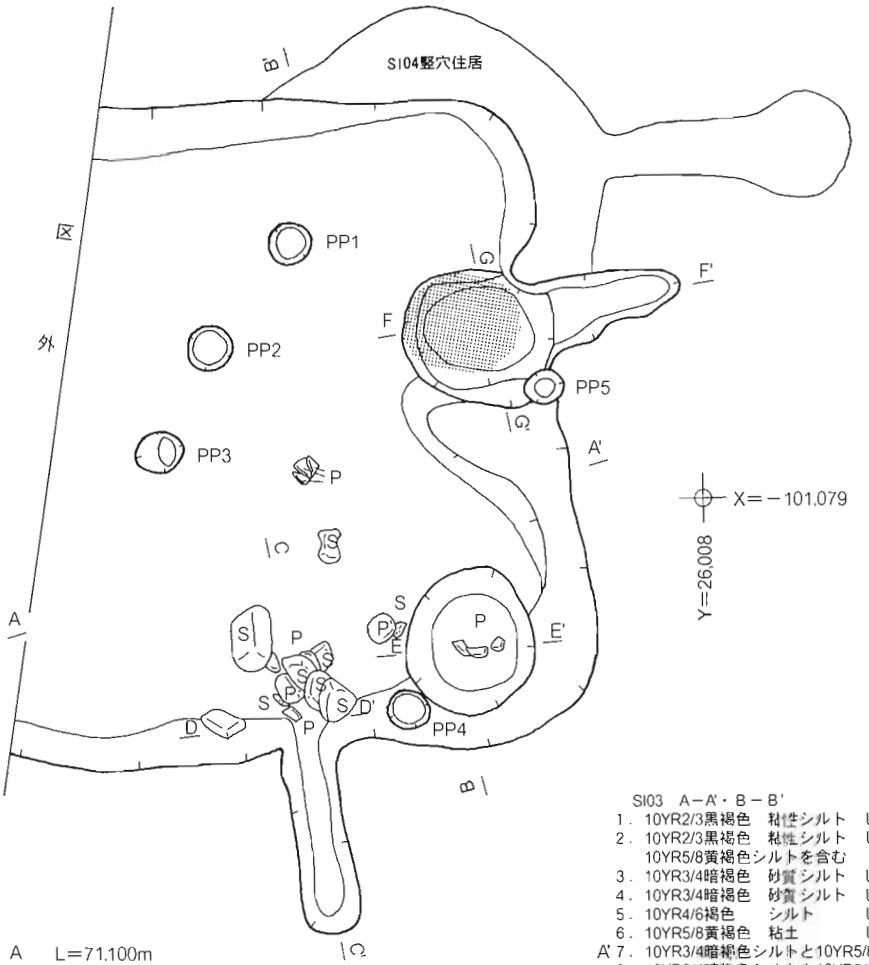
＜平面形＞　隅丸の若干台形がかった長方形である。

＜カマド＞　北東隅から１ｍ南に位置している。煙道の長さは１ｍを測り、長軸の向きは北東を向いている。

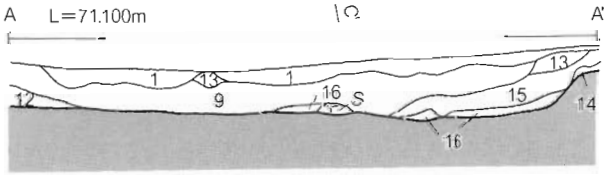
＜遺　物＞　土師器の坏片を中心に、甕の破片等も多数出土している。須恵器は甕の口縁部１点（94）だけである。ほとんどがロクロ成形しており、坏は内黒で回転糸切り痕をそのまま残すものが約半分ある。また、カマドの袖付近から内黒の坏を星形状に割って蓋（83）に使用した壷（88）がほぼ完全な形で出土した。

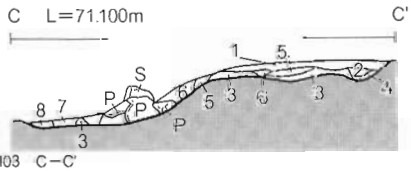
＜特　徴＞　南東隅に直径70㎝、深さ40㎝のピットを伴っている。また、西側と南側の壁際にはテラス状の高まりを伴っており、中央には支柱を立てたと見られる直径40㎝の柱穴がある。この柱穴の周辺や東側壁の近くから広い範囲で焼土と炭化物を検出しており、焼失住居だった可能性が考えられる。

遺溝名	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径 cm	22	23	25	22	20
深さcm	6.2	17.9	38.9	14.6	21

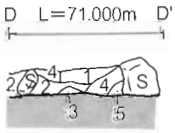


SI03　A－A'・B－B'
1．10YR2/3黒褐色　粘性シルト　しまり強
2．10YR2/3黒褐色　粘性シルト　しまり弱
　10YR5/8黄褐色シルトを含む
3．10YR3/4暗褐色　砂質シルト　しまりなし
4．10YR3/4暗褐色　砂質シルト　しまり中
5．10YR4/6褐色　　シルト　　しまり中
6．10YR5/8黄褐色　粘土　　しまりなし
7．10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合　しまり中
8．10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合　しまり弱
9．10YR3/3暗褐色　砂質シルト　しまり弱
　10YR5/8黄褐色シルトを粒状に10%含む
10．10YR3/4暗褐色　砂質シルト　しまり全くなし
11．10YR2/3黒褐色　シルト　　しまりなし（杭跡）
12．10YR2/2黒褐色　粘性シルト　しまりなし
13．10YR2/1黒色　　砂質シルト　しまりなし
14．10YR3/4暗褐色　砂質シルト　しまりなし
15．10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合
　しまり弱　炭化物を１％含む
16．10YR3/4暗褐色　シルト　　しまり中
　炭化物を30%含む
17．10YR3/4暗褐色　粘性シルト　しまり弱





SI03　C－C'
1．10YR3/3暗褐色　　砂質シルト　しまり弱
2．10YR3/3暗褐色シルトと10YR6/8明黄褐色シルトの混合　しまり中
3．10YR6/8明黄褐色　シルト　　しまりなし
　10YR2/2黒褐色シルトを含む
4．10YR6/8明黄褐色　シルト　しまり中
　10YR2/2黒褐色粘土を含む
5．10YR5/8黄褐色　　粘土　しまりなし
6．10YR2/1黒色シルトと５YR5/8明赤褐色焼土の混合　しまりなし
7．10YR2/3黒色　　シルト　しまりなし
　炭化物を含む
8．10YR3/4暗褐色　　シルト　しまりなし
　炭化物を含む

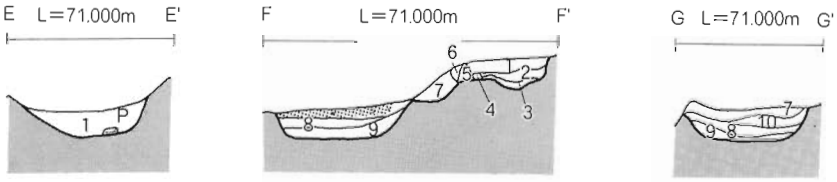


SI03　D－D'
1．10YR3/4暗褐色　　シルト　　しまりなし
2．10YR3/4暗褐色シルトと10YR6/8明黄褐色シルトの混合　しまりなし
　炭化物を１％含む
3．10YR6/8明黄褐色　砂質シルト　しまりなし
4．10YR3/3暗褐色シルトと10YR6/8明黄褐色シルトの混合
　しまりなし　炭化物を１％含む
5．10YR5/8黄褐色　　粘土　　しまり中

0　1m
1：40

第26図　SI03竪穴住居

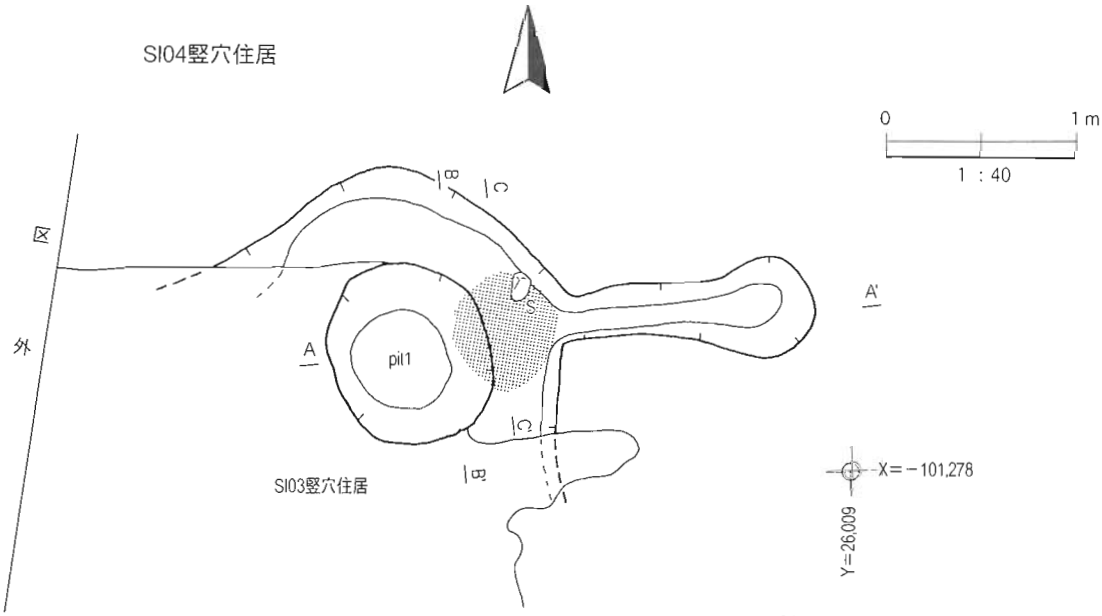
SD03竪穴住居

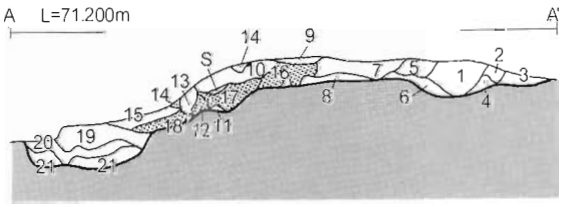


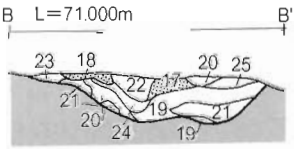
SI03 E−E'
1．10YR2/2黒褐色 シルト しまり弱

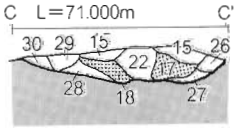
SI03 F−F'・G−G'
1．10YR3/4暗褐色 シルト しまり中
2．10YR4/6褐色 粘性シルト しまり中
3．10YR6/8明黄褐色 粘土 しまりなし
4．10YR4/6褐色 砂質シルト しまり弱
5．10YR4/4褐色 砂質シルト しまり強
6．10YR2/2黒褐色 砂質シルト しまり強
7．10YR3/4黒褐色 砂質シルト しまり中
焼土を粒状に1％含む
8．10YR3/4黒褐色 粘性シルト しまり中
焼土を粒状に5％含む
9．10YR3/4黒褐色 粘性シルト しまり中
焼土を粒状に20％含む
10．10YR3/4暗褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合
砂礫質 しまり中 焼土を粒状に5％含む

SI04竪穴住居



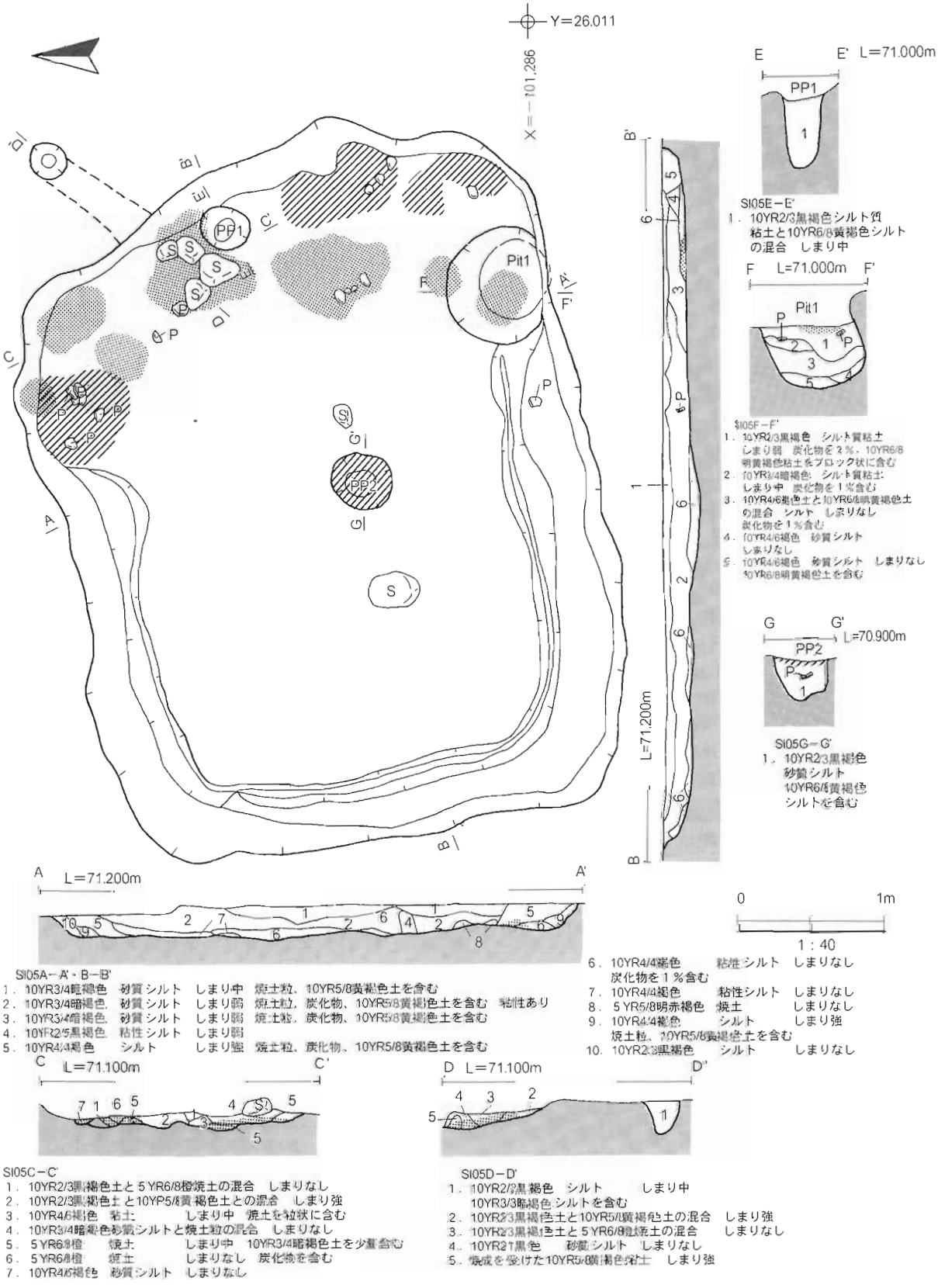






SI04 A−A'・B−B'・C−C'
1．10YR2/3黒褐色シルトと5YR5/8明赤褐色焼土粒、
10YR6/8明黄褐色粘土の混合 しまり中
2．10YR2/3黒褐色 シルト しまりなし
3．10YR3/4暗褐色 シルト しまりなし
4．10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 しまり強
5．10YR2/3黒褐色 シルト しまり中
焼土を粒状に1％、炭化物を1％含む
6．10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトの混合
しまり弱 粘性あり
7．10YR2/3黒褐色 シルト しまり中
焼土を粒状に3％、炭化物を3％含む
8．10YR2/1黒色 シルト しまり中
9．10YR3/4暗褐色シルトと焼土の混合 しまり中
10．10YR3/4暗褐色シルトと焼土の混合 しまり強 炭化物を含む
11．10YR2/1黒色 シルト しまり中 焼土を含む
12．5YR5/8 明赤褐色 焼土 しまり弱 小礫を含む
13．杭跡
14．10YR3/4暗褐色 礫土 しまりなし 焼土を含む
15．7.5YR5/6明褐色 シルト質粘土 しまり中
16．5YR5/8明赤褐色 焼土 しまり弱
10YR2/2暗褐色土、10YR5/8黄褐色土を20％ずつ含む
17．5YR5/8 明赤褐色 焼土 しまり弱 小礫を含む
18．5YR5/8 明赤褐色 焼土 しまり弱 小礫を多く含む
19．10YR2/2黒褐色 シルト しまり強 10YR5/8黄褐色シルトを含む
20．10YR2/2黒褐色 シルト しまりなし 10YR5/8黄褐色シルトを含む
21．10YR2/2黒褐色 シルト しまりなし 10YR5/8黄褐色シルトを多く含む
22．10YR2/1黒色 シルト しまりなし
23．5YR5/8 明赤褐色 焼土 しまり弱 小礫を含む
24．10YR2/3黒褐色 粘土 しまり中 炭化物を含む
25．10YR2/3黒褐色 粘土 しまりなし 炭化物を含む
26．10YR4/6褐色 砂質シルト しまりなし
27．10YR2/3黒褐色 粘土 しまりなし 炭化物を含む
28．10YR5/6黄褐色 粘土 しまりなし
29．10YR2/3黒褐色 シルト しまり中 焼土を含む
30．10YR4/6褐色 砂質シルト しまりなし

第27図 SI03·04竪穴住居



第28図　SI05竪穴住居

（58）**ＳＫＩ04竪穴状遺構**（第29図、写真図版20）

＜位　置＞　ＶＢ－８１グリットに位置する。

＜規　模＞　長軸2.82m、短軸2.06m、深さ６～８cmである。

＜平面形＞　南北に延びる長方形を呈している。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　埋土の状態は人為的に埋められたようで、床面近くには炭化物を含んでいた。周りを囲むように柱穴があり、この遺構との繋がりが考えられる。

（59）**ＳＫＩ05竪穴状遺構**（第29図、写真図版20）

＜位　置＞　ＶＣ－４ｉグリットに位置する。

＜規　模＞　調査区外に延びているので規模の詳細は不明であるが、長軸は2.8m・短軸は1.8mである。

＜平面形＞　方形がかった円形を呈している。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　壁の高さは40～50cmで、お椀状に立ち上がっている。焼土は確認されず、壁・床面が粘土質であることから、粘土採掘場の可能性も考えられる。

土坑関係（第30・31図、写真図版21・22）

Ｅ'・Ｆ'区からは８基の土坑を検出した。ＳＫ21土坑からは土師器片が１点（98）、須恵器片が３点（99～101）出土している。土師器片は内黒の坏口縁部である。須恵器片はいずれも甕の底部と思われ、２点にはロクロ形成の痕がある。ＳＫ30土坑からはロクロ成形のかわらけ片（102）が出土している。

各土坑の規模・形態は下表のとおりである。

Ｅ'・Ｆ'区の土坑（ＳＫ）一覧

区	(No)遺構名	グリット位置	直径cm	深さcm	形　態	埋　土	備　考
Ｅ'区	(60)SK21	ＶＡ-11ｉ	120×110	34	円形	５層に分かれる	古代
	(61)SK22	ＶＡ-11ｌ	74× 72	20	方形	暗褐色シルトの単層	近・現代の可能性有り
	(62)SK24	ＶＡ-10ｋ	100× 70	14	三角形	褐色粘土の単層	時期不明
	(63)SK27	ＶＢ-８ｋ	66× 80	22	円形	３層に分かれる	時期不明
Ｆ'区	(64)SK28	ＶＣ-６ｃ	114× 96	60	円形	地山を含む褐色土の単層	時期不明
	(65)SK29	ＶＣ-６ｅ	98× 67	65	方形に近い楕円	地山を含む黒褐色土の単層	時代不明
	(66)SK30	ＶＢ-６ｔ	170× 50	32	細長い楕円形	２層に分かれる	平安
	(67)SK31	ＶＢ-６ｔ	100× 80	33	楕円形	地山を含む褐色土の単層	ＳＫ30より新しい

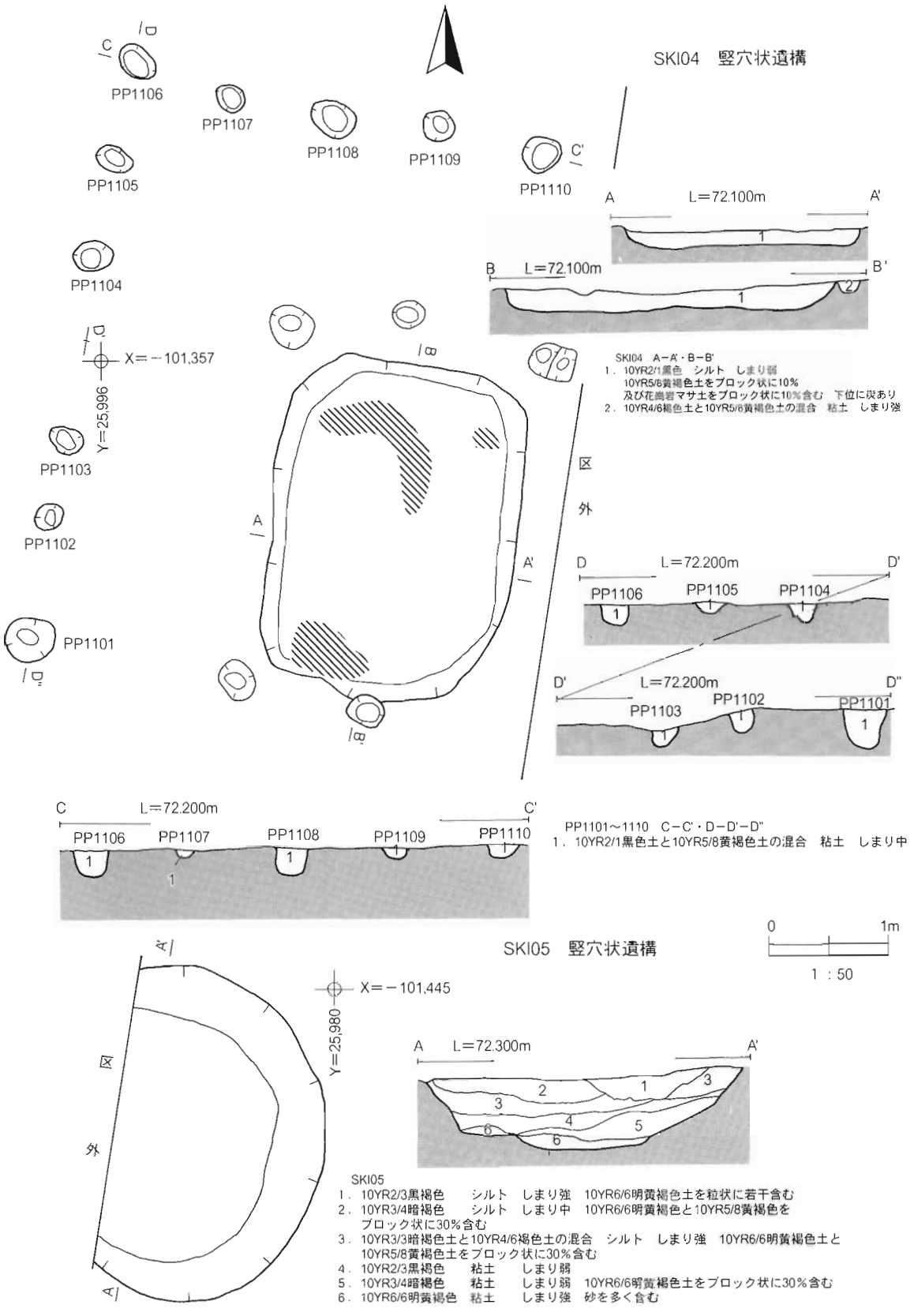
※深さは、地山面を基準としている。

（68）**ＳＸ06陥し穴**（第31図、写真図版23）

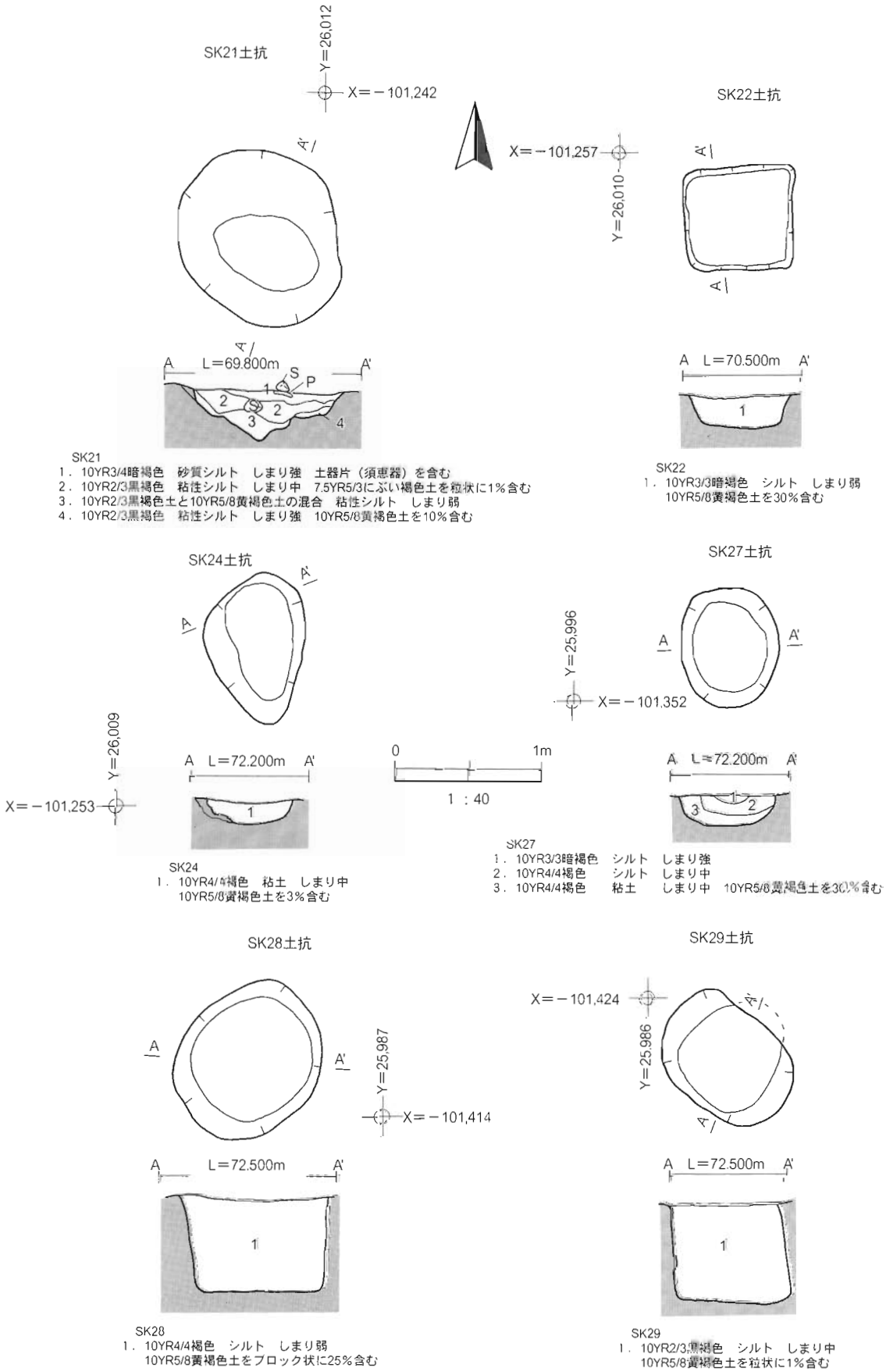
＜位　置＞　ＶＢ－７１グリットに位置する。

＜規　模＞　長軸2.8m、短軸0.28～1.10m、深さ60cm前後である。

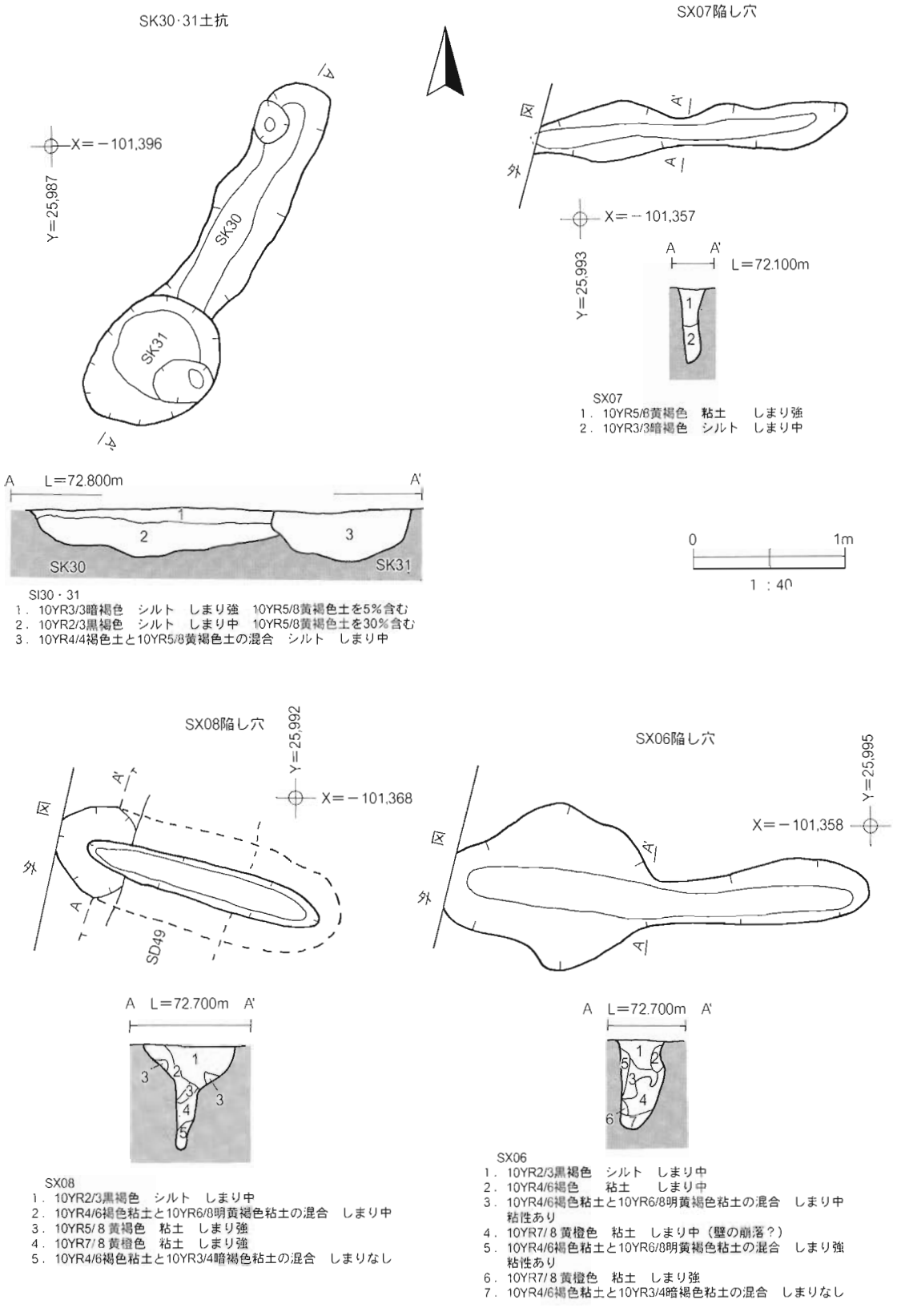
＜平面形＞　東西に細長い楕円形を呈している。



第29図　SKI04·05竪穴状遺構



第30図　SK21・22・24・27・28・29溝



第31図　SK30・31土坑　SX06・07・08陥し穴

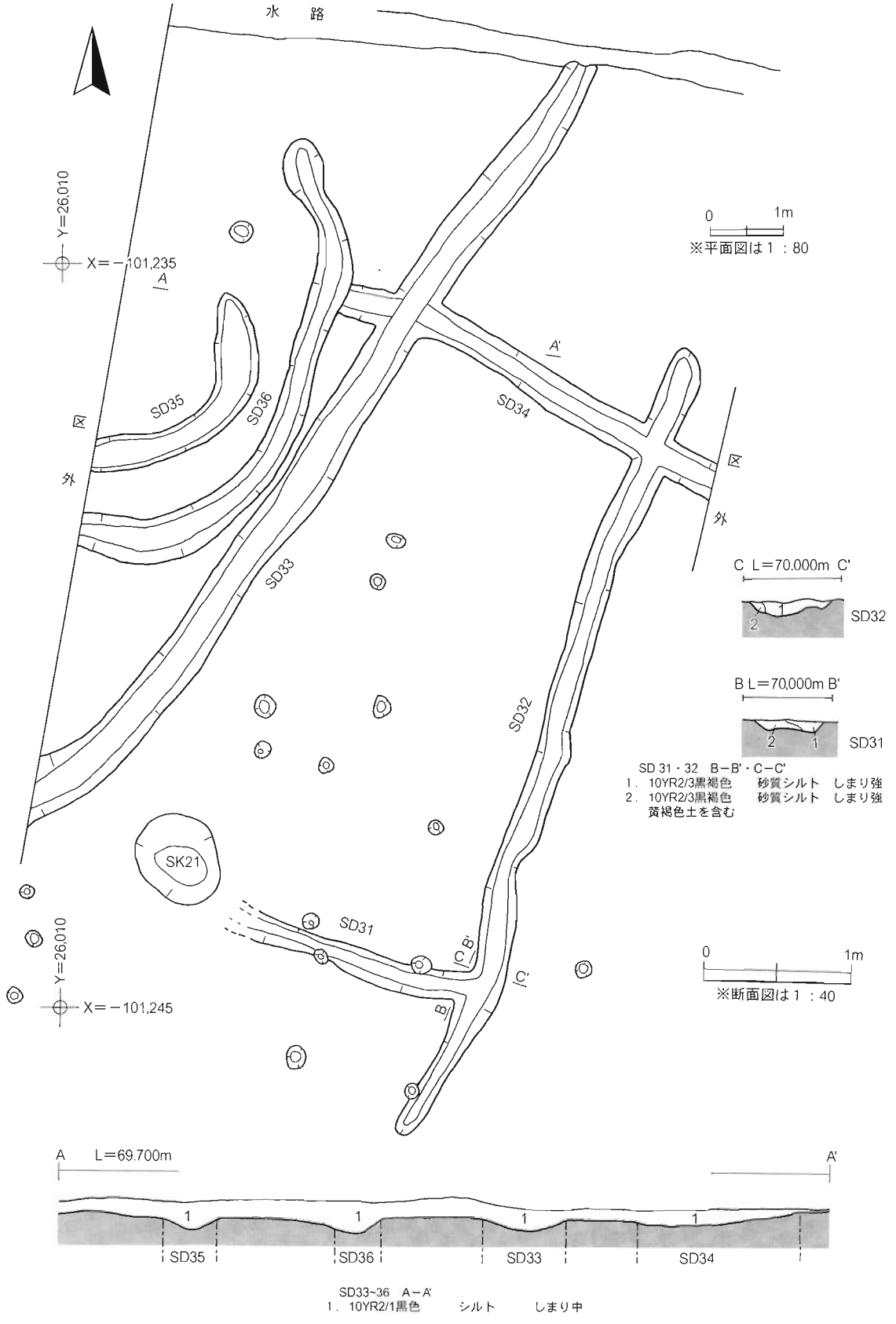
＜埋　土＞　７層に細分される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　短軸方向の断面形状は、他の陥し穴と同様開口部が広がったくさび形の形状を呈している。

（69）**ＳＸ07陥し穴**（第31図、写真図版23）
＜位　置＞　ＶＢ－７１グリットに位置する。
＜規　模＞　全長不明、短軸20～30㎝、深さ50㎝前後である。
＜平面形＞　東西に細長く延びた楕円形を呈している。
＜埋　土＞　黄褐色粘土と暗褐色シルトの２層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　ＳＸ06陥し穴同様、短軸方向の断面は上部が広がった形状を呈している。

（70）**ＳＸ08陥し穴**（第31図、写真図版23）
＜位　置＞　ＶＢ－７ｎグリットに位置する。
＜規　模＞　長軸1.6ｍ、短軸30㎝、深さ70㎝前後である。
＜平面形＞　長軸がほぼ東西方向に延びた溝状を呈している。
＜埋　土＞　５層に細分される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　短軸方向の断面形状が、底から40㎝ほどのところで急に狭くなっている。

（71）**ＳＤ31溝**（第32図、写真図版23）
＜位置･走行＞　ＶＡ－11ｈグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長3.2ｍ、幅30～40㎝、深さ10㎝前後である。
＜断面形＞　浅い皿形を呈している。
＜埋　土＞　２層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　上部が削られており深さはあまりない。ＳＤ32溝と東側で直行する。２つの溝は埋土の状態から同時期の遺構と考えられる。

（72）**ＳＤ32溝**（第32図、写真図版24）
＜位置･走行＞　ＶＡ－11ｈグリットに位置し、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長11.2ｍ、幅30～40㎝、深さ10㎝前後である。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　２層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　南側でＳＤ31溝と、北側でＳＤ34溝と直交する。南北とも調査区の途中で切れているが、上部がかなり削られており、本来はもっと長かったと考えられる。



第32図　SD31・32・33・34・35・36溝

（73）ＳＤ33溝（第32図、写真図版24）

＜位置･走行＞　ＶＡ－11ｈグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅40～80㎝、深さ５～20㎝である。

＜断面形＞　浅い皿状を呈している。

＜埋　土＞　黒色シルトの単層である。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ34溝と直交する。この地区周辺のほかの溝跡と幅は同程度であるが、検出面だけでみると全長は最も長い。

（74）ＳＤ34溝（第32図、写真図版24）

＜位置･走行＞　ＶＡ－11ｈグリットに位置し、東西方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅40～50㎝、深さ５㎝前後である。

＜断面形＞　浅い皿状を呈している。

＜埋　土＞　黒色シルトの単層である。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　上部が削られており深さはあまりない。ＳＤ32・33溝と直交し、東側は調査区外まで延びている。

（75）ＳＤ35溝（第32図、写真図版24）

＜位置･走行＞　ＶＡ－11ｈグリットに位置する。西側から調査区内に入り込み、北側に曲がっている。

＜規　模＞全長不明、幅40～60㎝、深さ５～10㎝である。

＜断面形＞　浅い皿状を呈している。

＜埋　土＞　黒色シルトの単層である。

＜遺　物＞　周辺から土師器の坏片が数点と、須恵器片が１点（106）、古瓦片が１点（103）出土している。土師器片の２点は坏の底部で回転糸切り痕を残す。須恵器片はロクロ成形しており、甕の口縁部と思われる。古瓦片は丸瓦で表面に縄目痕、裏面に布目痕を残す。

＜特　徴＞　ＳＤ36溝と平行して西側から調査区内に入り込み、北側に湾曲して途中で切れる。周辺から遺物が出土しているが、この溝との関連は不明である。形状から見ると雨裂溝の可能性もある。

（76）ＳＤ36溝（第32図、写真図版24）

＜位置･走行＞　ＶＡ－11ｈグリットに位置する。西側から調査区内に入り込み、北側に曲がっている。

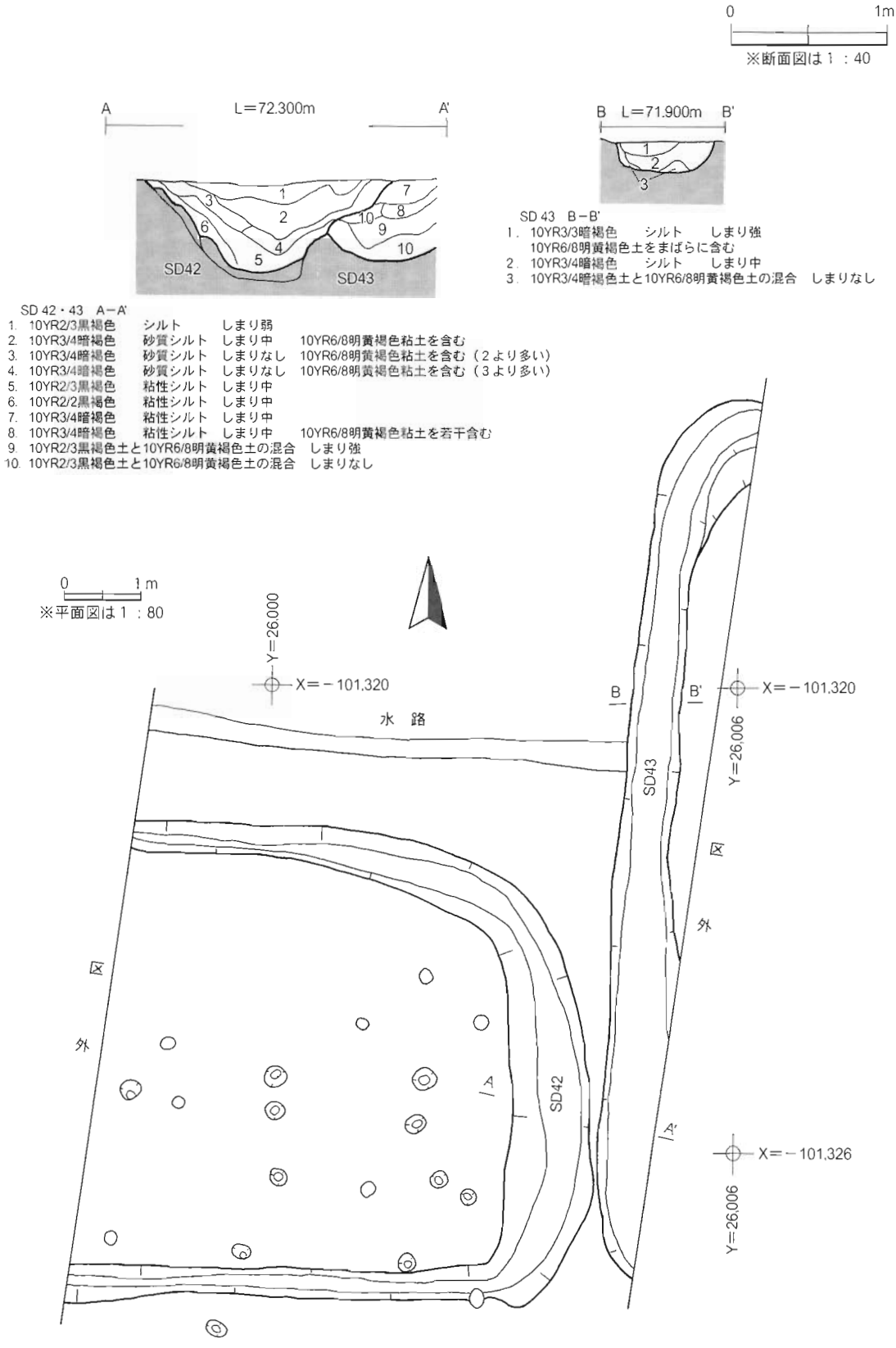
＜規　模＞　全長不明、幅30～60㎝、深さは５㎝弱である。

＜断面形＞　浅い皿状を呈している。

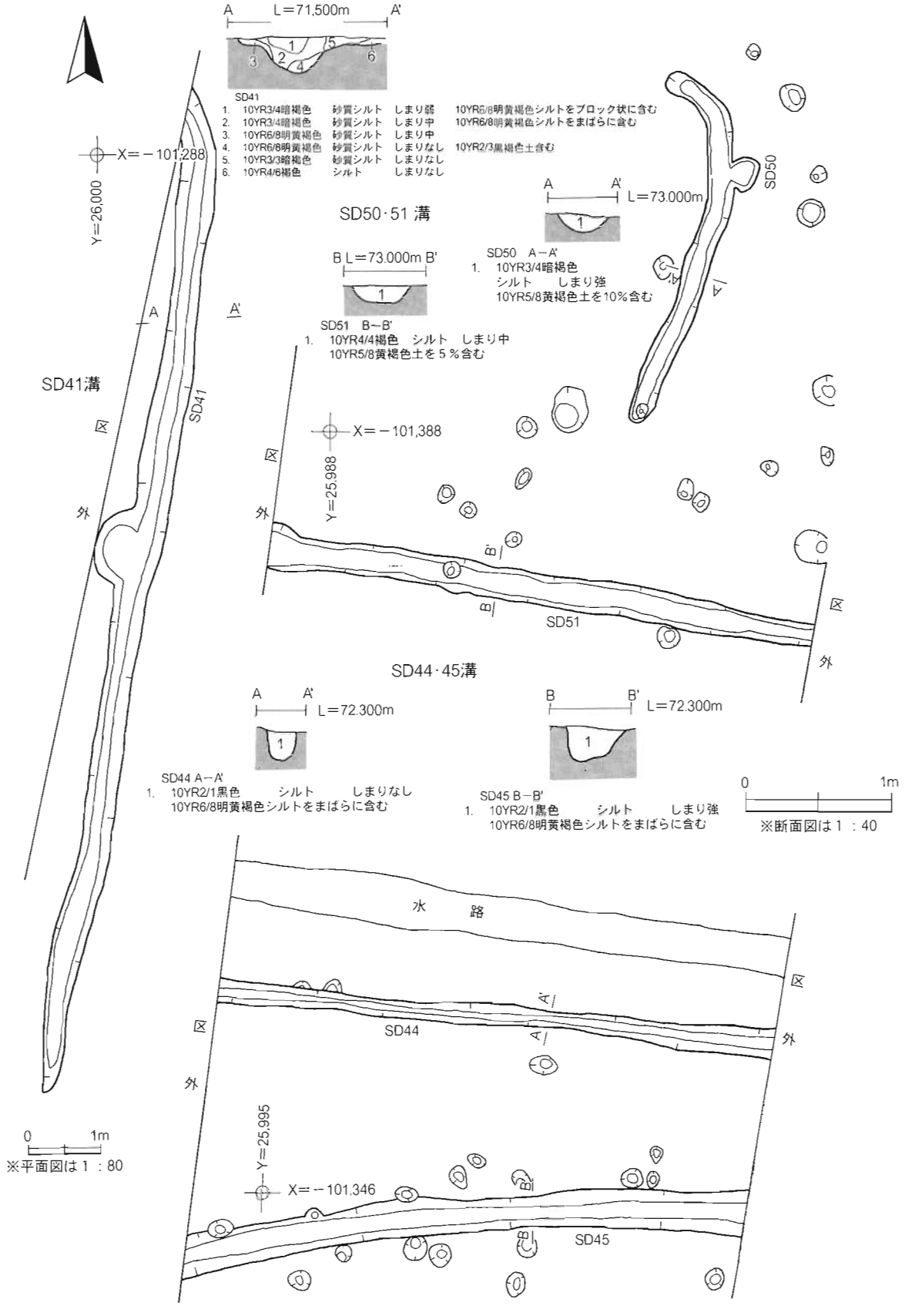
＜埋　土＞　黒色シルトの単層である。

＜遺　物＞　周辺から土師器片、須恵器片、古瓦片が出土している（ＳＤ35溝を参照）。

＜特　徴＞　ＳＤ35溝と平行して西側から調査区内に入り込み、北側に湾曲して途中で途切れている。ＳＤ35溝同様に、雨裂溝の可能性がある。



第33図 SD42·43溝



第34図　SD41·44·45·50·51溝

（77）ＳＤ42溝（第33図、写真図版25）

＜位置･走行＞　ＶＢ－９ｅグリットに位置する。調査区内でＵ字状に湾曲し、両サイドが西方に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅0.3～1.1ｍ、深さ10㎝前後である。

＜断面形＞　底がやや平らなＶ字状を呈している。

＜埋　土＞　８層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　Ｕ字状の内側で柱穴状土坑を検出しているが、掘立柱建物に伴う並びは確認できない。

（78）ＳＤ43溝（第33図、写真図版25）

＜位置･走行＞　ＶＢ－９ｅグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅0.6～1.0ｍ、深さ15～25㎝である。

＜断面形＞　浅いＵ字状を呈している。

＜埋　土＞　北側は３層、南側は５層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ42溝と重なっているが、埋土の状態からＳＤ42溝の方が新しいと推定される。

（79）ＳＤ41溝（第34図、写真図版25）

＜位置･走行＞　ＶＡ－９ｒグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅30～50㎝、深さは15～20㎝である。

＜断面形＞　半円を呈している。

＜埋　土＞　６層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　中央に土坑状のくぼみが見られる。南側は途中で切れているが、北側は西方に曲がり、調査区外まで延びている。

（80）ＳＤ50溝（第34図、写真図版26）

＜位置･走行＞　ＶＢ－６ｒグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長５ｍ、幅25～30㎝、深さ10～25㎝である。

＜断面形＞　浅い皿状を呈している。

＜埋　土＞　暗褐色土に埴土が10％程度混入した単層である。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　北側でやや西に湾曲している。上部が削られており、本来はもっと長かったと考えられる。

（81）ＳＤ51溝（第34図、写真図版26）

＜位置･走行＞　ＶＢ－６ｒグリットに位置し、東西方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅30～60㎝、深さ15㎝前後である。

＜断面形＞　浅い皿状を呈している。

＜埋　土＞　褐色土に埴土が５％程度混入した単層である。

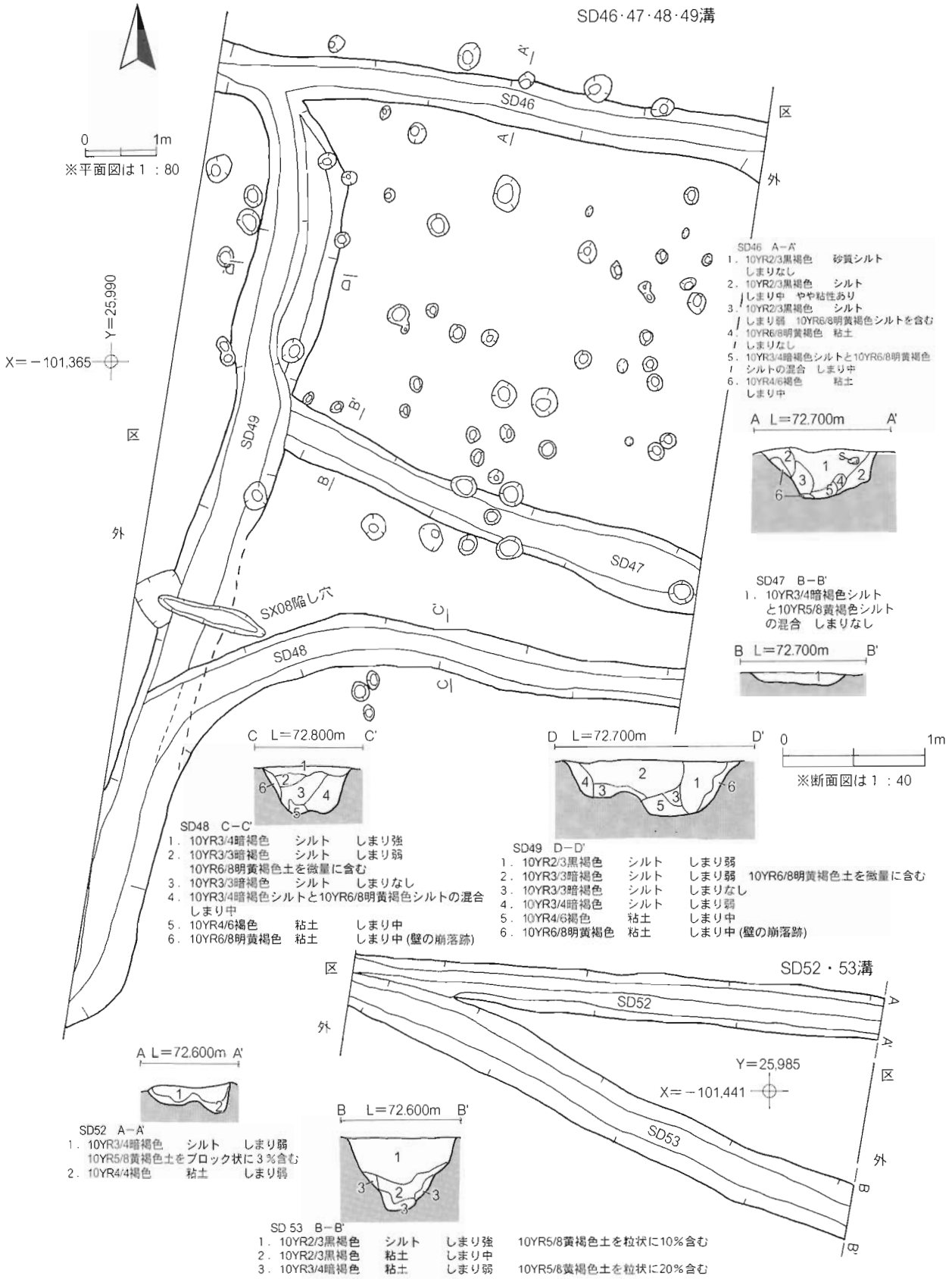
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　最近まで使用していた水路と走行が同じで、近・現代に造られた可能性が考えられる。

（82）**ＳＤ44溝**（第34図、写真図版26）
＜位置･走行＞　ＶＢ－７ｊグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅20～40㎝、深さ15～20㎝である。
＜断面形＞　やや深めのＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　褐色シルトに黄褐色シルトをブロック状に含む単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　ＳＤ51溝とほとんど平行にあり、同時期に造られた可能性が高い。

（83）**ＳＤ45溝**（第34図、写真図版26）
＜位置･走行＞　ＶＢ－８ｊグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅40～60㎝、深さ20～25㎝である。
＜断面形＞　底部が平らなＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　ＳＤ44溝と同じく、褐色シルトに黄褐色シルトをブロック状に含む単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　やや南側に湾曲しており、周囲に柱穴状ピットを多数伴う。

（84）**ＳＤ46溝**（第35図、写真図版27）
＜位置･走行＞　ＶＢ－７ｎグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅50～70㎝、深さ30㎝前後である。
＜断面形＞　南に傾いたＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　６層に細分される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　前述のＳＤ44・51溝とほぼ並行に延び、西側でＳＤ49溝と交わっている。

（85）**ＳＤ47溝**（第35図、写真図版27）
＜位置･走行＞　ＶＢ－７ｎグリットに位置し、ＷＷＮ－ＥＥＳ方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.6～1.0ｍ、深さ10㎝前後である。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　暗褐色土と埴土が混合した単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　西側はＳＤ49溝と交わったところで途切れる。ＳＤ46溝と同じような並びであるが、やや南北に傾いている。



第35図　SD46・47・48・49・52・53溝

（86）**ＳＤ48溝**（第35図、写真図版27・28）

＜位置･走行＞　ＶＢ－７ｎグリットに位置する。西方向から調査区内で逆Ｓ字を描いて東方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅0.5～1.0ｍ、深さ30～40㎝である。

＜断面形＞　やや深めのＵ字状を呈している。

＜埋　土＞　６層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　西側のＳＤ49溝と交うあたりで幅が広くなり、深さも増している。埋土の状態がＳＤ49溝と似ており、同時期に造られた可能性が考えられる。

（87）**ＳＤ49溝**（第35図、写真図版27・28）

＜位置･走行＞　ＶＢ－７ｎグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅50～90㎝、深さ20～50㎝である。

＜断面形＞　Ｕ字状を呈しており、北側の東サイドが段状になっている。

＜埋　土＞　北側で６層に細分される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　北側が段状になっていて、もう一本の溝が重複していた可能性がある。また南側のＳＤ48溝と交わるところにＳＸ08陥し穴があるが、断面の状態からはＳＤ49溝が新しいと考えられる。

（88）**ＳＤ52溝**（第35図、写真図版28）

＜位置･走行＞　ＶＣ－５ｉグリットに位置し、東西方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅50～60㎝、深さ10～20㎝である。

＜断面形＞　中央がやや膨らんだ皿状を呈している。

＜埋　土＞　２層に大別される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

＜特　徴＞　ＳＤ44・46・51溝とほぼ平行に並んでおり、近・現代に造られた可能性が高い。

（89）ＳＤ53溝（第35図、写真図版28）

＜位置･走行＞　ＶＣ－５ｉグリットに位置し、ＷＷＮ－ＥＥＳ方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅は70～80㎝、深さ45～50㎝である。

＜断面形＞　深いＶ字状を呈している。

＜埋　土＞　３層に大別される。

＜遺　物＞　出土遺物なし。

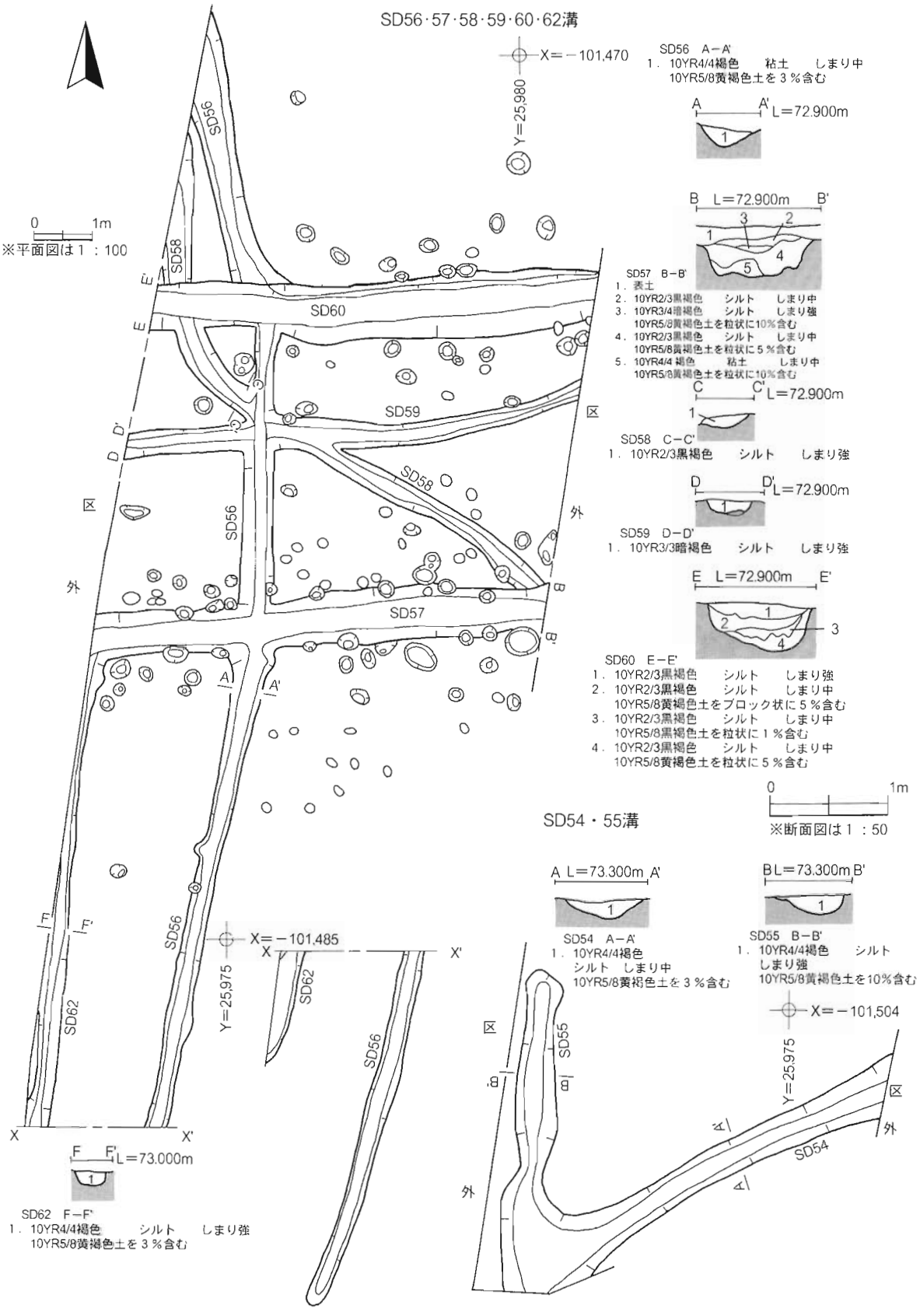
＜特　徴＞　西側でＳＤ52溝と鋭角に交叉する。ＳＤ47溝とほぼ同じ並びになるが、断面の形状は大分異なる。

（90）**ＳＤ56溝**（第36図、写真図版29）

＜位置･走行＞　ＶＣ－４Ｐグリットに位置し、南北方向に延びている。

＜規　模＞　全長不明、幅30～70㎝、深さ10㎝前後である。

＜断面形＞　上部が開いたＶ字状を呈している。



第36図 SD54・55・56・57・58・59・60・62溝

＜埋　土＞　褐色土に埴土が３％ほど混入した単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　多くの溝と交叉している。埋土の状態から、交叉している溝の中で最も古いと考えられる。

（91）ＳＤ57溝（第36図、写真図版29）
＜位置･走行＞　ＶＣ－４Ｐグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.6～1.0ｍ、深さ35～40㎝である。
＜断面形＞　浅いＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　４層に細分される。
＜遺　物＞　口径が９㎝ほどのかわらけ片（107）が出土している。
＜特　徴＞　後述のＳＤ60溝と平行に並び、埋土の状態からもほぼ同時期に造られたと考えられる。

（92）ＳＤ58溝（第36図、写真図版29）
＜位置･走行＞　ＶＣ－４Ｐグリットに位置する。調査区内の途中でＳ字状になり、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅30～50㎝、深さ７～20㎝である。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　黒褐色シルトの単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　埋土の状態から、ＳＤ57～62溝の中で最も新しいと考えられる。

（93）ＳＤ59溝（第36図、写真図版29）
＜位置･走行＞　ＶＣ－４Ｐグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅20～50㎝、深さ10㎝前後である。
＜断面形＞　浅いＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　暗褐色シルトの単層である。
＜遺　物＞　古瓦片が１点（108）が出土している。
＜特　徴＞　走行はＳＤ57溝に近いが、埋土の状態からみるとＳＤ57溝よりは新しいと考えられる。

（94）ＳＤ60溝（第36図、写真図版29・30）
＜位置･走行＞　ＶＣ－４Ｐグリットに位置し、東西方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅0.7～1.0ｍ、深さ35㎝～50㎝である。
＜断面形＞　浅いＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　４層に細分される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　ＳＤ57溝と同じ並びで、埋土の状態も似ていることから同時期の遺構と考えられる。

（95）ＳＤ62溝（第36図、写真図版29・30）
＜位置･走行＞　ＶＣ－４Ｐグリットに位置し、南北方向に延びている。

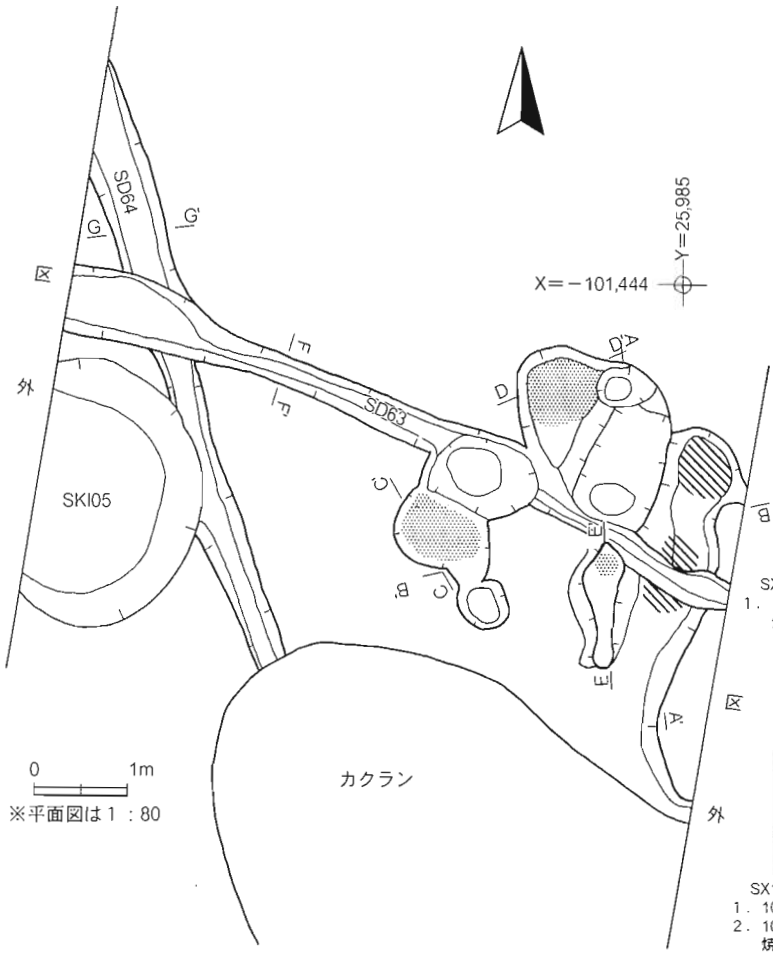
＜規　模＞　全長不明、幅30～40cm、深さ10～15cmである。
＜断面形＞　浅いＵ字状を呈している。
＜埋　土＞　褐色シルトの単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　ＳＤ56溝と平行にあるが、途中で西方に湾曲し調査区外まで延びている。埋土の状態はＳＤ56溝に似ており、この区域の溝の中では最も古い時期の遺構と考えられる。

（96）**ＳＤ54溝**（第36図、写真図版30）
＜位置･走行＞　ＶＤ－３ｂグリットに位置し、ＥＥＮ－ＷＷＳ方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅50～80cm、深さ15～20cmである。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　埴土が若干混入した褐色シルトの単層である。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　今回検出した他の溝跡とは走行が異なる。埋土の状態はＳＤ56溝に似ており、古い時期に造られた遺構と考えられる。

（97）**ＳＤ55溝**（第36図、写真図版30）
＜位置･走行＞　ＶＤ－３ｂグリットに位置し、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅50～80cm、深さ15～20cmである。
＜断面形＞　浅い皿状を呈している。
＜埋　土＞　ＳＤ54溝と同じであるが、埴土の混入量がやや多い。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　ＳＤ54溝と南側で鋭角に交わる。二つの溝の関連は分からないが、埋土から見て同時期の遺構と考えられる。

（98）**ＳＤ63溝**（第37図、写真図版30）
＜位置･走行＞　ＶＣ－５ｉグリットに位置し、ＷＷＮ－ＥＥＳ方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅30～70cm、深さ30cm前後である。
＜断面形＞　Ｕ字状を呈している。
＜埋　土＞　埴土をブロック状に含んだ黒褐色シルトを主体とする２層に大別される。
＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　東西に伸びる方向はＳＤ53溝に近い。後述の複合窯と同時期か、もしくは古いと考えられる。

（99）**ＳＤ64溝**（第37図）
＜位置･走行＞　ＶＣ－５ｉグリットに位置し、南北方向に延びている。
＜規　模＞　全長不明、幅は30～70cm、深さ30cm前後である。
＜断面形＞　Ｕ字状を呈している。
＜埋　土＞　不明

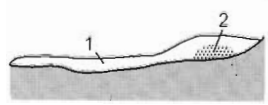


C　L=72.400m　C'

D　L=72.400m　D'

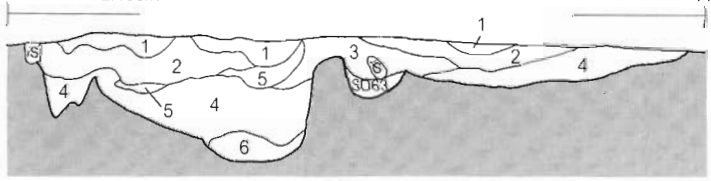
SX12　C－C'・D－D'
1．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり弱
　焼土を粒状に20%、炭を片状に１%含む
　（焼土が底部に薄く、壁側に厚く残っている）

E　L=72.400m　E'



SX12　E－E'
1．10YR3/4暗褐色　　粘土　　しまり弱
2．10YR3/4暗褐色　　粘土　　しまり弱
　焼土をブロック状に50%含む

A　L=72.400m　A'

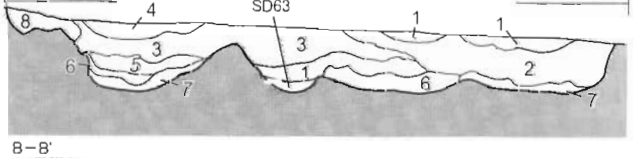


SX12　A－A'
1．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり強
　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に３%、焼土をブロック状に１%含む
2．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり中　　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に１%、炭小片を若干含む
3．10YR3/3暗褐色　　粘土　　しまり弱　　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に２%含む
4．10YR3/3暗褐色　　シルト　しまり中
　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に15%．焼土をブロック状に２%含む
5．10YR2/2黒褐色　　粘土　　しまり中
6．10YR3/4暗褐色　　シルト　しまり強　　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に３%含む

F　F'　L=72.400m

SD63　F－F'
1．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり強
2．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり中
　10YR5/8黄褐色土をブロック状に50%含む

B　L=72.400m　B'



SX12　B－B'
1．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり強　　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に40%含む
2．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり中
　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に１%、焼土をブロック状に５%含む
3．10YR3/3暗褐色　　粘土　　しまり弱　　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に２%含む
4．10YR2/2黒褐色　　粘土　　しまり中
5．10YR3/4暗褐色　　シルト　しまり中　　焼土を全体的に含む
6．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり中　　焼土をブロック状に７%、炭をブロック状に５%含む
7．10YR3/4暗褐色　　シルト　しまり強　　10YR6/6明黄褐色土をブロック状に３%含む
8．10YR2/3黒褐色　　シルト　しまり強　　焼土をブロック状に５%含む

G　L=72.500m　G'

SD64　G－G'
埋土不明

0　1m
※断面図は１：40

第37図　SD63･64溝　SX12複合窯

＜遺　物＞　出土遺物なし。
＜特　徴＞　ＳＤ63溝と交差しており、２つの溝の関連が考えられる。

（100）**ＳＸ12複合窯**（第37図、写真図版31）
＜位　置＞　ＶＣ－５ｉグリットに位置する。
＜規　模＞　調査区外にかかっており詳細は不明であるが、検出範囲で見ると長軸5.0m、短軸3.4mである。
＜平面形＞　楕円形をした複数の窯跡が混在する。
＜遺　物＞　かわらけ？と思われるものの口縁部が２点（109・110）と、土師器の甕底部と思われるものが１点（111）出土している。
＜特　徴＞　複数の窯跡が重なり合って花びら状に並んでいる。東側調査区外まで続いており、周辺に大規模な土器焼成遺構があったことが予想される。

Ⅴ　まとめ

１　出土遺物

縄文時代の遺物

石篦と掻器がＳＤ23溝及びその周辺から１点ずつ（37・115）出土している。掻器は上部が破損しており石篦は先端部が一部欠けている。材質はいずれも頁岩で、奥羽山脈産とみられる。

土器片のうちの５点（38～42）はＳＤ23溝から出土している。厚さは５㎜と薄く、原体や材質も似ており同一個体の土器片と思われる。その中の１点（42）には沈線に沿って竹串のようなもので付けた刺突列がある。他の土器片はＳＸ12複合窯付近の撹乱面で出土しているが、表面の摩滅がひどく、原体や文様をはっきり判別できない。

古代の遺物

遺物の多くが土師器片で、その半分以上が竪穴住居址から出土した坏である。坏の口径は12～15㎝あり、大半の口縁部は外傾している。また、大部分がロクロを使用して回転糸切りの痕を伴っている。内黒のものが３分の１あり、表裏両面に黒色処理が施されているものも何点かみられる。坏は「岩手の土器」の編年における古代Ⅲ－１～２群に分類され、相原康二氏試案の「岩手県南部における古代土器群編年」（岩手県文化財調査報告書第60集1981）でみると第Ⅷ群期に位置づけられる。時期としては９世紀代と想定する。

各住居址から出土した坏を次のように分類し、第４表にまとめてみた。

Ａ群…ロクロ使用のもの　　Ｂ群…ロクロ未使用のもの

Ⅰ類…内面にミガキ、黒色処理が施されているもの　　Ⅱ類…内外面とも調整を持たないもの

ａ種…底部に回転糸切り痕を残すもの　　ｂ種…底部に調整痕のあるもの

第４表　住居址ごとの坏分類

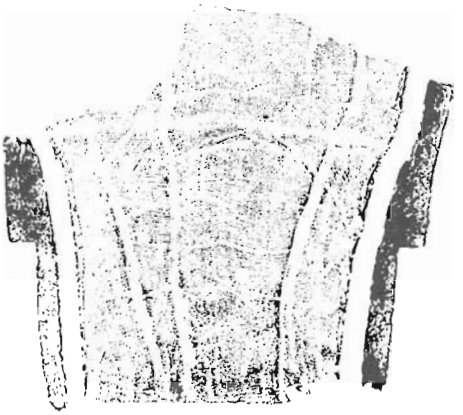
住居名	点数	分類	底部の状態が分かるもの		底径／口径
			点数	分類	
ＳＩ01	５点	ＡⅠ１点、ＡⅡ４点	２点	ＡⅡａ２点	
ＳＩ02	４点	ＡⅠ１点、ＡⅡ２点、ＢⅠ１点	２点	ＡⅡａ２点	0.39～0.40
ＳＩ03	８点	ＡⅠ２点、ＡⅡ６点	６点	ＡⅠａ１点、ＡⅡａ５点	0.37～0.47
ＳＩ05	23点	ＡⅠ18点、ＡⅡ３点、ＢⅠ２点	18点	ＡⅠａ11点、ＡⅠｂ３点、ＡⅡａ２点、ＢⅠｂ２点	0.36～0.44

※底径／口径は完形品及び底径・口径の値が推定できるものを対象にした値

ＳＩ01～03竪穴住居から出土した坏はＡⅡａに属するのも、すなわちロクロ使用で内外面とも調整を持たず、回転糸切り痕を残すものの割合が高い。一方ＳＩ05住居から出土した坏はＡＩａに属するもの、すなわちロクロ使用で内黒ミガキの調整を持ち回転糸切り痕を残すものが主体となる。第24回古代城柵官衛遺跡検討会資料集にある「北上盆地南部の土器形式区分表」で分類するとＳＩ01～03竪穴住居出土の坏はｊ～ｋ期（９世紀2／4～3／4)、ＳＩ05住居出土のものはｋ～ｌ期（９世紀3／4～10世紀初頭）に含まれると想定する。

須恵器片も出土しているが、接合できたものはわずかしかない。ほとんどが甕の破片で、坏のものは２点だけである。

古瓦片は全部で５点出土している。４点は丸瓦で１点は平瓦と思われる。いずれも裏面に布目痕を残すが、表面の処理方法に違いが見られる。出土した中で最も大きな丸瓦（103）は、裏面にある布目の形状・粗さが胆沢城出土の古瓦に非常によく似ており、９世紀後半頃のものと想定する。他の瓦片については、時期の詳細は不明である。



遺物番号103

0　10 cm

胆沢城出土丸瓦

その他ＳＩ01竪穴住居から土鈴の紐の部分と思われるもの（８）や、ＳＩ03竪穴住居から左効き用と思われる鎌（54）が出土している。

その他の遺物

12世紀頃と想定するかわらけ片が３点出土している。このうちの２点（４・102）は底部付近に段差があり、断面の形状がよく似ている。もう１点（107）はロクロを使用しているが、底部は摩滅しており調整痕は確認できない。

2　検出遺構

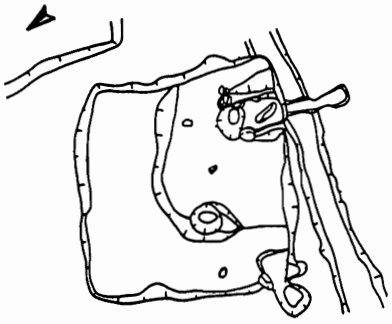
縄文時代の遺構

溝状の陥し穴をＡ'区から４基、Ｂ'区から１基、Ｅ'区から３基検出している。出土遺物を伴わず時期を推定できないが、幅地区は縄文時代のある時期に狩猟の場として利用されていたと考えられる。陥し穴以外では、遺物や埋土の状態から推定して縄文時代にできたと思われる雨裂溝を検出している。

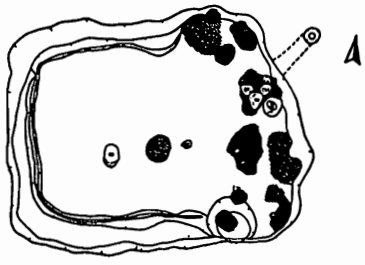
古代の遺構

竪穴住居をＤ'区から２棟（ＳＩ01・02竪穴住居）、Ｅ'区から３棟（ＳＩ03～05竪穴住居）検出している（ＳＩ03竪穴住居とＳＩ04竪穴住居は重複している）。ＳＩ01竪穴住居はカマドの位置がはっきりしていないが、ＳＩ02・04・05竪穴住居は東側の壁面、ＳＩ03竪穴住居は東側と南側の壁面にカマドを伴っている。但しＳＩ03竪穴住居のカマドはその残りの状態から、東側から南側に付け替えたと捉えている。出土遺物からＳＩ01～03竪穴住居は９世紀中頃、ＳＩ05住居は９世紀後半頃の住居跡と推定している。また、ＳＩ05住居には西側と南側の壁際にテラス状の高まりがあり、県内では水沢市林前遺跡でみられる「ベット状遺構」の特徴を持っている。この特徴を持つ住居跡は東北では少なく、北関東（茨城県）に多くの類例がある。政

府が胆沢城造営の際に支援体制を整える目的で駿河以東の浪人四千あまりを移したことが史実にあり、その時の人々によって建てられた可能性も考えられる。幅地区の北東側に政府の関与による「計画村落」があったのかもしれない。



林前遺跡ベット状遺構



ＳＩ05竪穴住居

Ｄ'区で検出した粘土採掘場と思われる跡、Ｆ'区で検出した複合窯、あるいは前沢町教育委員会による町内遺跡詳細分布調査報告書で幅遺跡の種別を「瓦窯跡？」と位置づけており、この周辺に工房関係の施設があった可能性もある。

その他の遺構

その他今回検出した遺構の代表的なものとして、58条を数える溝跡がある。このうち走行が直線的に延びるものは44条、やや湾曲しているものは３条、Ｕ字・Ｊ字、あるいはＳ字状になっているものは11条ある。直線もしくはやや湾曲している溝は、南北に延びているものが20条と最も多く、つづいて東西に延びているものが14条、東北東から西北西に延びているものが６条、北北東から南南西に延びているものが４条、西北西から東南東に延びているものが３条ある。幅で分類すると50㎝を超して１ｍ以下のものが37条と最も多く、つづいて50㎝以下のものが13条、１ｍを越すものは８条である。出土遺物や埋土の状態から時期を推定できるものは17条あり、近・現代のものが３条、平安時代のものが12条、縄文時代のものが２条と想定している。但し平安の２条（ＳＤ35・36溝）、及び縄文の２条（ＳＤ23・24溝）は、埋土の状態、平面・断面形から雨裂溝と思われる。

調査区の幅が狭いため溝の全体像を明らかにできないが、その位置や方向、規模などの資料が整えばその目的が推定できると考える。

＜参考・引用文献＞

水沢市教育委員会1978「胆沢城跡」『昭和53年度発掘調査概報』

水沢市教育委員会1979「林前遺跡」『岩手県水沢市文化財報告書第３集』

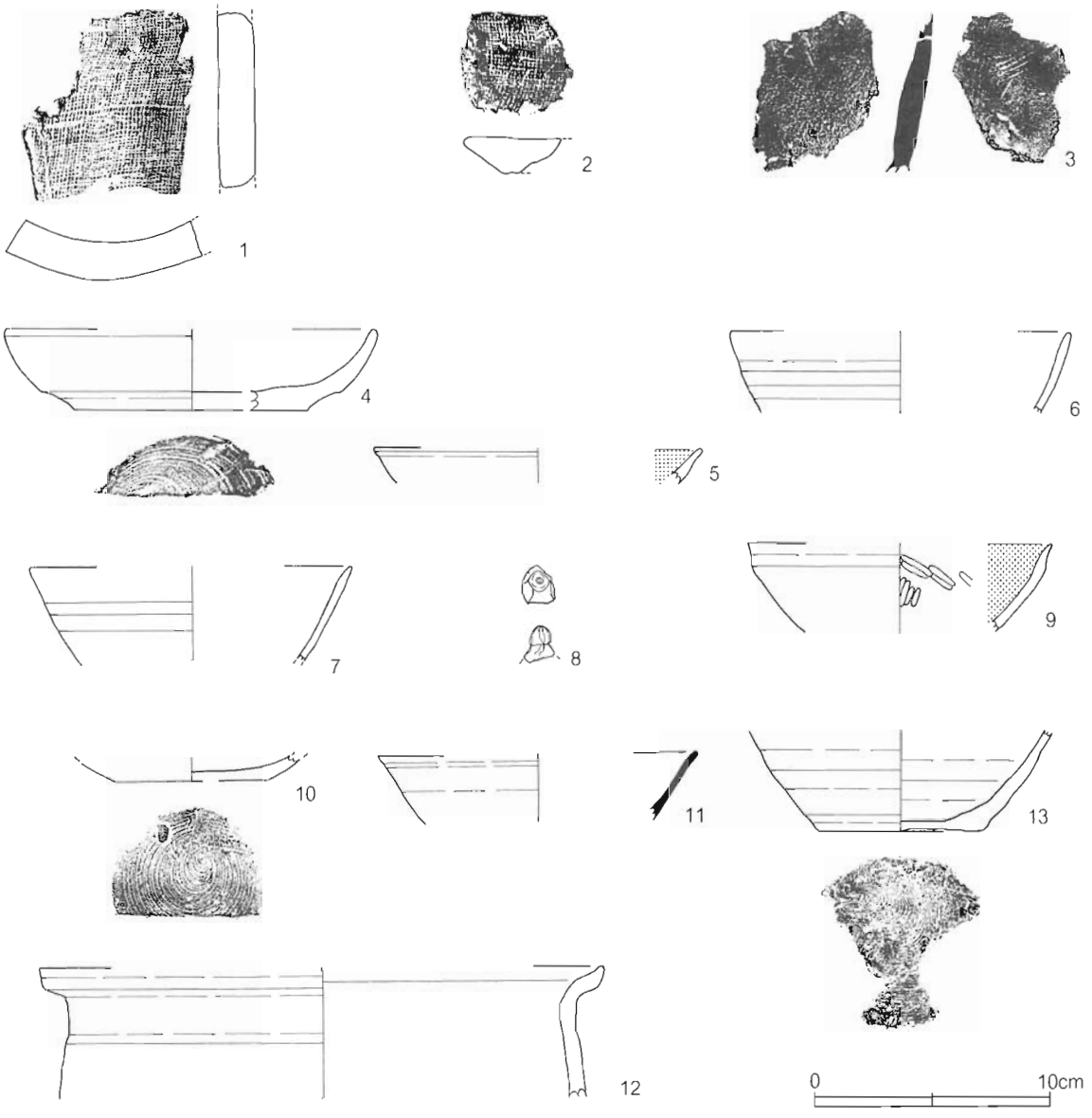
岩手県教育委員会1981「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XI」『岩手県文化財調査報告書第60集』

岩手県立博物館1982「岩手の土器－県内出土資料の集成」

古代城柵官衛遺跡検討会1998「東北地方の古代集落第３分冊」『第24回古代城柵官衛遺跡検討会資料集』

前沢町教育委員会2000「明後沢遺跡第３・４・５次発掘調査」『岩手県前沢町文化財調査報告書第５集』

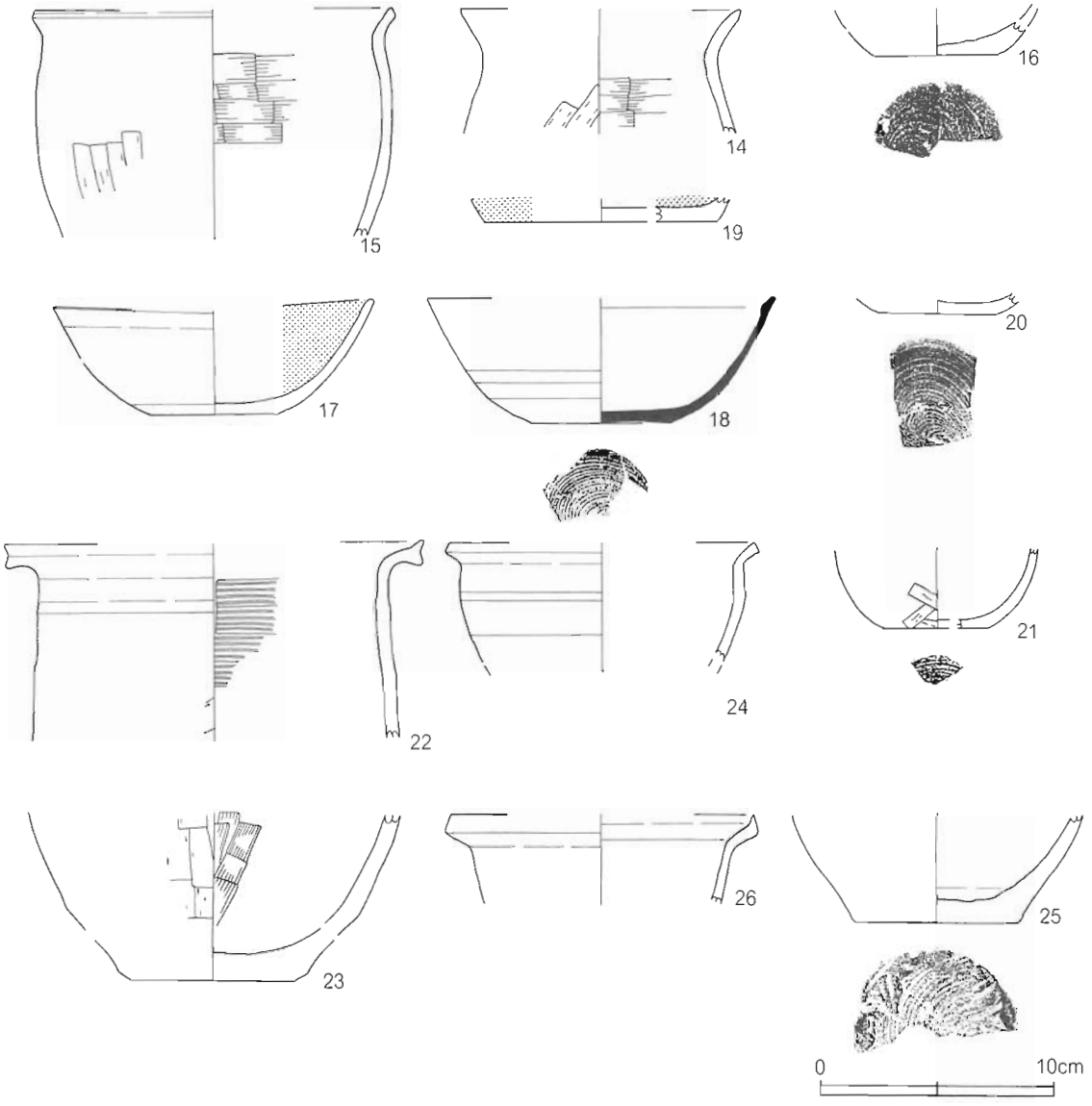
岩手日報社2001「古代・中世を歩く」『いわて未来への遺産』



※単位cm、( )は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
1	A'B'	SD02溝・埋土	瓦	丸瓦				裏に布目					1/2
2	A'B'	SD02溝・埋土	瓦	平瓦?				裏に布目					1/2
3	A'B'	SD02溝・埋土	須恵器	甕?	体部	ヘラナデ、ヘラケズリ					(6.8)	0.9	1/2
4	A'B'	SD03溝・埋土	かわらけ	皿	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	(16.0)	(10.0)	3.4	0.5	1/2
5	A'B'	SD65溝・埋土	土師器	坏	口縁部			ロクロ使用、内黒	(14.0)		(1.5)	0.3	1/2
6	C'D'	SI01住居ピット内	土師器	坏	口縁部			ロクロ使用	(14.4)		(3.5)	0.4	1/2
7	C'D'	SI01住居ピット内	土師器	坏	口縁部			ロクロ使用	(13.6)		(4.2)	0.3	1/2
8	C'D'	SI01住居・埋土	土製品	土鈴?	紐?								1/2
9	C'D'	SI01住居・埋土	土師器	坏	口縁部	ヘラミガキ		ロクロ使用、内黒	(13.0)		(3.8)	0.4	1/2
10	C'D'	SI01住居ピット内	土師器	坏	底部		回転糸切り			6.4	(1.1)	0.4	1/2
11	C'D'	SI01住居ピット内	須恵器	坏	口縁部			ロクロ使用	(13.6)		(2.9)	0.2	1/2
12	C'D'	SI01住居ピット内	土師器	甕	口縁部			ロクロ使用	(24.0)		(5.6)	0.7	1/2
13	C'D'	SI01住居ピット内	土師器	坏	体部～底部		回転糸切り	ロクロ使用		7.0	(4.2)	0.5	1/4

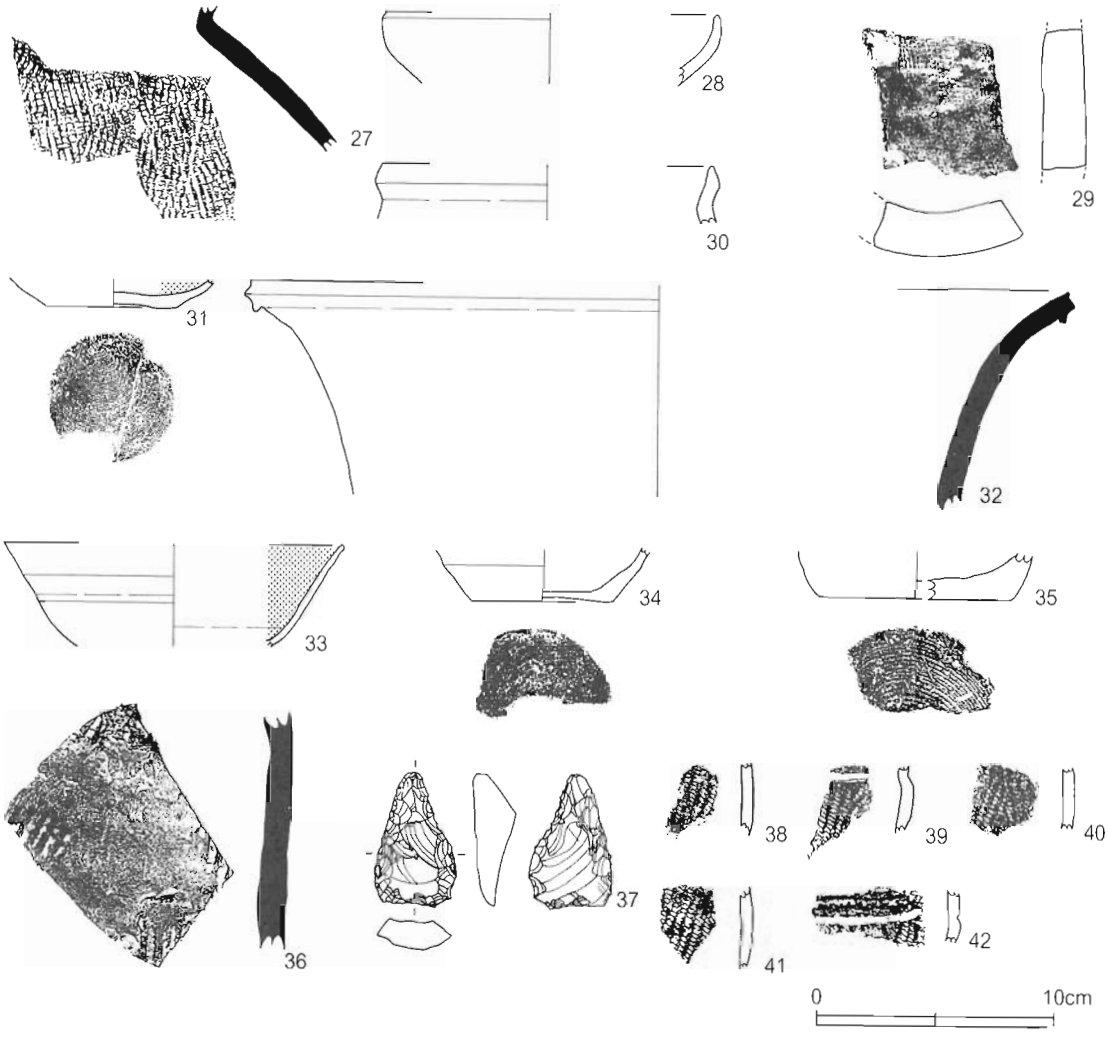
第38図　A′～D′区の遺物



※単位cm、( )は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種　類	器　種	部　位	内面調整	外面調整	特　徴　等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
14	C'D'	SI01住居南側	土師器	甕	口縁部	ヘラナデ	ヘラケズリ		(12.0)		(5.3)	0.5	1/2
15	C'D'	SI01住居南側	土師器	甕	口縁部～体部	ヘラナデ	ヘラケズリ	ロクロ使用	(15.4)		(8.8)	0.5	1/4
16	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	坏	底部		回転糸切り			(5.2)	(2.0)	0.6	1/2
17	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	坏	口縁部～底部			内黒、ロクロ使用	(13.8)	5.4	4.5	0.4	1/4
18	C'D'	SI02住居・埋土	須恵器	坏	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	(15.0)	(6.0)	5.4	0.3	1/4
19	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	坏	底部			内外黒色処理		(10.0)	(1.0)		1/2
20	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	坏	底部		回転糸切り			(5.0)	(0.6)	0.4	1/2
21	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	坏？	底部		ヘラケズリ、回転糸切り			(4.0)	(3.5)	0.4	1/2
22	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	甕	口縁部～底部	ハケメ	ヘラケズリ	ロクロ使用	(18.0)		(8.5)	0.6	1/4
23	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	甕	体部～底部	ヘラナデ	ヘラケズリ		(16.0)	7.0	(7.2)	0.7	1/4
24	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	甕	口縁部～体部			ロクロ使用	(13.0)		(5.6)	0.5	1/2
25	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	甕？	底部		回転糸切り	ロクロ使用		7.0	(4.7)	0.7	1/4
26	C'D'	SI02住居・埋土	土師器	甕？	口縁部			ロクロ使用	(13.0)		(3.9)	0.3	1/2

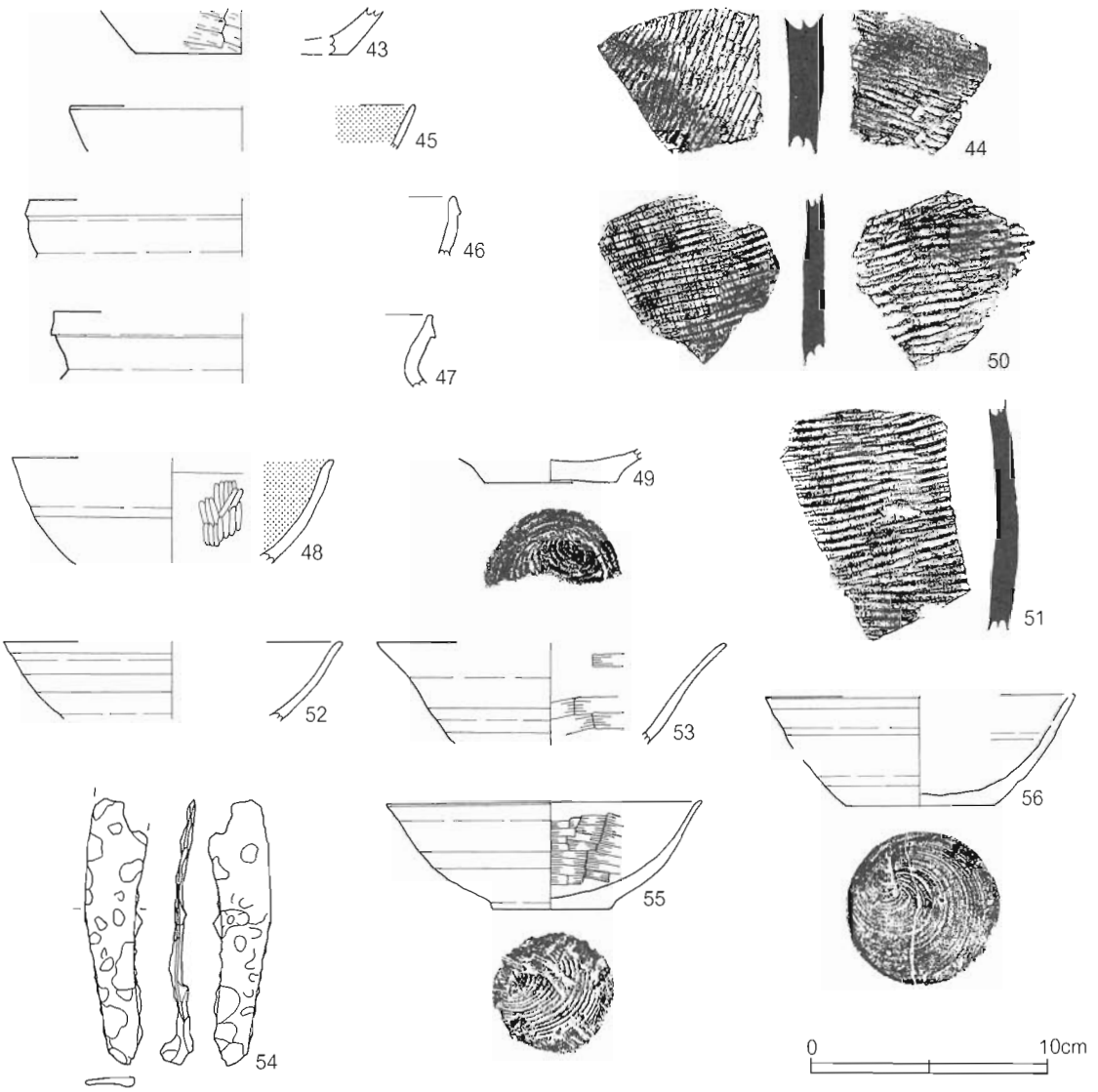
第39図　C′・D′区の遺物



※単位cm、( )は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
27	C'D'	SK17土坑・埋土	須恵器	甕	頸部		タタキメ						1/2
28	C'D'	SD25溝・埋土	かわらけ？	皿？	口縁部			ロクロ使用	(14.0)			0.5	1/2
29	C'D'	SD25溝・埋土	瓦	丸瓦				裏に布目					1/2
30	C'D'	SD12・13溝・埋土	土師器	甕？	口縁部			ロクロ使用	(14.0)		(2.3)	0.5	1/2
31	C'D'	SD12・13溝・埋土	土師器	坏	底部		回転糸切り	内黒		5.4	(1.2)	0.3	1/2
32	C'D'	SD21・35・36溝	須恵器	甕	口縁部			ロクロ使用	(34.6)		(8.9)	0.9	1/2
33	C'D'	SD21溝・埋土	土師器	坏	口縁部			ロクロ使用、内黒	(14.4)		(4.3)	0.2	1/2
34	C'D'	SD21溝・埋土	土師器	甕？	底部		回転糸切り	ロクロ使用		(6.0)	(2.2)	0.4	1/2
35	C'D'	SD21溝・埋土	土師器	甕？	底部		回転糸切り			(8.0)	(2.0)	1.0	1/2
36	C'D'	SD23溝・埋土	須恵器	大甕？	体部								1/2
37	C'D'	SD23溝・埋土	剥片石器	石鏃				奥羽山脈・頁岩		幅(3.4)	5.6	1.1	1/2
38	C'D'	SD23溝・埋土	縄文土器	鉢？	体部		縄文RL縦						1/2
39	C'D'	SD23溝・埋土	縄文土器	鉢？	体部		縄文RL縦	沈線					1/2
40	C'D'	SD23溝・埋土	縄文土器	鉢？	体部		縄文RL縦						1/2
41	C'D'	SD23溝・埋土	縄文土器	鉢？	体部		縄文RL縦						1/2
42	C'D'	SD23溝・埋土	縄文土器	鉢？	体部		縄文RL縦	沈線、刺突列					1/2

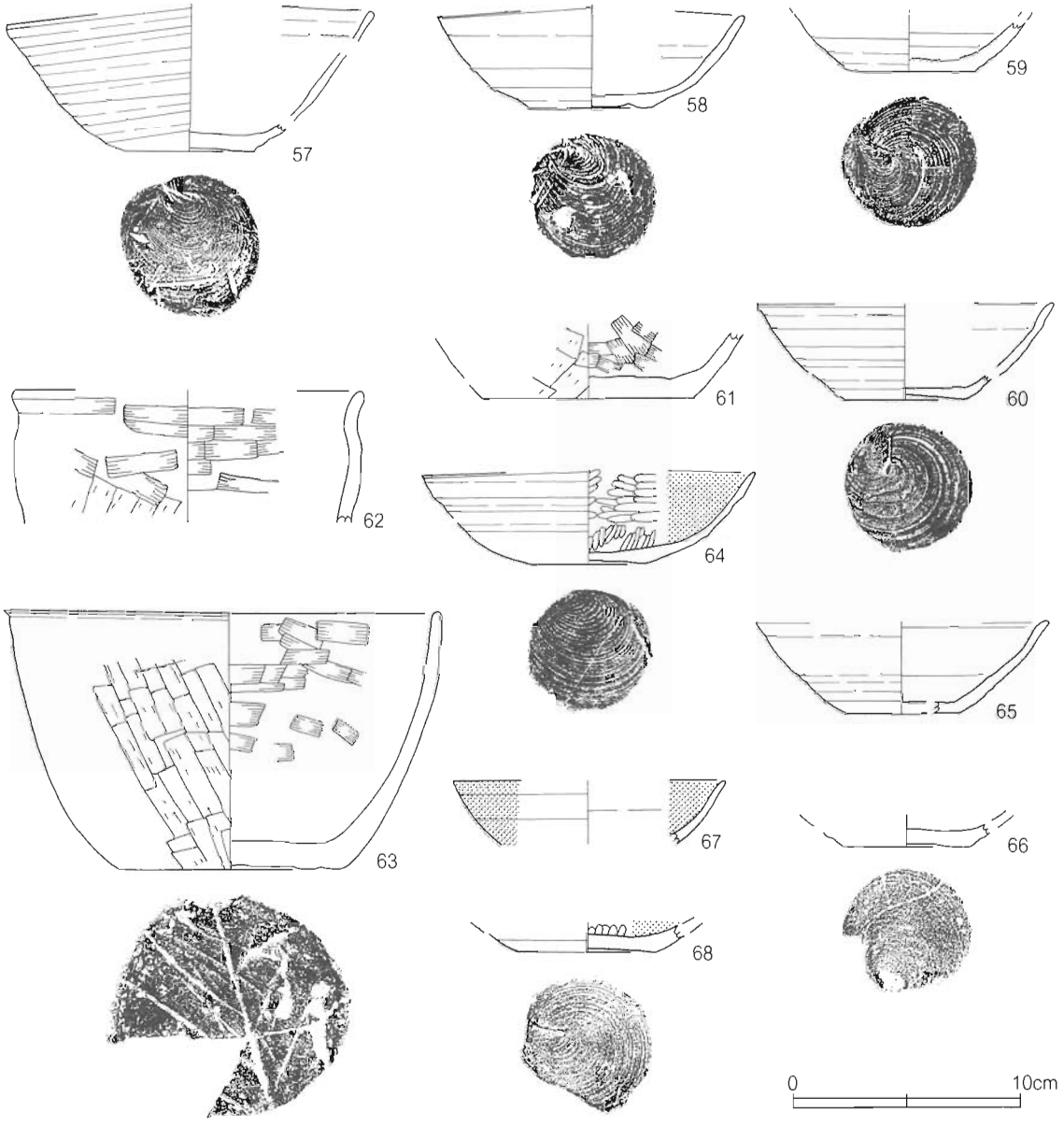
第40図　C′・D′区の遺物



※単位cm、( )は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
43	C'D'	SD23溝最西部・埋土	土師器	坏?	底部		ヘラケズリ			(11.0)	(1.8)	0.7	1/2
44	C'D'	SD23溝・埋土	須恵器	甕?	体部	アテ具痕	タタキメ						1/2
45	C'D'	SD23溝最西部・埋土	土師器	坏	口縁部			ロクロ使用、内黒	(14.6)		(1.9)	0.3	1/2
46	C'D'	SD23溝最西部・埋土	土師器	甕?	口縁部			ロクロ使用	(18.0)		(2.5)	0.5	1/2
47	C'D'	SD23溝最西部・埋土	土師器	甕	口縁部			ロクロ使用	(16.0)		(2.9)	0.5	1/2
48	C'D'	SX11粘土採掘場・埋土	土師器	坏	口縁部	ヘラミガキ		ロクロ使用、内黒	(13.6)		(4.4)	0.4	1/2
49	C'D'	SX11粘土採掘場・埋土	土師器	甕?	底部		回転糸切り			(5.6)	(1.0)	0.4	1/2
50	C'D'	SX11粘土採掘場・埋土	須恵器	甕?	体部	アテ具痕	タタキメ						1/2
51	C'D'	SX11粘土採掘場・埋土	須恵器	甕?	体部		タタキメ						1/2
52	E'F'	SI03住居・埋土	土師器	坏	口縁部			ロクロ使用	(14.4)		(3.3)	0.3	1/2
53	E'F'	SI03住居・埋土	土師器	坏	口縁部	ヘラナデ		ロクロ使用	(14.8)		(4.3)	0.3	1/2
54	E'F'	SI03住居・埋土	鉄製品	鎌				左利き用?		幅2.7	(11.3)	0.3	1/2
55	E'F'	SI03住居・床面	土師器	坏	完形	ヘラナデ	回転糸切り	ロクロ使用	13.4	5.0	4.6	0.4	1/4
56	E'F'	SI03住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	(13.2)	6.2	4.6	0.4	1/4

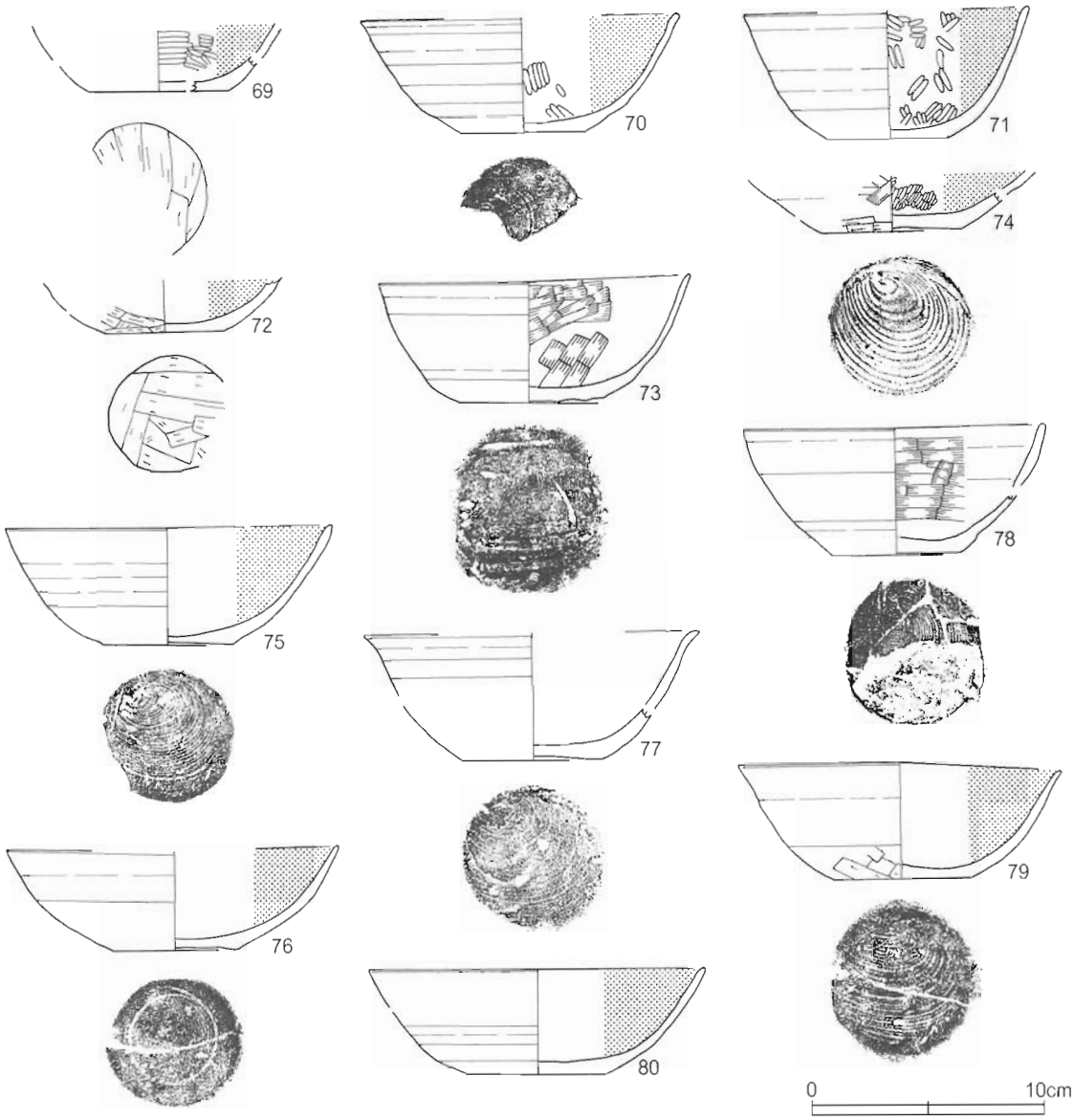
第41図　C′～F′区の遺物



※単位cm、（ ）は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
57	E'F'	S103住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	15.2	5.6	6.5	0.3	1/4
58	E'F'	S103住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	(13.6)	5.8	6.5	0.4	1/4
59	E'F'	S103住居・床面	土師器	坏	底部		回転糸切り	ロクロ使用		5.6	(2.7)	0.5	1/4
60	E'F'	S103住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	15.1	5.4	7.3	0.4	1/4
61	E'F'	S103住居・埋土、S105住居覆土	土師器	甕？	底部	ヘラナデ	ヘラケズリ			9.4	(3.3)	0.5	1/4
62	E'F'	S203住居・支脚土器	土師器	甕？	口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ、ヘラケズリ		(15.2)		(15.8)	0.6	1/2
63	E'F'	S103住居カマド支脚・S105住居・床面	土師器	鉢	完形	ヘラナデ	ヘラケズリ	未貫通	29.3	10.5	10.2	0.6	1/4
64	E'F'	S105住居・埋土	土師器	坏	口縁部～底部	ヘラミガキ	回転糸切り	ロクロ使用、内黒	(14.8)	5.4	4.2	0.3	1/4
65	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部			ロクロ使用	(13.6)	(5.0)	4.0	0.4	1/4
66	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	底部		回転糸切り			5.6	(1.4)	0.5	1/2
67	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部			ロクロ使用、内外黒色処理	(12.0)		(2.8)	0.3	1/2
68	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	底部	ヘラミガキ	回転糸切り	ロクロ使用、内黒		6.0	(1.3)	0.6	1/2

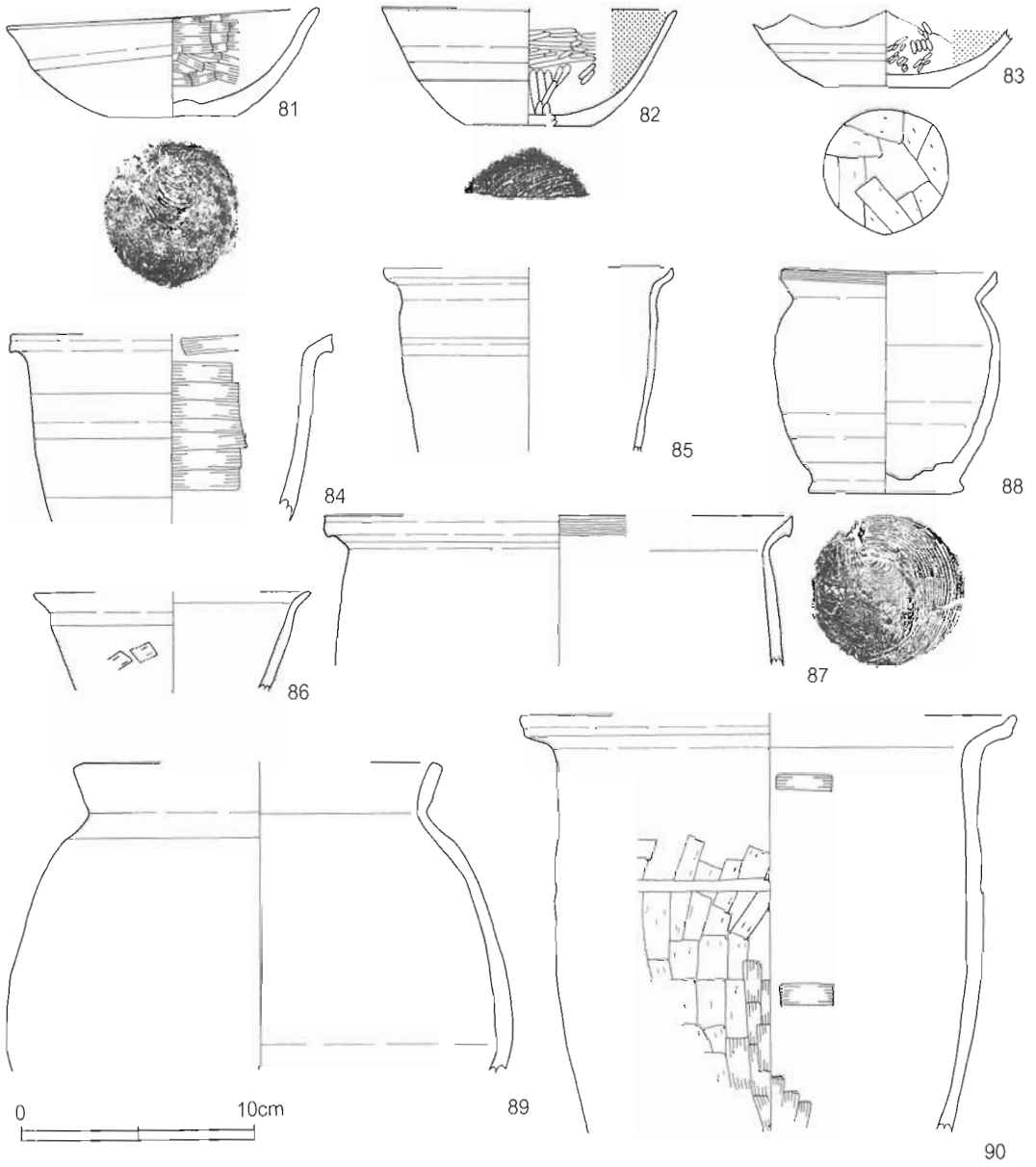
第42図　E′・F′区の遺物



※単位cm、( )は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
69	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	底部	ヘラミガキ	底部ヘラケズリ	内黒		6.0	(2.7)		1/2
70	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部	ヘラミガキ	回転糸切り	ロクロ使用、内黒	(13.8)	(5.4)	5.0	0.3	1/4
71	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部	ヘラミガキ		ロクロ使用、内黒	(12.4)	(5.0)	5.5	0.3	1/4
72	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	底部		底部ヘラケズリ	内黒		5.0	(2.3)	0.4	1/2
73	E'F'	S105住居・埋土	土師器	坏	完形	ヘラナデ	底部ヘラケズリ	ロクロ使用	13.5	6.0	5.2	0.3	1/4
74	E'F'	S105住居・埋土	土師器	坏	底部	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラナデ、回転糸切り	ロクロ使用、内黒		6.0	(2.4)	0.5	1/2
75	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用、内黒	14.2	5.6	4.9	0.3	1/4
76	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		回転糸切り？	ロクロ使用、内黒	(14.4)	5.6	4.3	0.4	1/4
77	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	(14.4)	6.0	5.5	0.4	1/4
78	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部	ヘラナデ	回転糸切り	ロクロ使用	(13.0)	5.6	5.5	0.5	1/4
79	E'F'	S105住居・ピット内	土師器	坏	完形		ヘラケズリ、回転糸切り	ロクロ使用、内黒	14.0	6.0	5.0	0.4	1/4
80	E'F'	S105住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部		底部摩滅	ロクロ使用、内黒	(14.6)	6.0	4.5	0.3	1/4

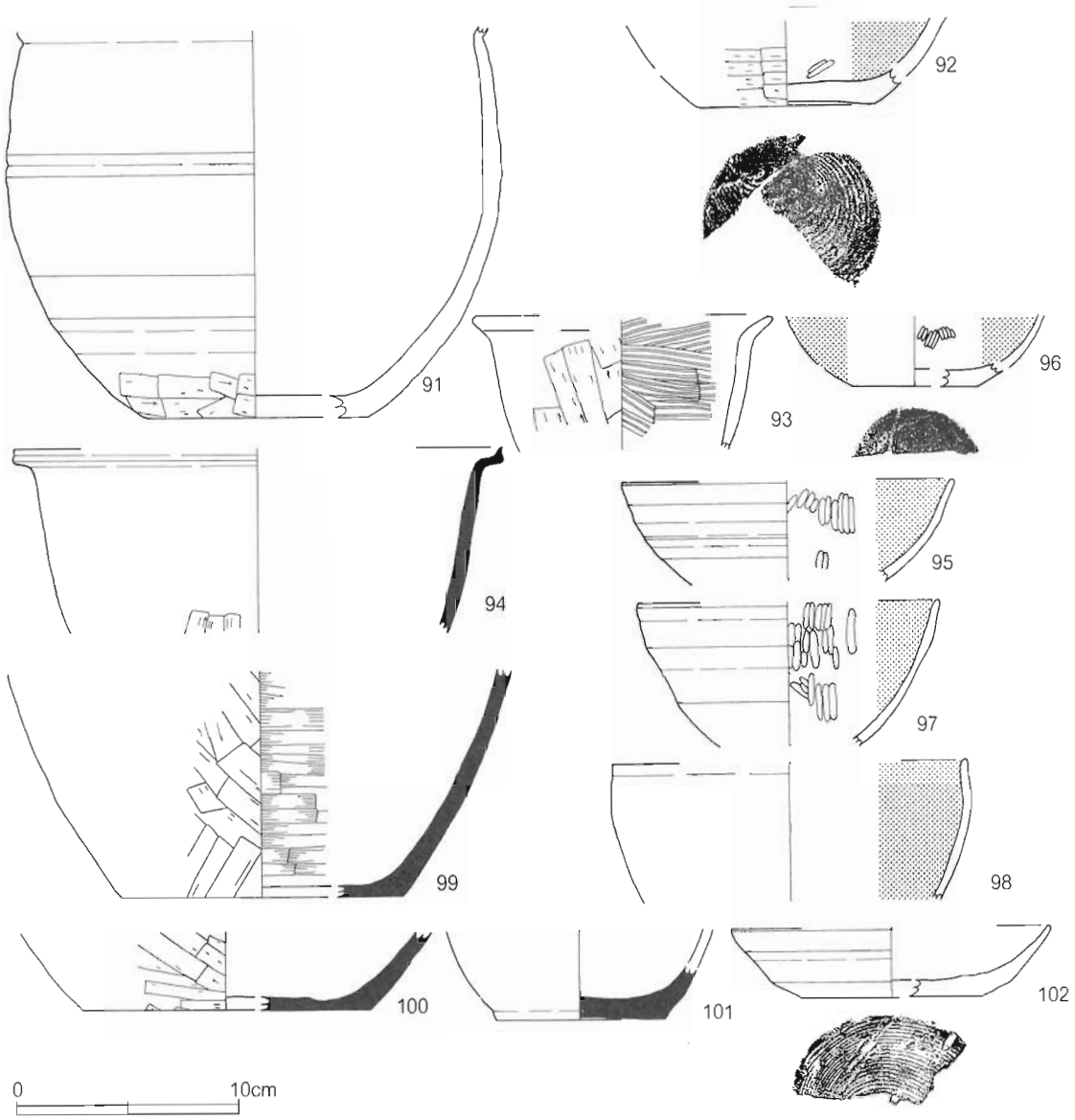
第43図　E′・F′区の遺物



※単位cm、（）は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
81	E'F'	SI07住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部	ヘラナデ	回転糸切り	コクロ使用	14.2	5.6	4.25	0.5	1/4
82	E'F'	SI05住居・床面	土師器	坏	口縁部～底部	ヘラミガキ	回転糸切り	コクロ使用、内黒	(13.3)	(5.8)	5.1	0.3	1/4
83	E'F'	SI05住居・埋土	土師器	坏	口縁部～底部	ヘラミガキ	底部ヘラケズリ	コクロ使用、内黒 第88の蓋		5.6	(3.4)	0.4	1/4
84	E'F'	SI05住居・埋土	土師器	甕	口縁部	ヘラナデ		コクロ使用	(14.4)		(8.6)	0.5	1/2
85	E'F'	SI05住居・床面	土師器	甕	口縁部			コクロ使用	(30.0)		(8.3)	0.8	1/2
86	E'F'	SI05住居・埋土	土師器	甕	口縁部		ヘラケズリ	コクロ使用	(32.4)		(14.5)	0.5	1/2
87	E'F'	SI05住居・床面	土師器	甕	口縁部	ヨコナデ		コクロ使用	(21.0)		(6.6)	0.4	1/2
88	E'F'	SI05住居・埋土	土師器	蓋	完形		回転糸切り	コクロ使用	9.5	6.8	5.9	0.5	1/4
89	E'F'	SI05住居・床面	土師器	甕	口縁部～体部			コクロ使用	(19.0)		(13.8)	0.6	1/4
90	E'F'	SI05住居・床面	土師器	甕	口縁部～体部	ヘラナデ	ヘラナデ、ヘラケズリ	コクロ使用	(32.2)		(18.8)	0.7	1/2

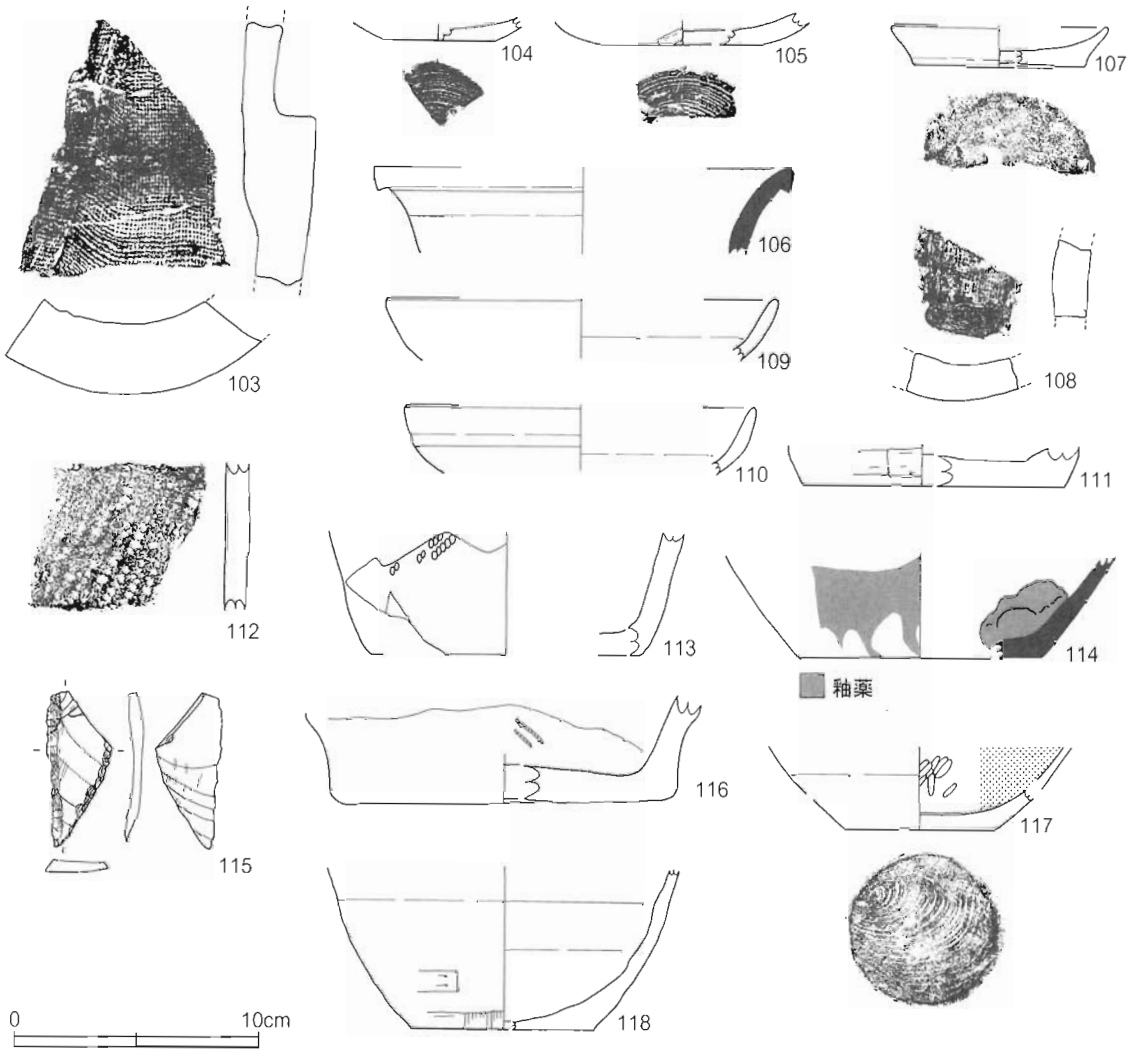
第44図　E′・F′区の遺物



※単位cm、( )は不完形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
91	E'F'	SI05住居・床面	土師器	甕?	頸部～底部		ヘラケズリ	ロクロ使用		5.0	(17.5)		1/2
92	E'F'	SI05住居・床面	土師器	鉢?	底部	ヘラミガキ	ヘラケズリ、回転糸切り	内黒		8.0	(3.8)	0.7	1/2
93	E'F'	SI05住居・埋土	土師器	甕	口縁部～体部	ハケメ	ヘラケズリ		(13.4)		(6.0)	0.6	1/2
94	E'F'	SI05住居・床面	須恵器	甕	口縁部		ヘラケズリ	ロクロ使用	(22.0)		(8.3)	0.6	1/2
95	E'F'	SI05住居・ピット内	土師器	坏	口縁部	ヘラミガキ		ロクロ使用、内黒	(15.0)		(4.5)	0.3	1/2
96	E'F'	SI05住居・ピット内	土師器	坏	底部	ヘラミガキ	回転糸切り	内外黒色処理		(5.6)	(3.2)	0.3	1/2
97	E'F'	SI05住居・ピット内	土師器	鉢or坏	口縁部	ヘラミガキ		ロクロ使用、内黒	(13.6)		(6.5)	0.4	1/2
98	E'F'	SK21土坑・埋土	土師器	鉢?	口縁部			ロクロ使用、内黒	(16.0)		(6.3)	0.4	1/2
99	E'F'	SK21土坑・埋土	須恵器	甕?	体部～底部	ヘラナデ	ヘラケズリ			(12.8)	(10.2)	0.7	1/4
100	E'F'	SK21土坑・埋土	須恵器	甕?	底部		ヘラケズリ			(13.0)	(3.5)	0.7	1/4
101	E'F'	SK21土坑最北部・埋土	須恵器	甕?	底部			ロクロ使用		7.6	(4.0)	0.4	1/4
102	E'F'	SK30土坑・埋土	かわらけ	皿	口縁部～底部		回転糸切り	ロクロ使用	(14.4)	(8.2)	3.1	0.5	1/4

第45図　E′・F′区の遺物



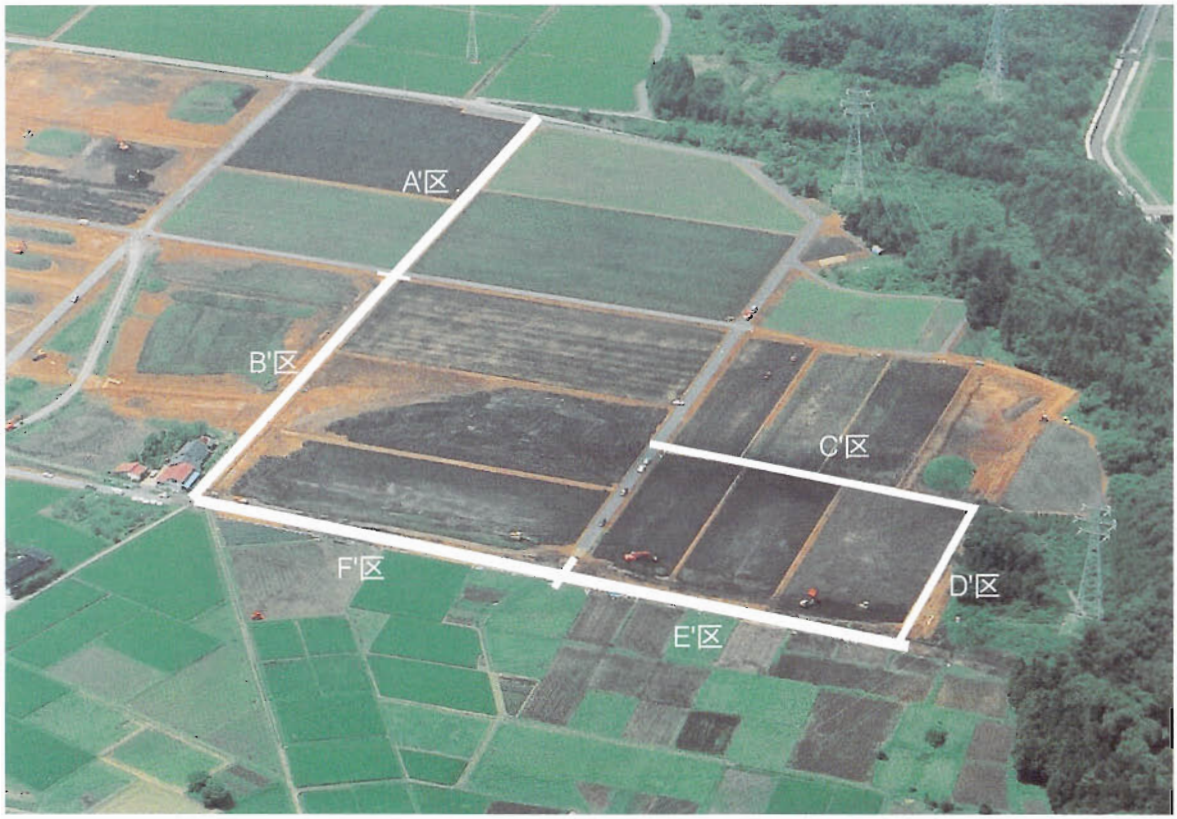
単位cm、（ ）は不定形部の値

番号	調査区	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整	外面調整	特徴等	口径	底径	高さ	厚さ	写真
103	E'F'	SD35、36溝・周辺	瓦	丸瓦				表に縄目、裏に布目を残す					1/2
104	E'F'	SD35、36溝・周辺	土師器	坏	底部		回転糸切り			(4.4)	(0.7)	0.5	1/2
105	E'F'	SD35、36溝・周辺	土師器	甕?	底部		ヘラケズリ、回転糸切り			(6.8)	(1.0)	0.7	1/2
106	E'F'	SD35、36溝・周辺	須恵器	甕	口縁部			ロクロ使用	(17.2)		(2.6)	0.7	1/2
107	E'F'	SD57溝・埋土	かわらけ	皿	口縁部～底部		摩滅で糸切り痕跡できず	ロクロ使用	9.0	6.8	1.7	0.3	1/2
108	E'F'	SD59溝・埋土	瓦	丸瓦?				凸凹有り					1/2
109	E'F'	SX12複合窯・埋土	かわらけ?	皿?	口縁部			ロクロ使用	(16.0)		(2.5)	0.5	1/2
110	E'F'	SX12複合窯・埋土	かわらけ?	皿?	口縁部			ロクロ使用	(14.2)		(1.7)	0.5	1/2
111	E'F'	SX12複合窯・埋土	土師器	甕?	底部		ヘラケズリ			(11.6)	(1.8)		1/2
112	E'F'	VC－5i	縄文土器	深鉢	体部			縄文RL横?					1/2
113	E'F'	VC－5i	縄文土器	深鉢	底部			縄文LR横		(11.0)	(5.0)	0.9	1/2
114	遺構外	VA－13e	須恵器	甕?	底部		釉薬不良	釉薬?の固まり付着		(10.0)	(4.2)	0.6	1/2
115	遺構外	WA－15g	剥片石器	楔器				奥羽山脈・頁岩		幅2.7	(6.3)	0.8	1/2
116	遺構外	VA－10m	縄文土器	深鉢?	胴部			縄文RL横		(7.0)	(4.0)	1.0	1/2
117	遺構外	VA－11m	土師器	坏	底部	ヘラミガキ	回転糸切り	内黒		6.8	(3.4)	0.4	1/4
118	遺構外	VA－10m	土師器	甕?	底部		ヘラケズリ・ヘラナデ	ロクロ使用		(7.6)	(6.6)	0.5	1/4

第46図　E′・F′区及び遺構外の遺物

写　真　図　版

遺跡遠景（東上空から）



遺跡調査区域

写真図版１　遺跡遠景及び調査区

A′・B′区調査前風景

C′区調査前風景

D′区調査前風景

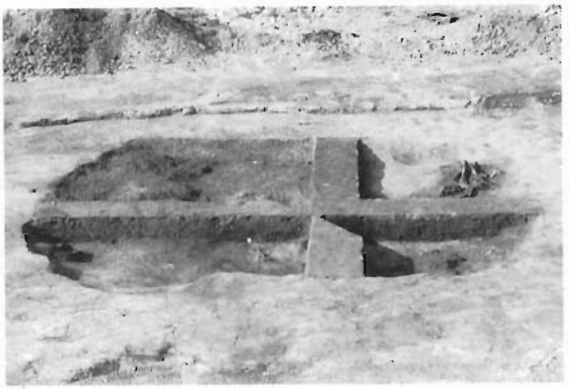
E′・F′区調査前風景

A′・B′・C′・F′区基本土層

D′・E′区基本土層

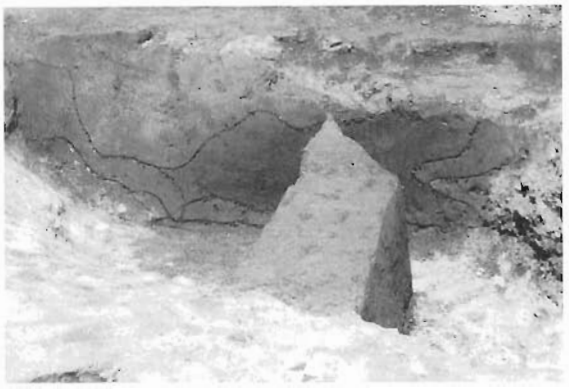
写真図版２　調査前風景及び基本土層

SKI01竪穴状遺構　平面

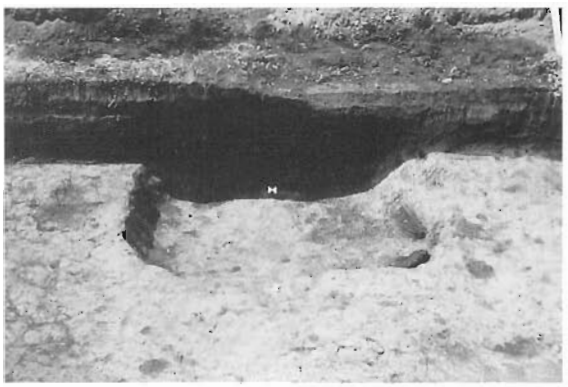


SKI01竪穴状遺構　断面（A－A′）

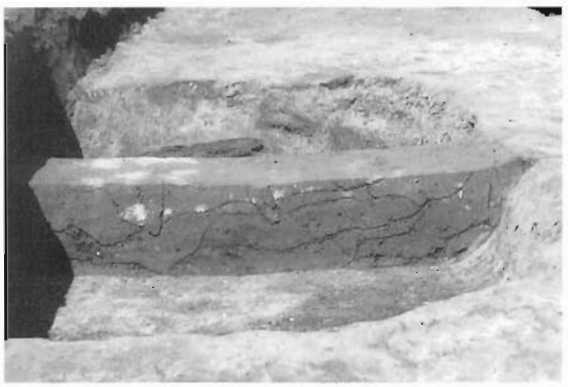
SKI02竪穴状遺構　平面



SKI02竪穴状遺構　断面（A－A′）

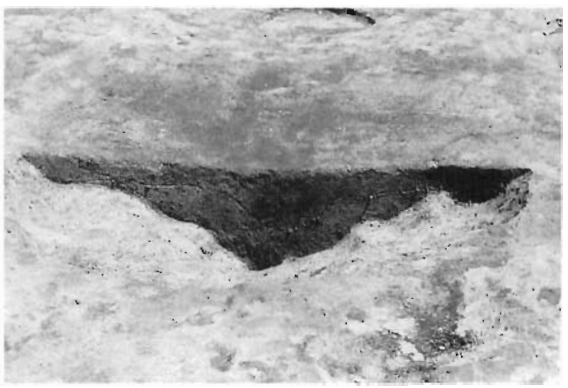


SKI03竪穴状遺構　平面



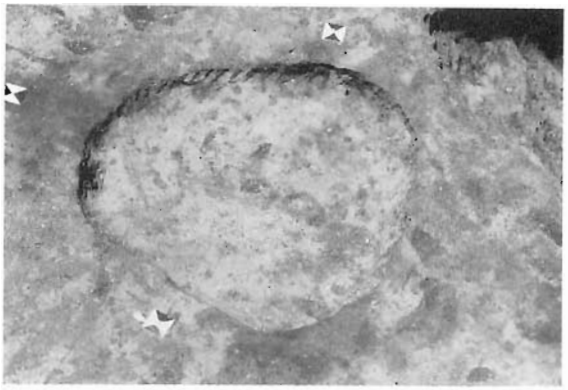
SKI03竪穴状遺構　断面

SK01土坑　平面

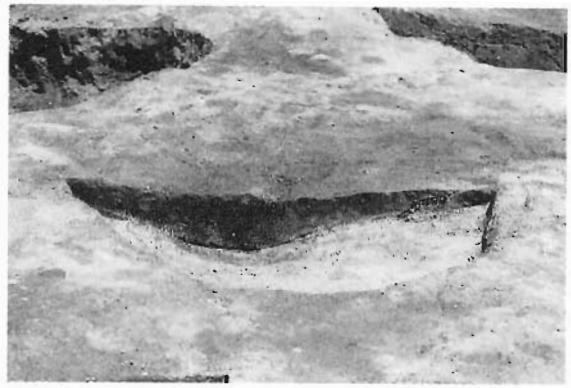


SK01土坑　断面

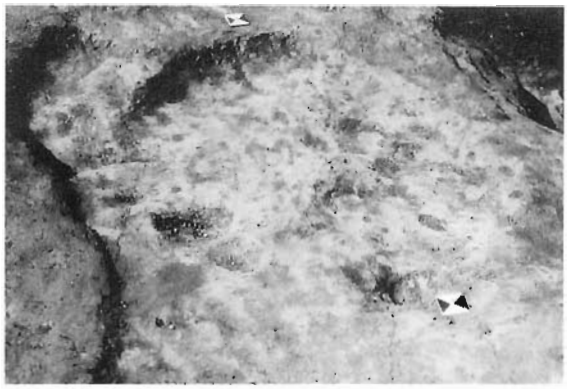
写真図版３　A′・B′区の遺構（1）



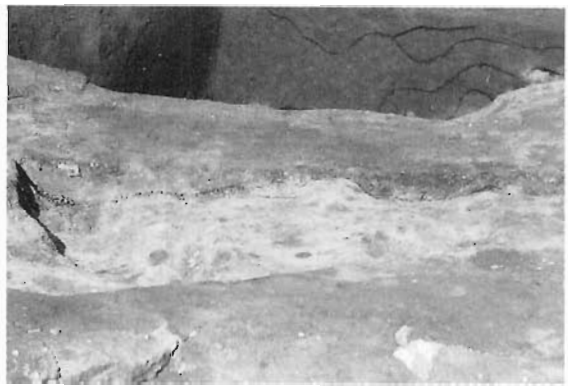
SK02土坑　平面



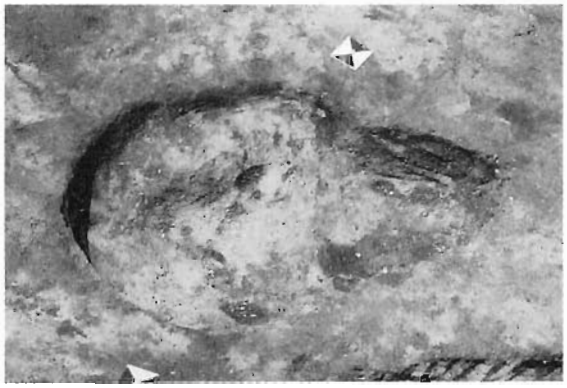
SK02土坑　断面



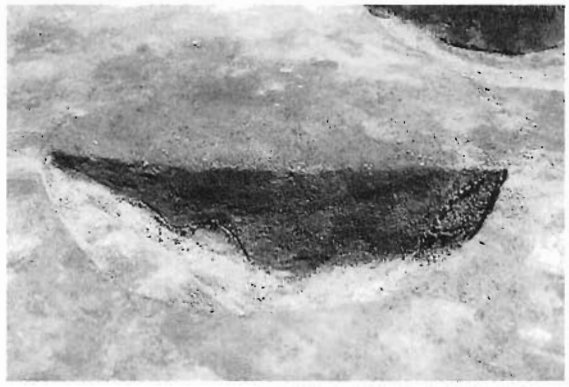
SK04土坑　平面



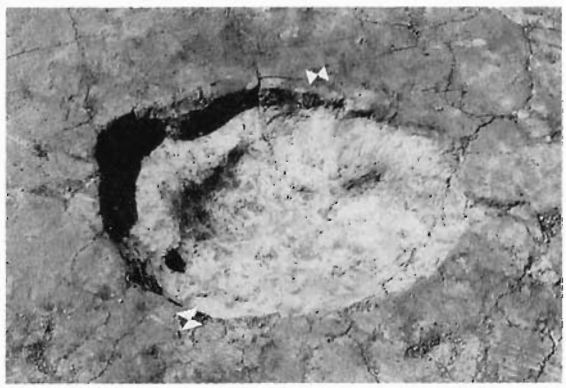
SK04土坑　断面



SK05土坑　平面



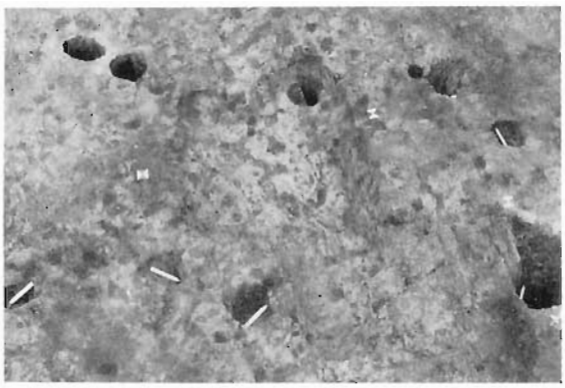
SK05土坑　断面



SK06土坑　平面

SK06土坑　断面

写真図版４　A′・B′区の遺構（2）

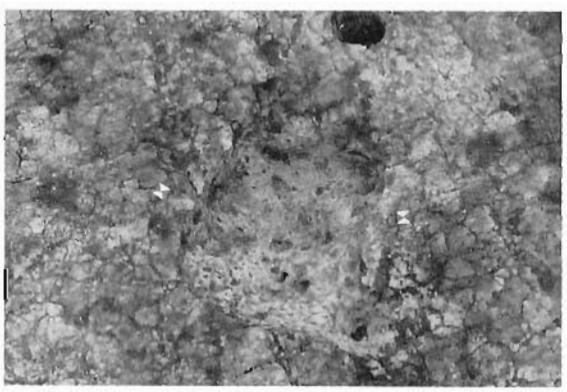


SK11土坑　平面

SK11土坑　断面

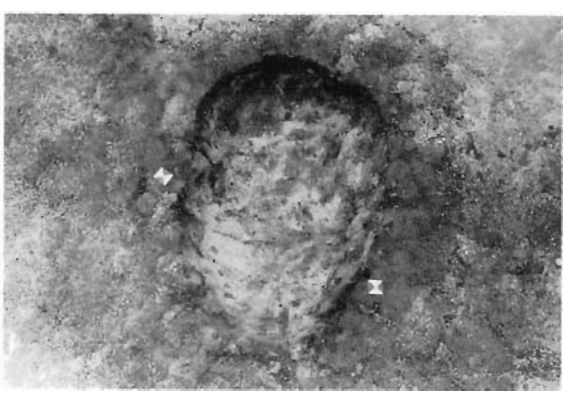
SK12土坑　平面

SK12土坑　断面

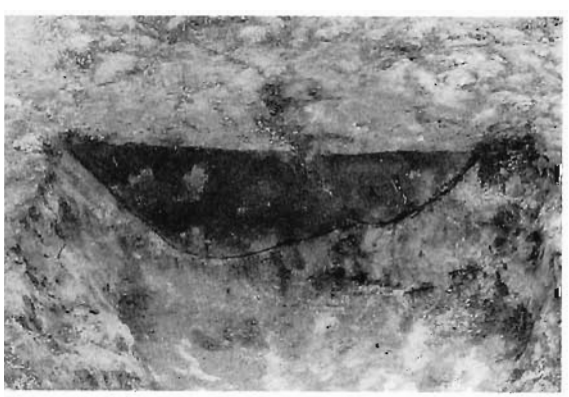


SK13土坑　平面

SK13土坑　断面



SK15土坑　平面

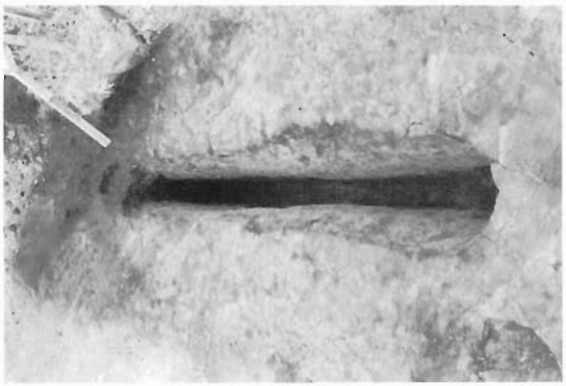


SK15土坑　断面

写真図版５　A′・B′区の遺構（3）

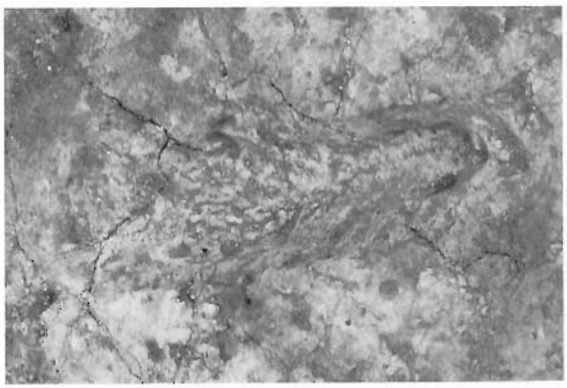
SK16土坑　平面

SK16土坑　断面



SX01陥し穴　平面

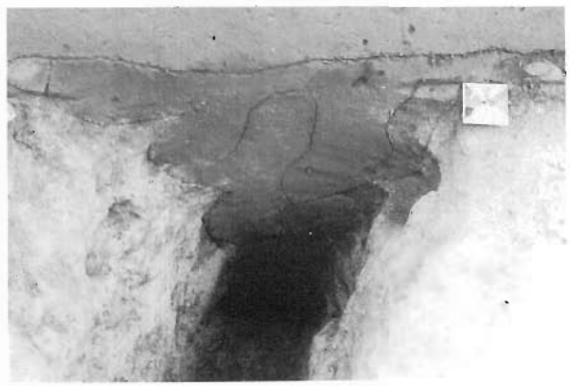
SX01陥し穴　断面



SX02陥し穴　平面

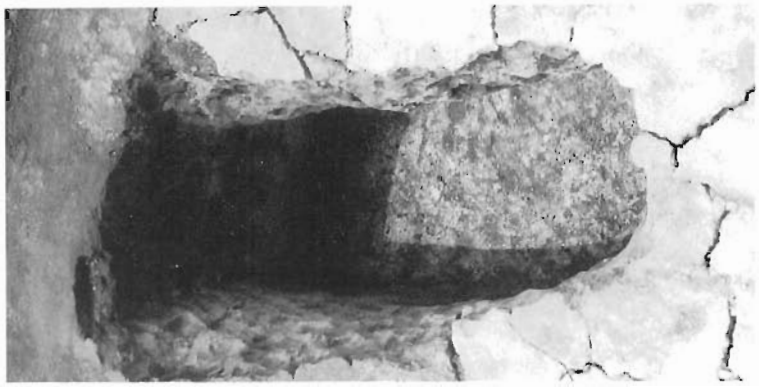
SX02陥し穴　断面

SX03陥し穴　平面



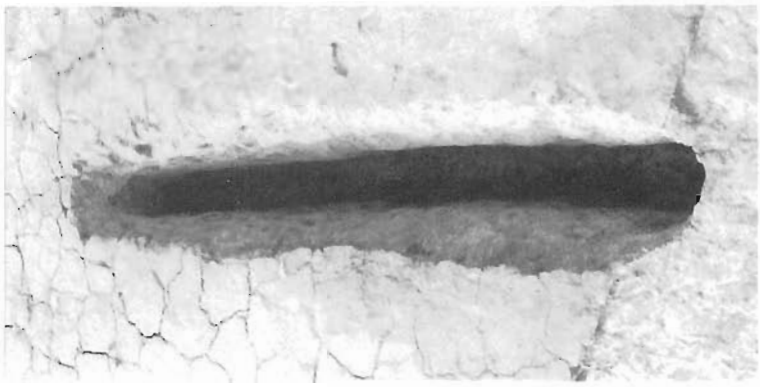
SX03陥し穴　断面

写真図版６　A′・B′区の遺構（4）



SX04陥し穴　平面

SX04陥し穴　断面

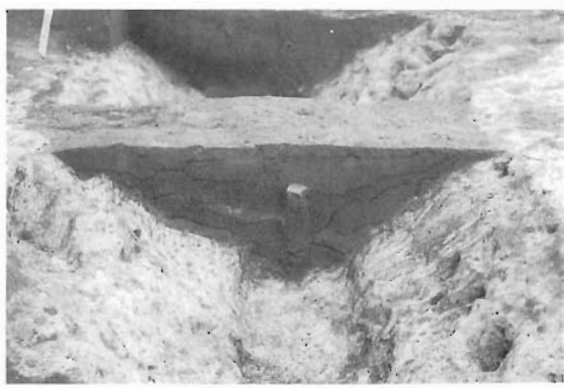


SX05陥し穴　平面

SX05陥し穴　断面

SD01溝　平面

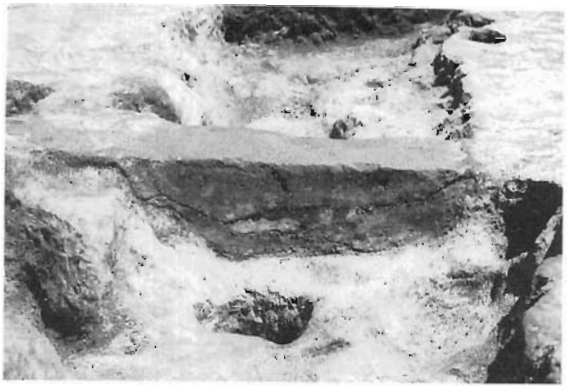
SD02溝　平面



SD02溝　断面

写真図版７　A・B′区の遺構（5）

SD03溝　平面



SD03溝　断面

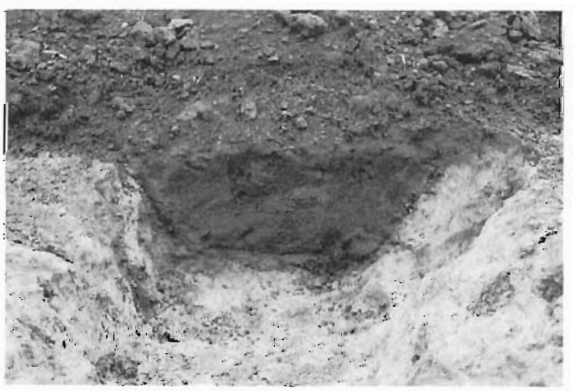
SD04溝　平面

SD04溝　断面

SD66溝　平面

SD66溝　断面（B－B′）

SD26溝　平面

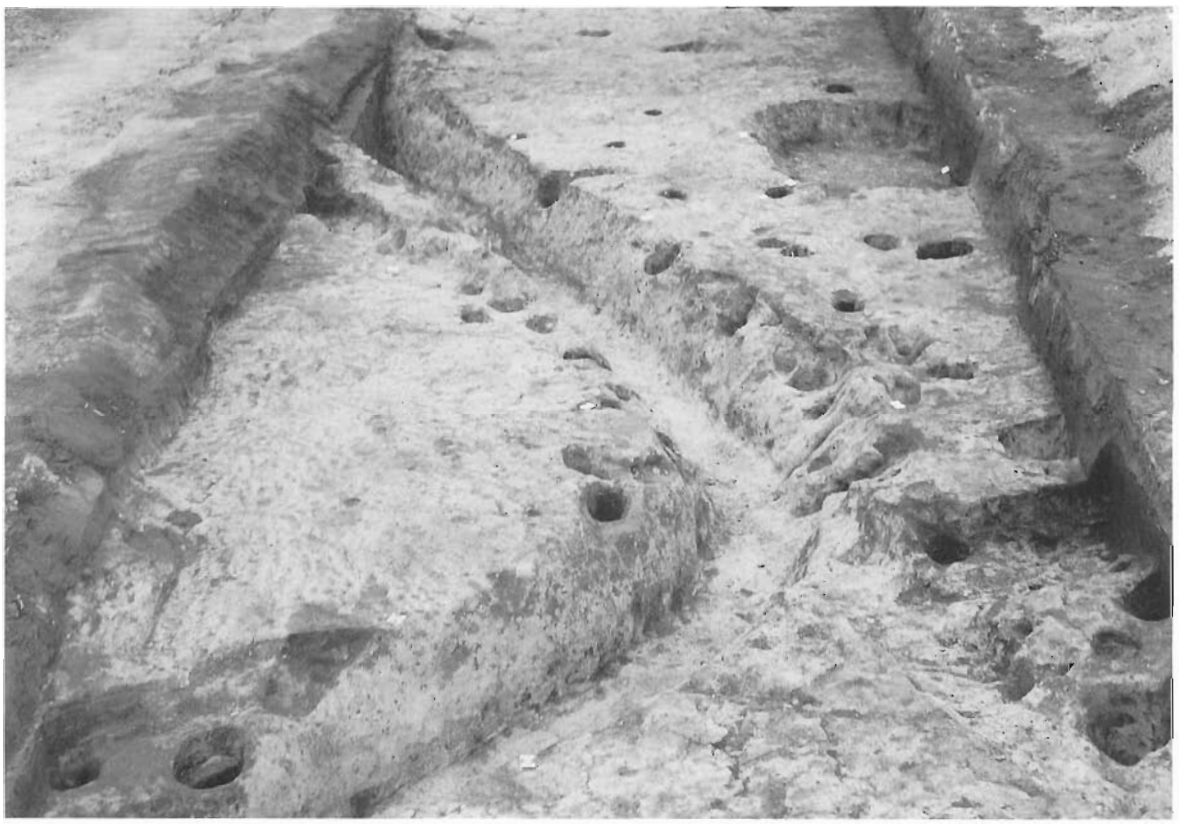


SD26溝　断面（A－A′）

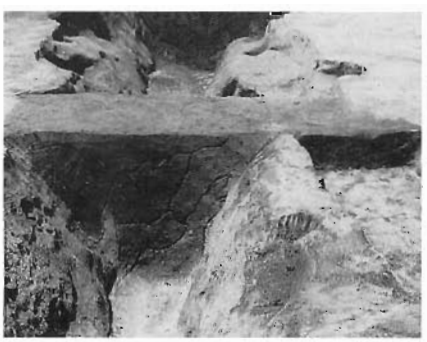
写真図版８　A′・B′区の遺構（6）

SD27溝　平面

SD27溝　断面（B－B′）



SD05・06・65溝　平面



SD 65・05 溝　断面（A－A′）

SD 65・05 溝　断面（B－B′）

SD 65・06 溝 断面(C－C′)

写真図版９　A′・B′区の遺構（7）

SI01竪穴住居及び周辺

SI01竪穴住居Pit1　平面

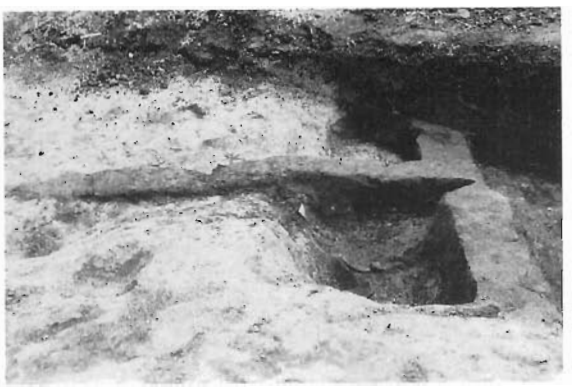
SI01竪穴住居Pit1　断面（C－C′）

SI01竪穴住居Pit1遺物出土状況

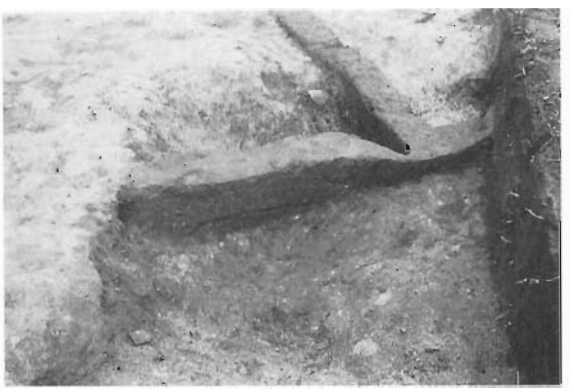
SI01竪穴住居西側柱穴状

写真図版10　C′・D′区の遺構（1）

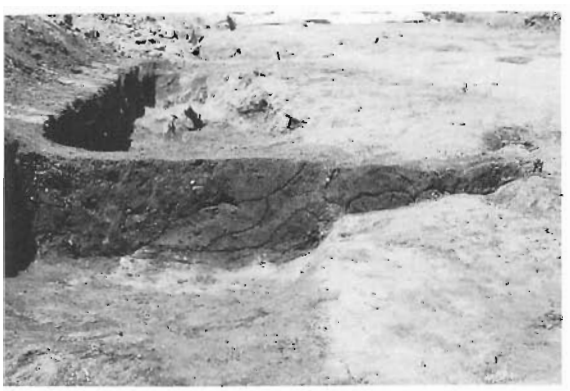
SI02竪穴住居　平面



SI02竪穴住居カマド　断面（C－C′）



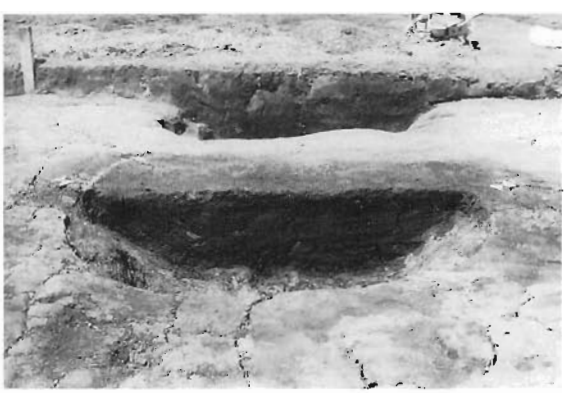
SI02竪穴住居カマド　断面（D－D′）



SI02竪穴住居　断面（A－A′）

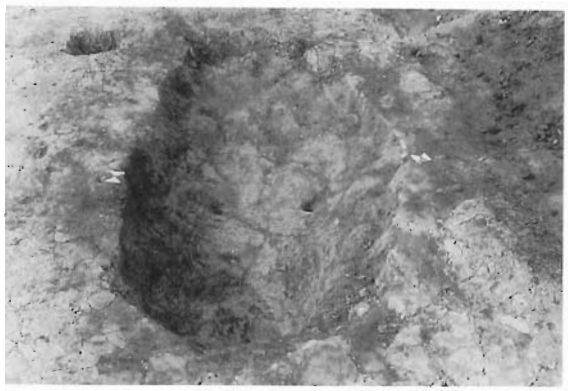
SI02竪穴住居遺物出土状況

SK17土坑　平面



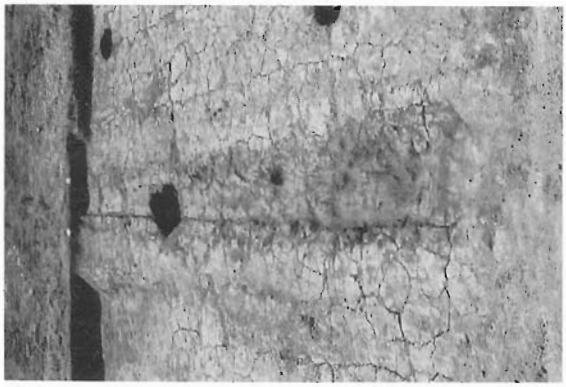
SK17土坑　断面

写真図版11　C・D′区の遺構（2）



SK18土坑　平面

SK18土坑　断面



SD07溝　平面

SD07溝　断面

SD08溝　平面

SD08溝　断面

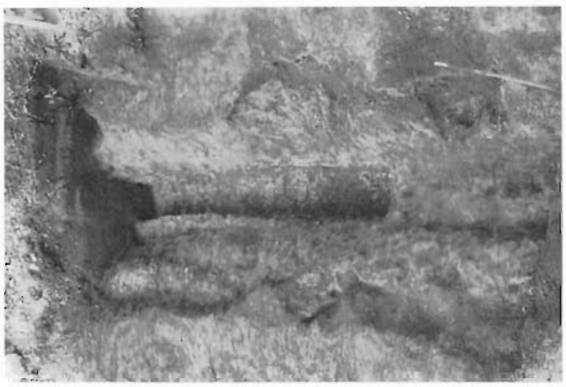
SD09溝　平面

SD09溝　断面

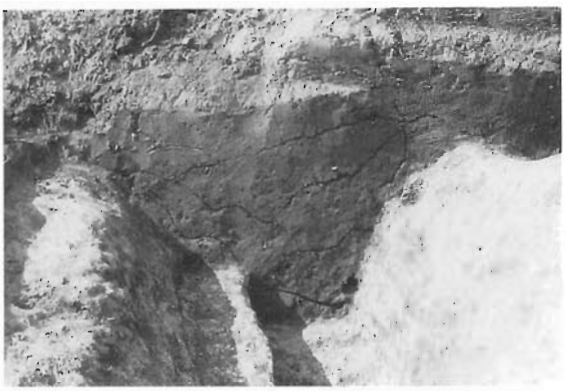
写真図版12　C′・D′区の遺構（3）

SD10溝　平面

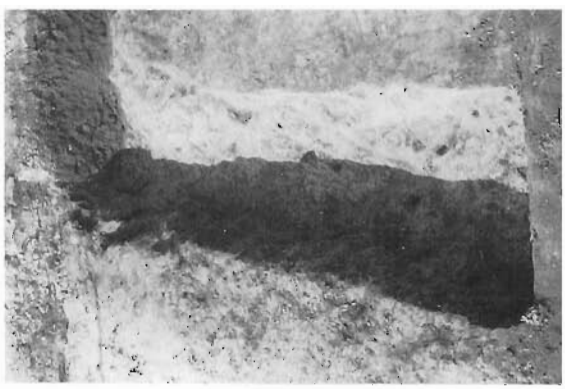
SD10溝　断面



SD15溝　平面



SD15溝　断面



SD16溝　平面

SD16溝　断面

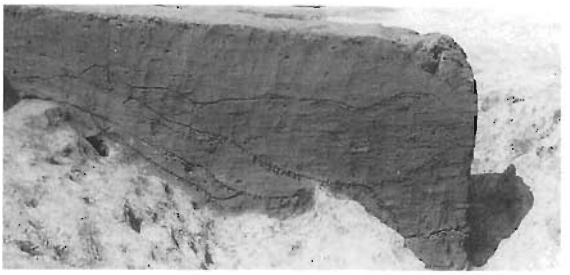
SD11溝　平面

SD11溝　断面

写真図版13　C′・D′区の遺構（4）

SD12・13・14溝　平面

SD12溝　断面（A－A′）



SD12・13溝　断面（B－B′）

SD13・14 溝
断面（C－C′）

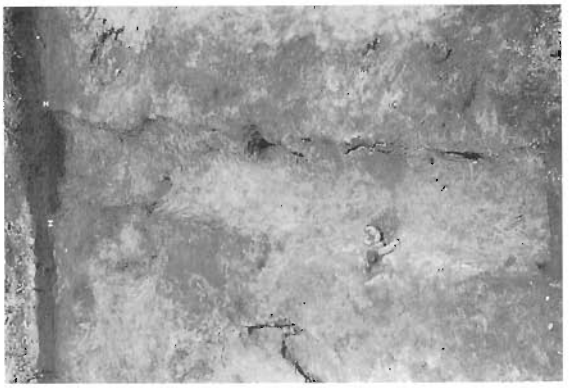
SD17・18・19溝　平面

SD17溝　断面

SD18溝　断面

SD19溝　断面

写真図版14　C′・D′区の遺構（5）



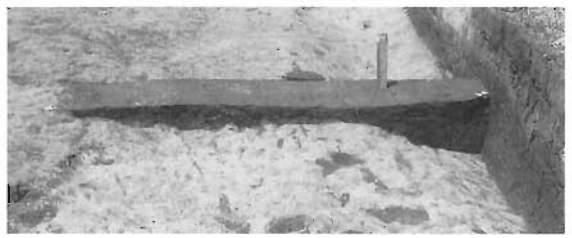
SD20溝　平面

SD20溝　断面（A－A′）

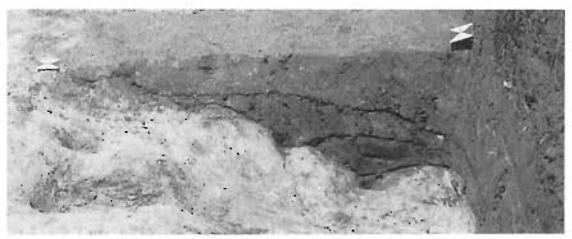
SD21溝　平面

SD21溝　断面（B－B′）

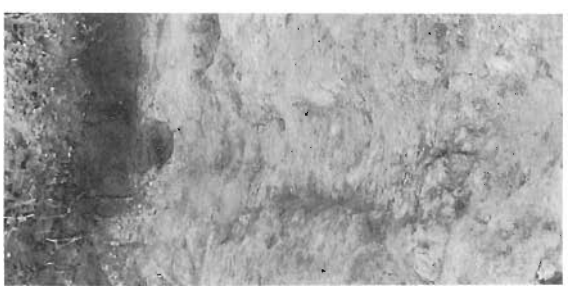
SD23・24溝　平面



SD23・24溝　断面（A－A′）



SD23溝　断面（B－B′）

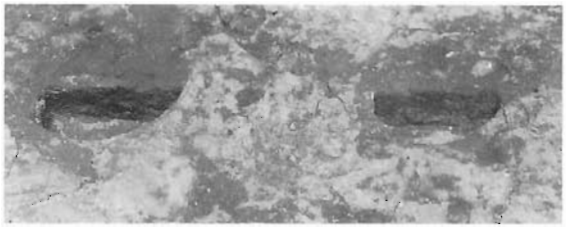


SD22溝　平面

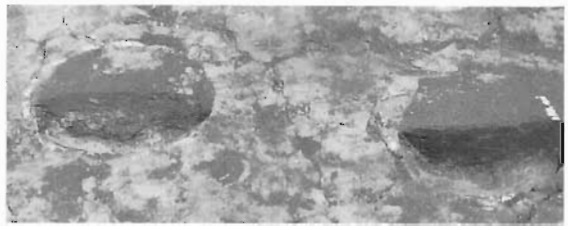
SD22溝　断面（C－C′）

写真図版15　C′・D′区の遺構（6）

SX10柱穴群（RB8～14）



RB08・09　断面



RB12・13　断面

SX11粘土採掘場　平面

SX11粘土採掘場　断面（A－A′）

SX11粘土採掘場　断面（B－B′）

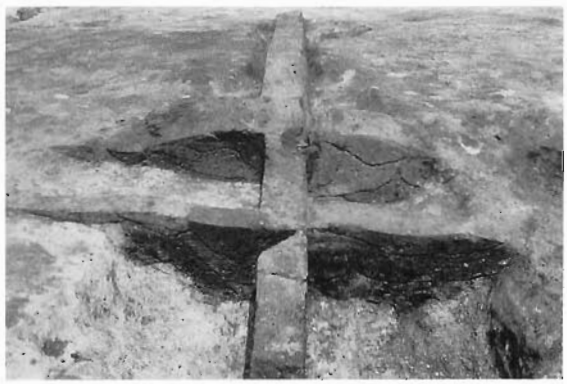
写真図版16　C′・D′区の遺構（7）

SI03・SI04竪穴住居　平面

SI03竪穴住居　断面（A－A′）

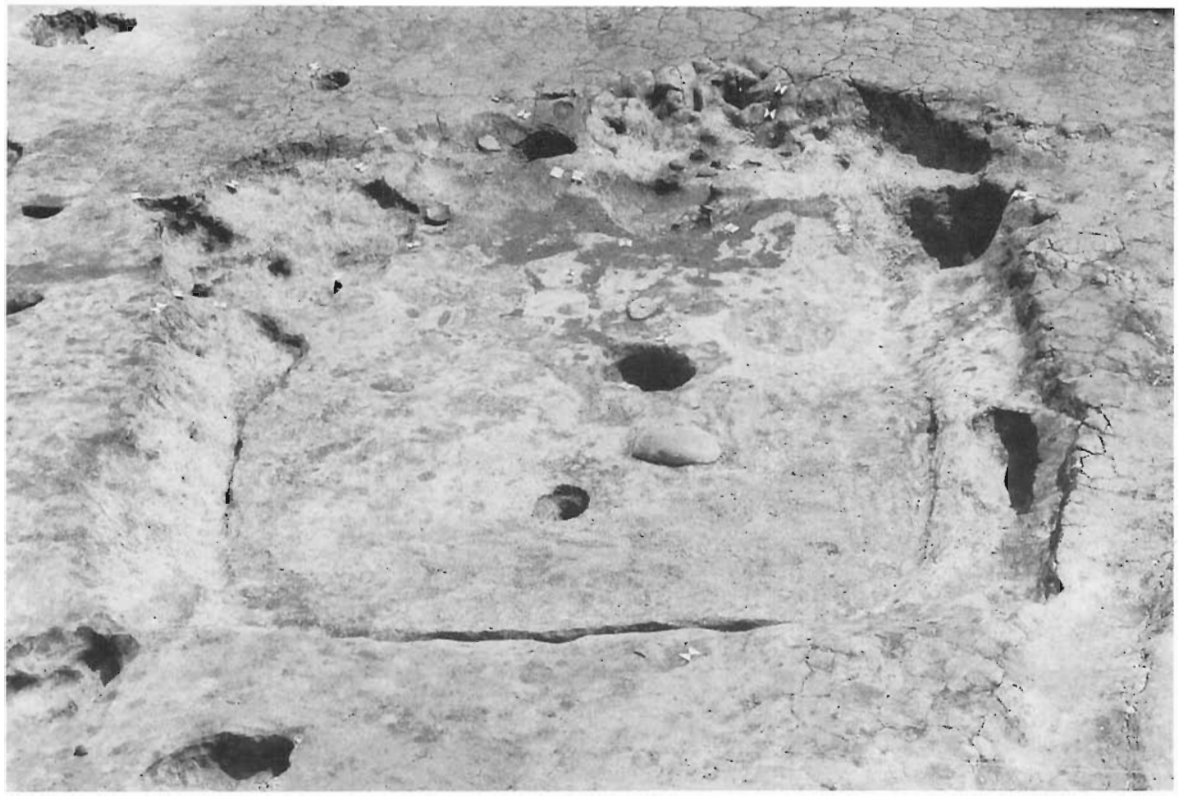
SI03竪穴住居　断面（B－B′）

SI03竪穴住居カマド　断面（C－C′）

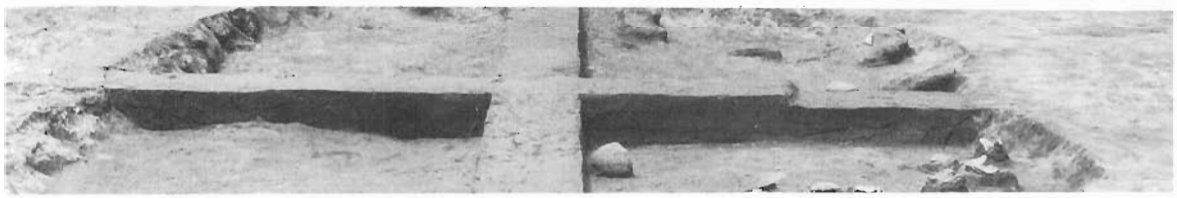


SI04竪穴住居カマド　断面（B－B′、C－C′）

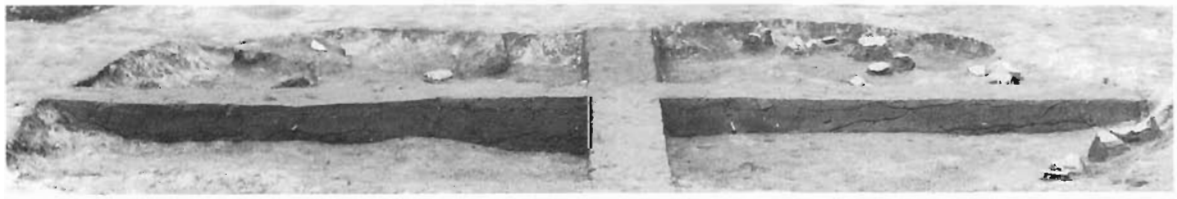
写真図版17　E′・F′区の遺構（1）



SI05竪穴住居　平面



SI05竪穴住居　断面（A－A′）



SI05竪穴住居　断面（B－B′）

SI05竪穴住居カマド　断面（C－C′）

SI05竪穴住居カマド　断面（D－D′）

写真図版18　E′・F′区の遺構（2）

SI05竪穴住居カマド袖付近

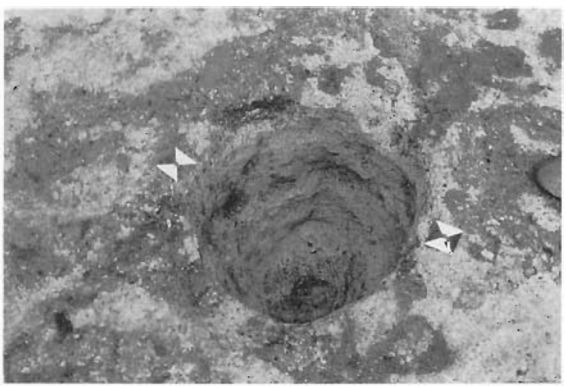
SI05竪穴住居埋設土器

SI05竪穴住居埋設土器

SI05竪穴住居Pit1遺物出土状況

SI05竪穴住居Pit1　平面

SI05竪穴住居Pit1　断面（F－F′）



SI05竪穴住居PP2　平面

SI05竪穴住居PP2　断面（G－G′）

写真図版19　E′・F′区の遺構（3）

SKI04竪穴状遺構　平面

SKI04竪穴状遺構　断面（A－A′）

SKI04竪穴状遺構　断面（B－B′）

SKI04周辺柱穴P1110　断面

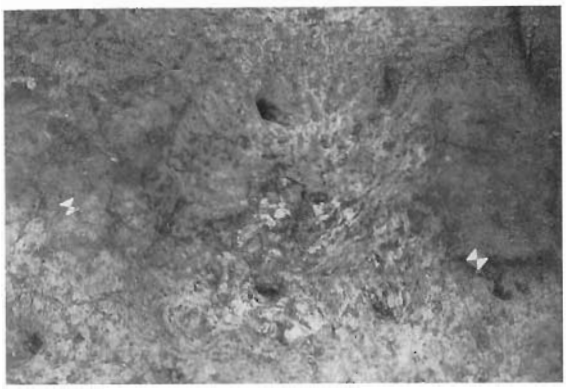
SKI04周辺柱穴P1109　断面

SKI04周辺柱穴P1101　断面

SKI05竪穴状遺構　平面

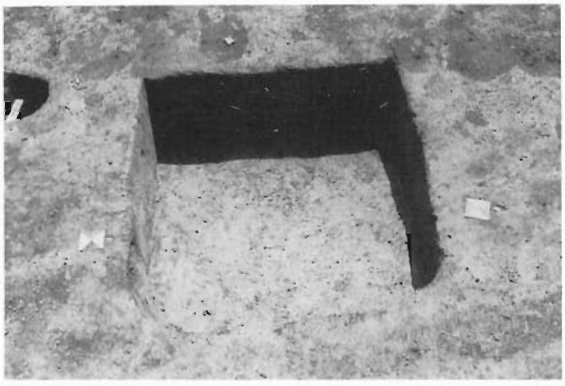
SKI05竪穴状遺構　断面

写真図版20　E′・F′区の遺構（4）



SK21土坑　平面

SK21土坑　断面

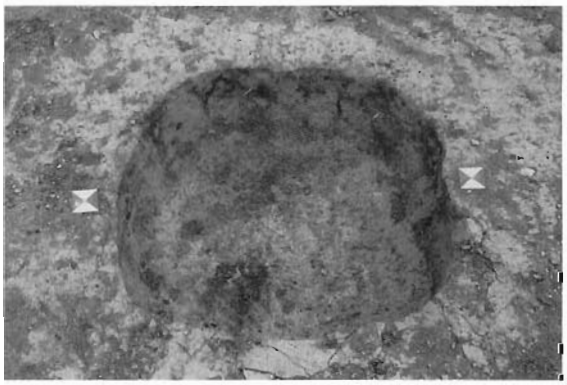


SK22土坑　平面

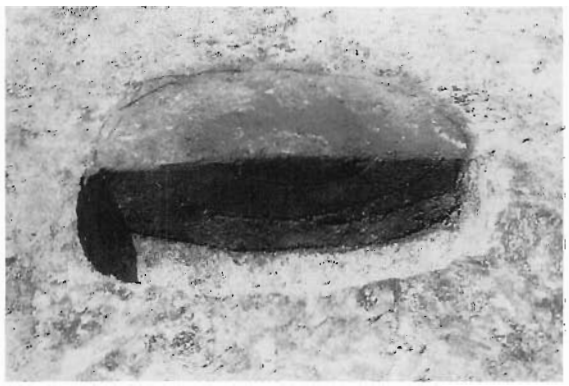
SK22土坑　断面

SK24土坑　平面

SK24土坑　断面

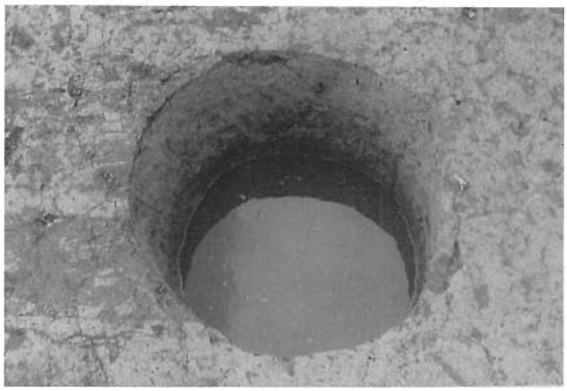


SK27土坑　平面



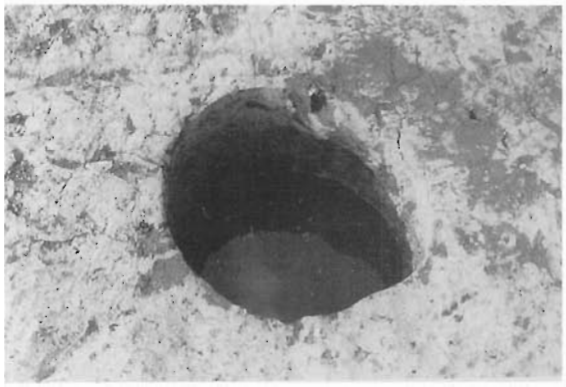
SK27土坑　断面

写真図版21　E′・F′区の遺構（5）

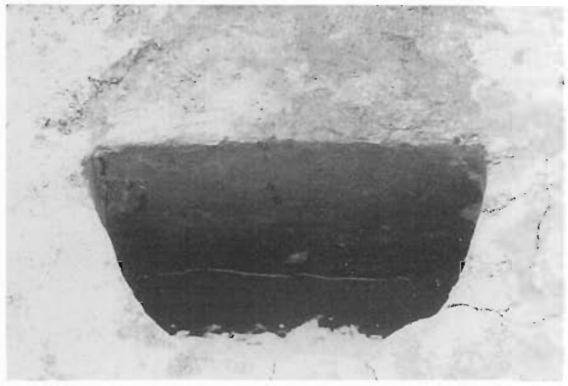


SK28土坑　平面

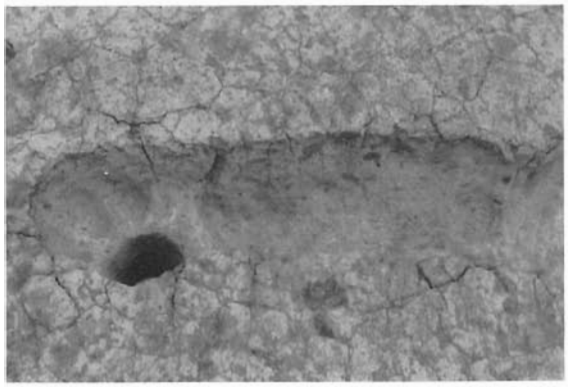
SK28土坑　断面



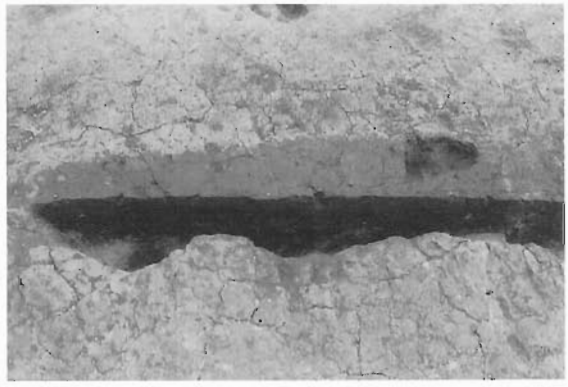
SK29土坑　平面



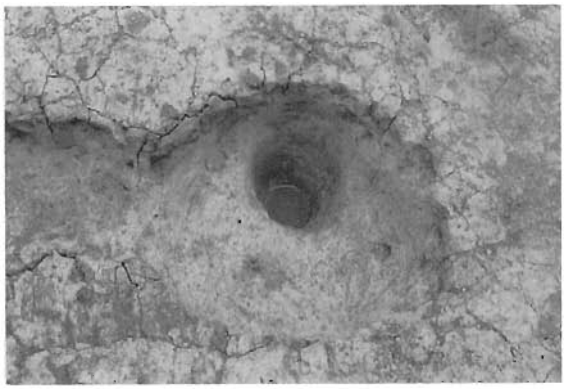
SK29土坑　断面



SK30土坑　平面



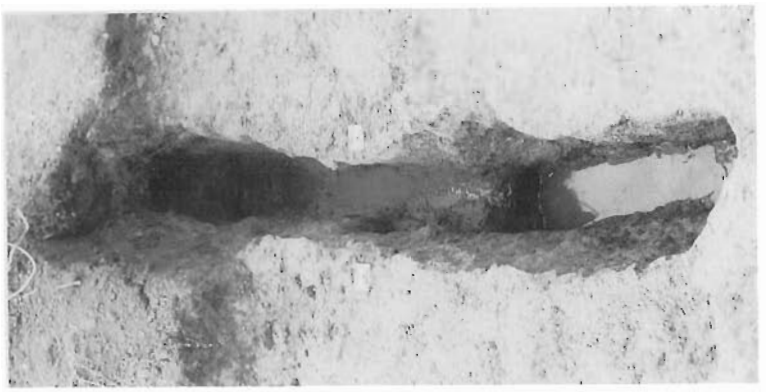
SK30 土坑　断面



SK31土坑　平面

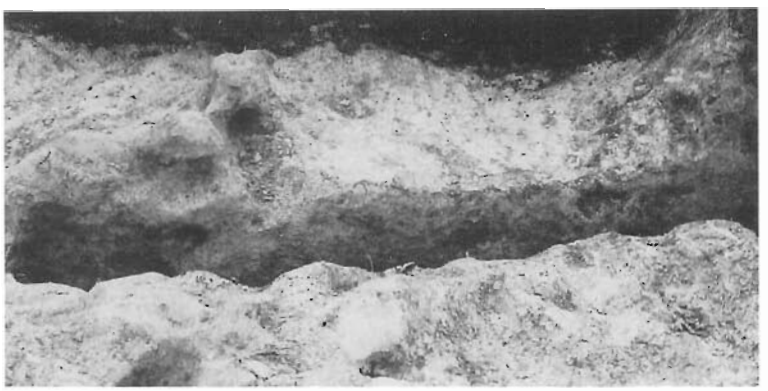
SK31土坑　断面

写真図版22　E′・F′区の遺構（6）



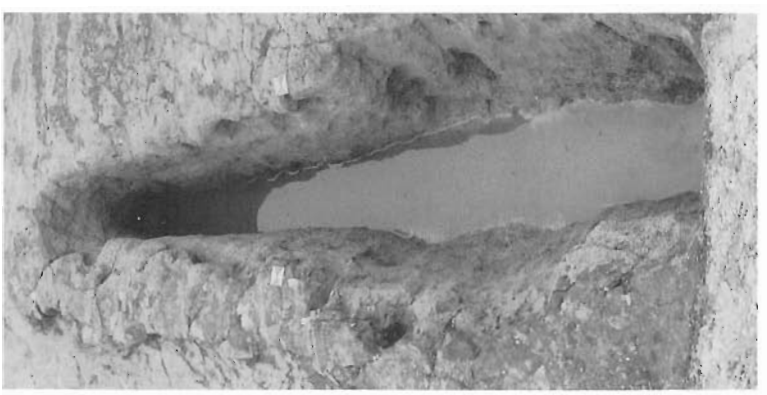
SX07陥し穴　平面

SX07陥し穴　断面



SX08陥し穴　平面

SX08陥し穴　断面



SX06陥し穴　平面

SX06陥し穴　断面

SD31溝　平面

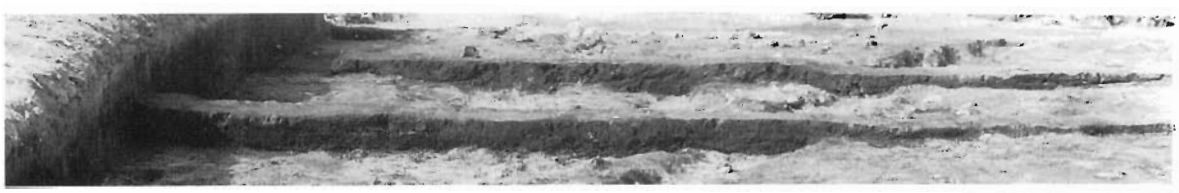
SD31溝　断面（B－B′）

写真図版23　E・F′区の遺構（7）

SD32溝　平面

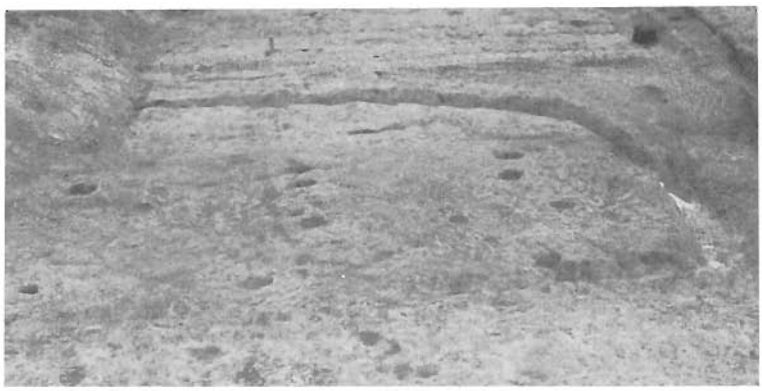
SD 32溝　断面（C－C′）

SD33・34・35・36溝　平面



SD33・34・35・36溝　断面（A－A′）

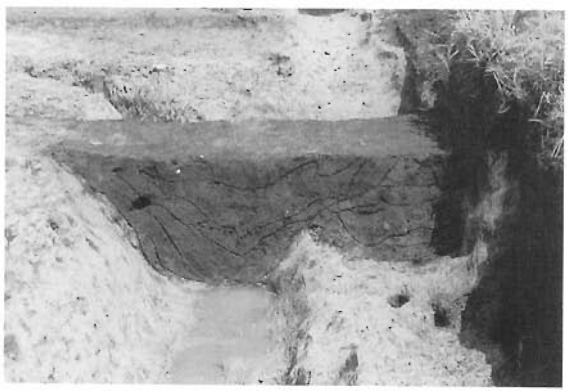
写真図版24　E′・F′区の遺構（8）



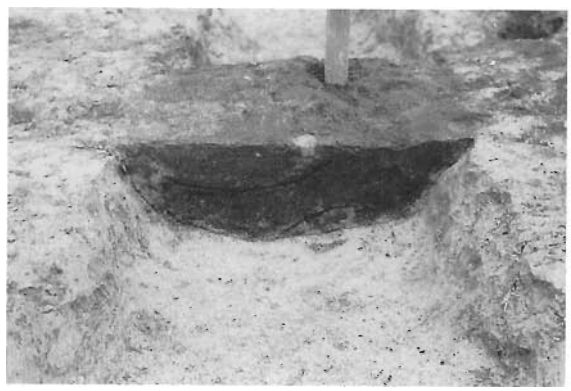
SD42溝　平面（南から）

SD42溝　平面（東から）

SD43溝　平面



SD42・43溝　断面（A－A′）

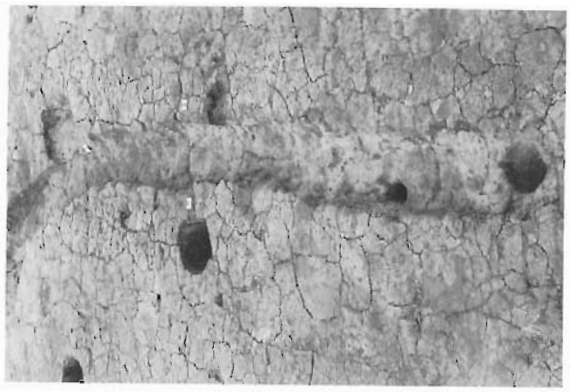


SD43溝　断面（B－B′）

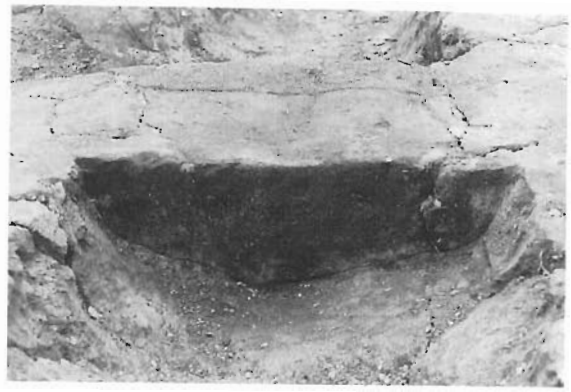
SD41溝　平面

SD41溝　断面

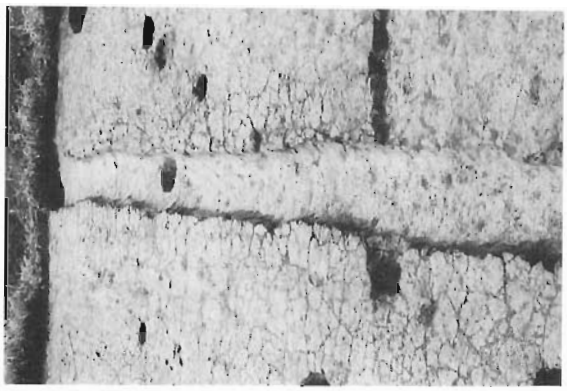
写真図版25　E′・F′区の遺構（9）



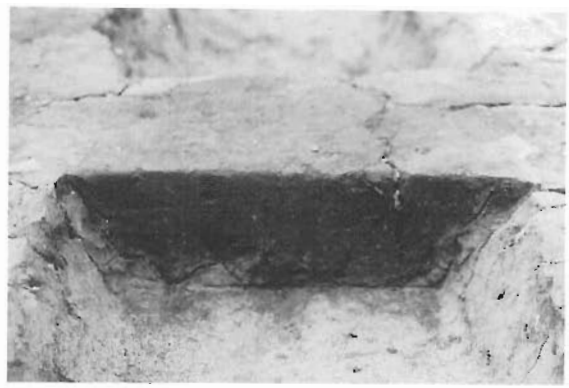
SD50溝　平面



SD50溝　断面（A－A′）



SD51溝　平面

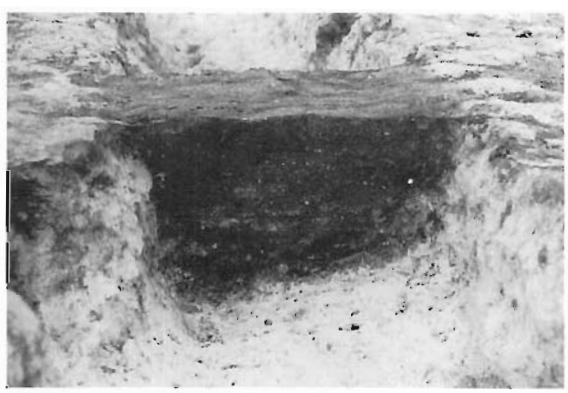


SD51溝　断面（B－B′）

SD44溝　平面

SD44溝　断面（A－A′）

SD45溝　平面

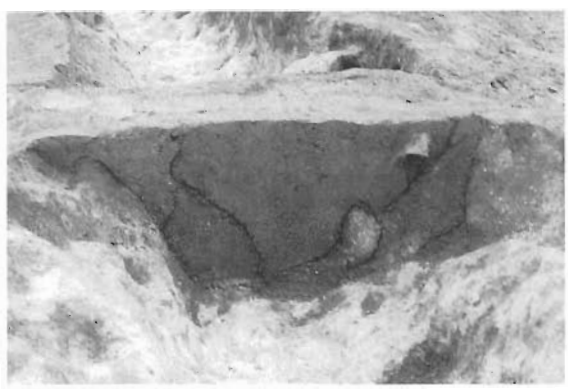


SD45溝　断面（B－B′）

写真図版26　E′・F′区の遺構（10）

SD46・47・48・49溝　平面

SD46溝　平面



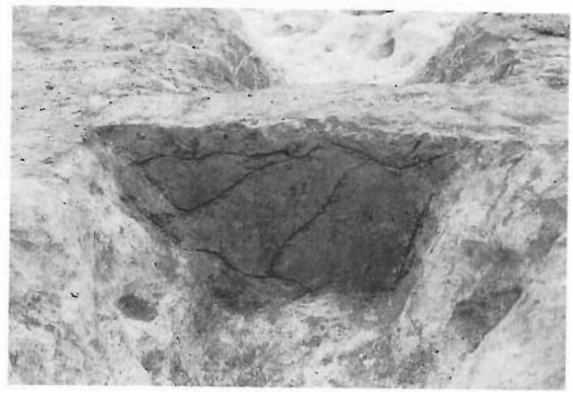
SD46溝　断面（A－A′）

SD47溝　平面

SD47溝　断面（B－B′）

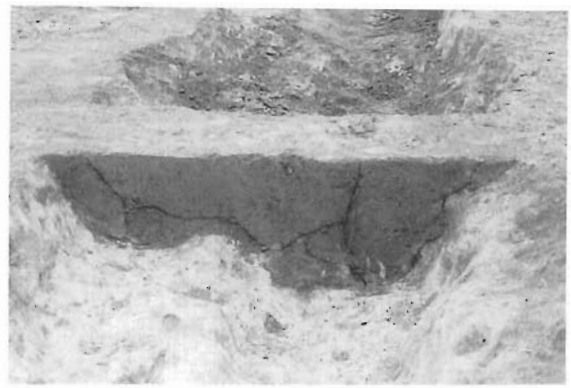
写真図版27　E′・F′区の遺構（11）

SD48溝　平面



SD48溝　断面（C－C′）

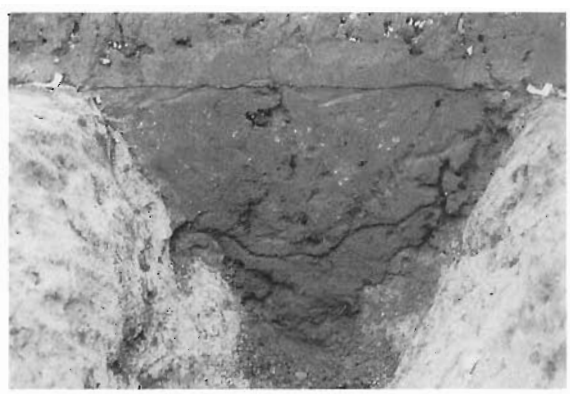
SD49溝　平面



SD49溝　断面（D－D′）

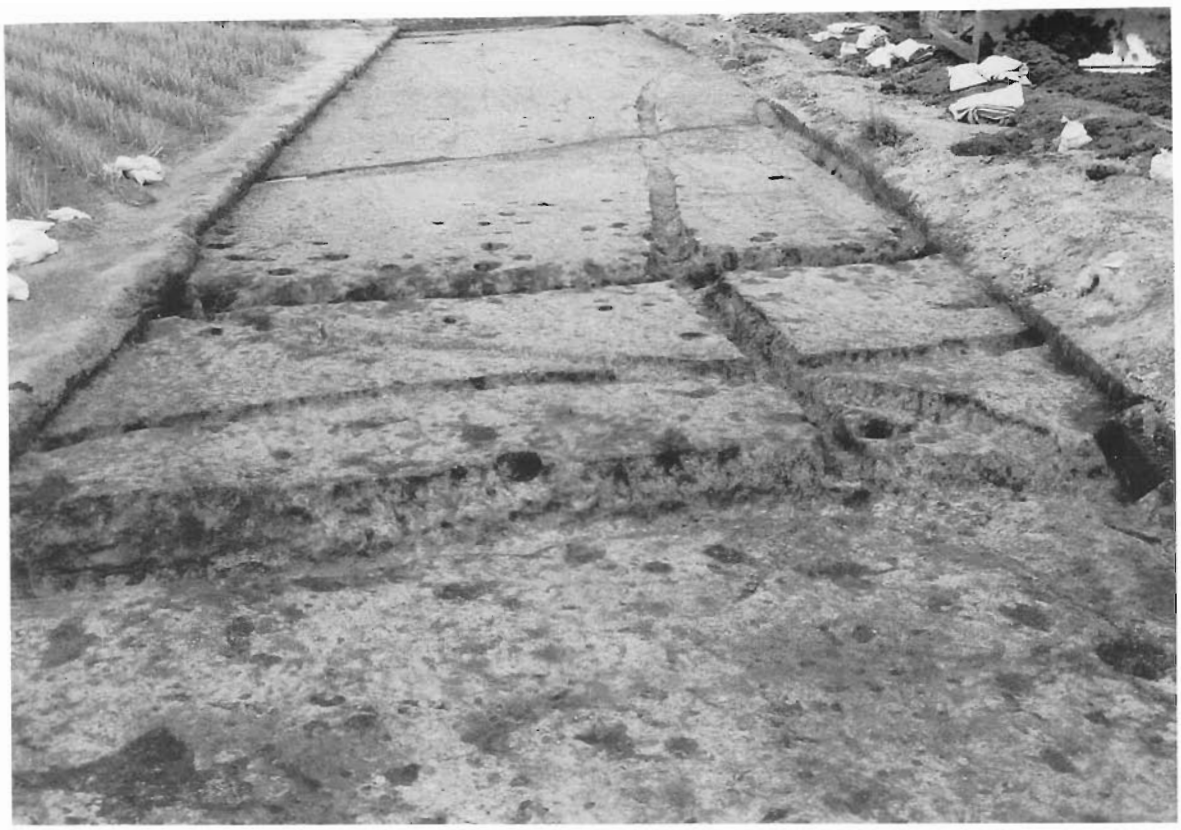
SD52・53溝　平面

SD52溝　断面（A－A′）



SD53溝　断面（B－B′）

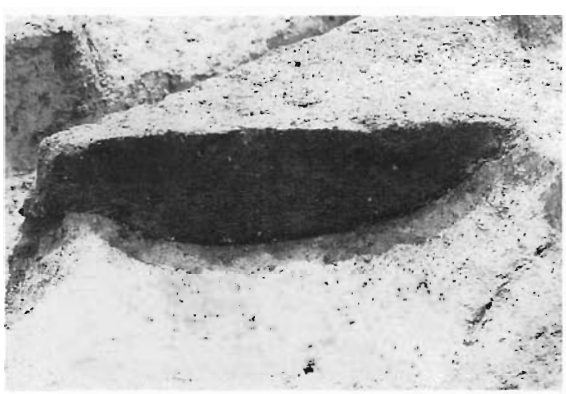
写真図版28　E′・F′区の遺構（12）



SD56・57・58・59・60・62溝　平面

SD56溝　断面（A－A′）

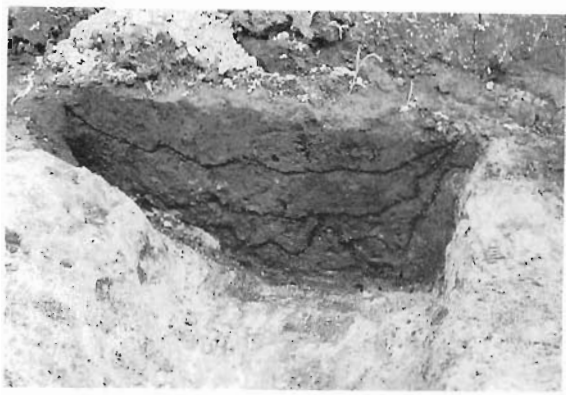
SD57溝　断面（B－B′）



SD58溝　断面（C－C′）

SD59溝　断面（D－D′）

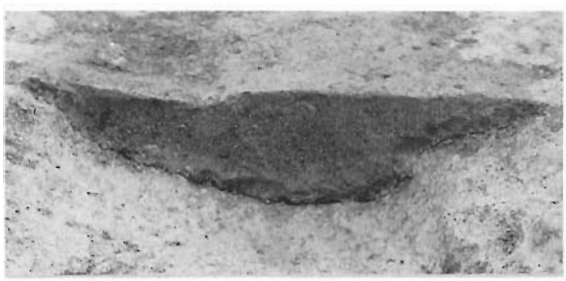
写真図版29　E′・F′区の遺構（13）



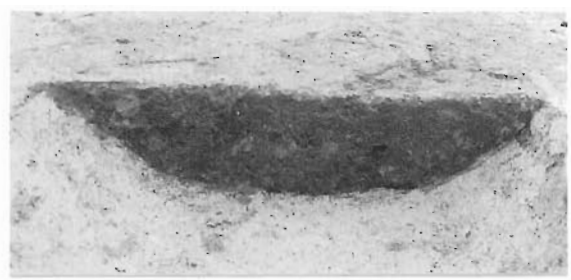
SD60溝　断面（E－E′）

SD62溝　断面（F－F′）

SD54・55溝　平面

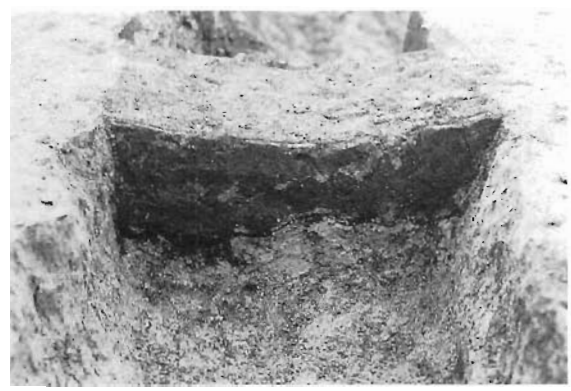


SD54溝　断面（A－A′）



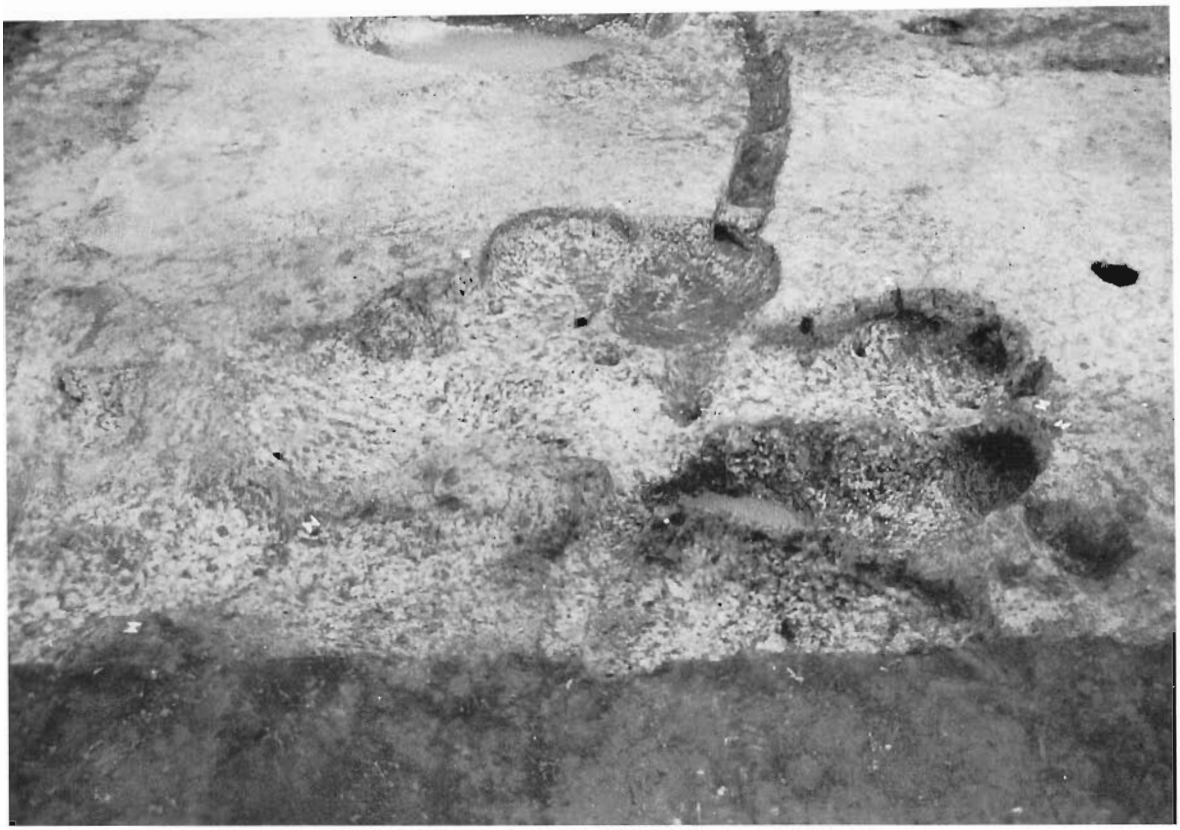
SD55溝　断面（B－B′）

SD63溝　平面



SD63溝　断面（F－F′）

写真図版30　E′・F′区の遺構（14）

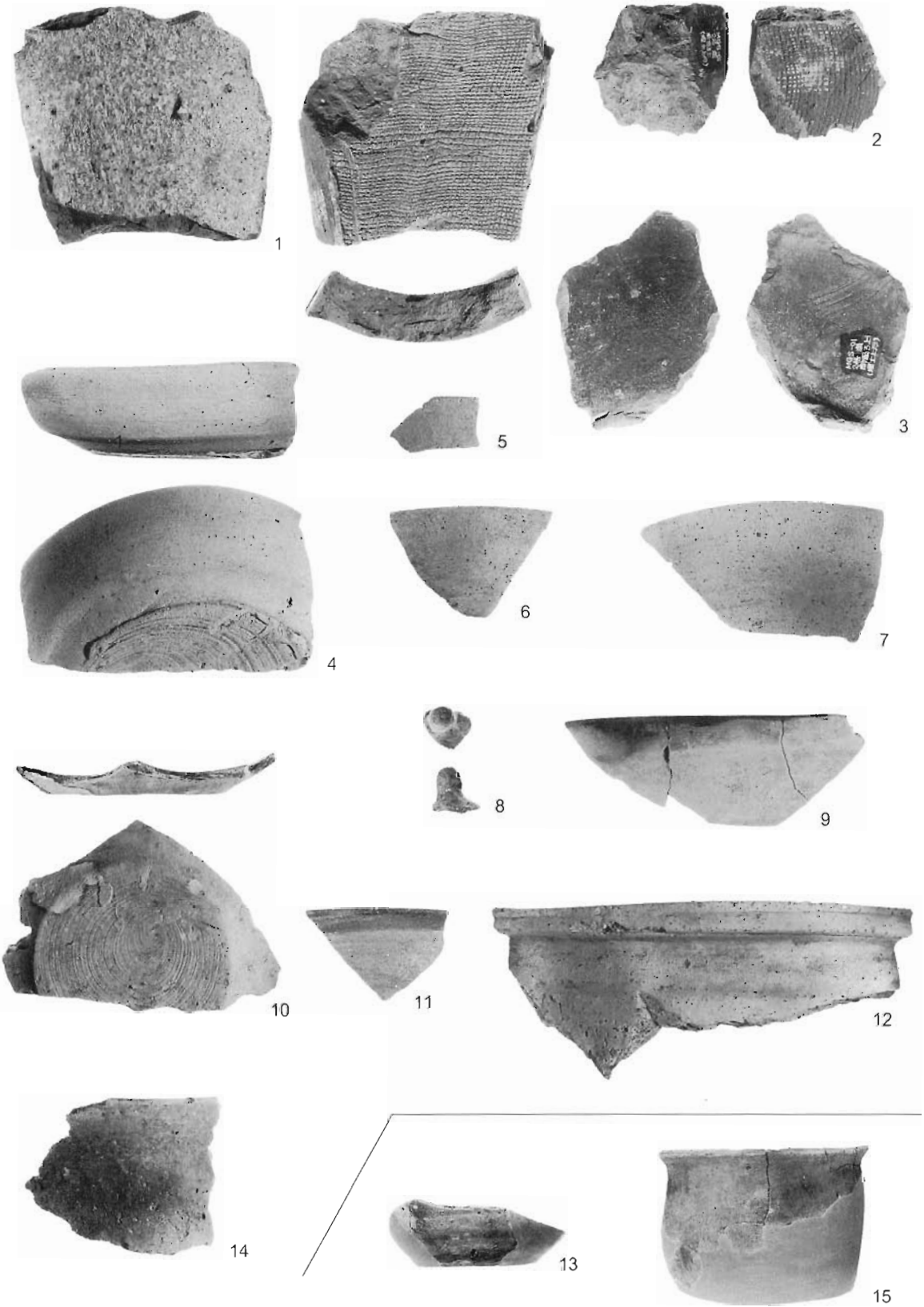


SX12複合窯　平面

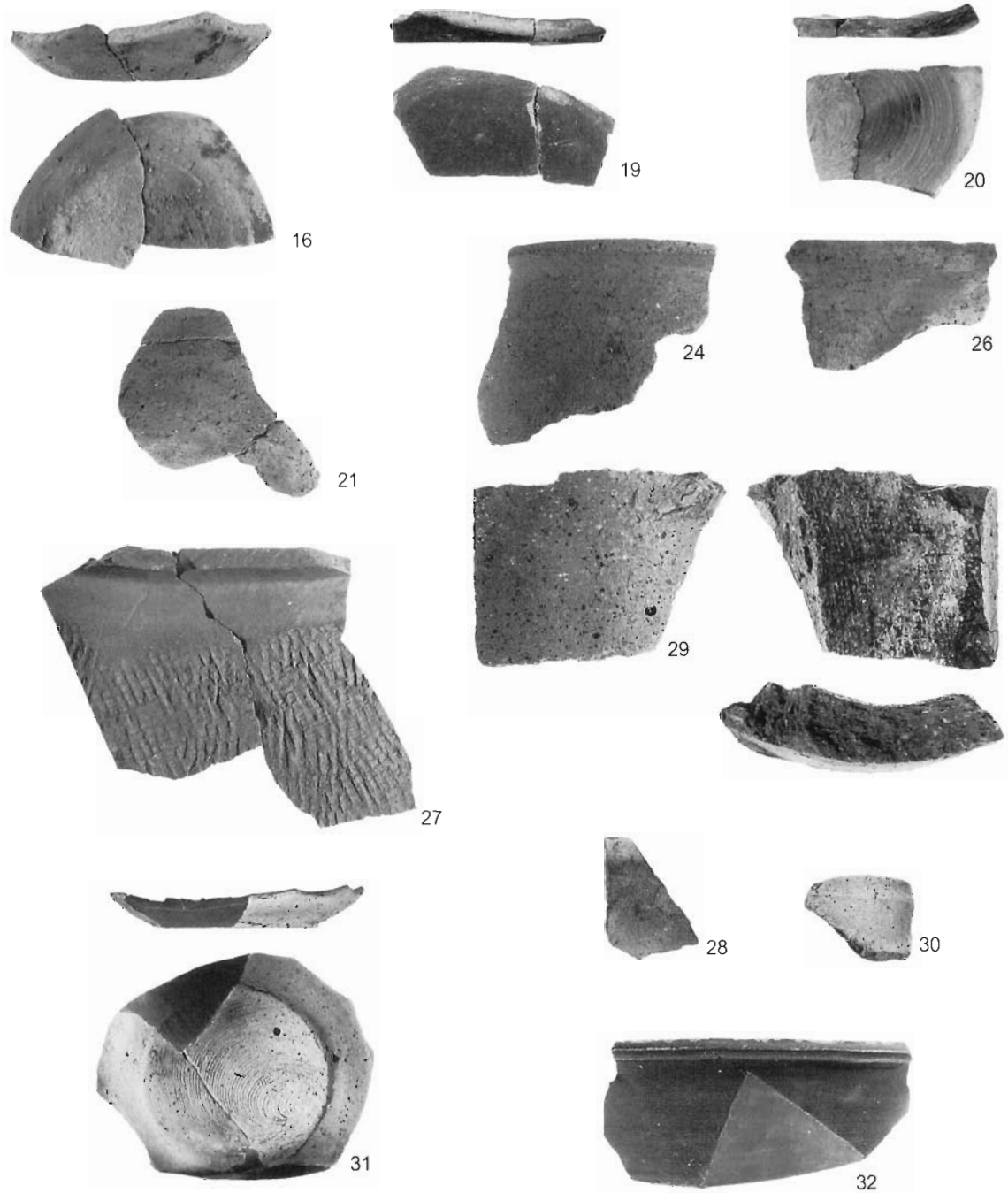
SX12複合窯　断面（A－A′）

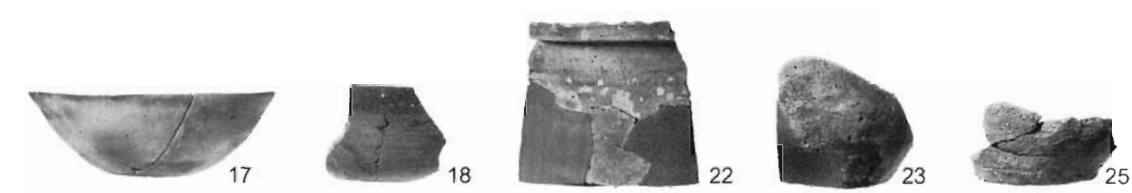
SX12複合窯　断面（B－B′）

写真図版31　E′・F′区の遺構（15）

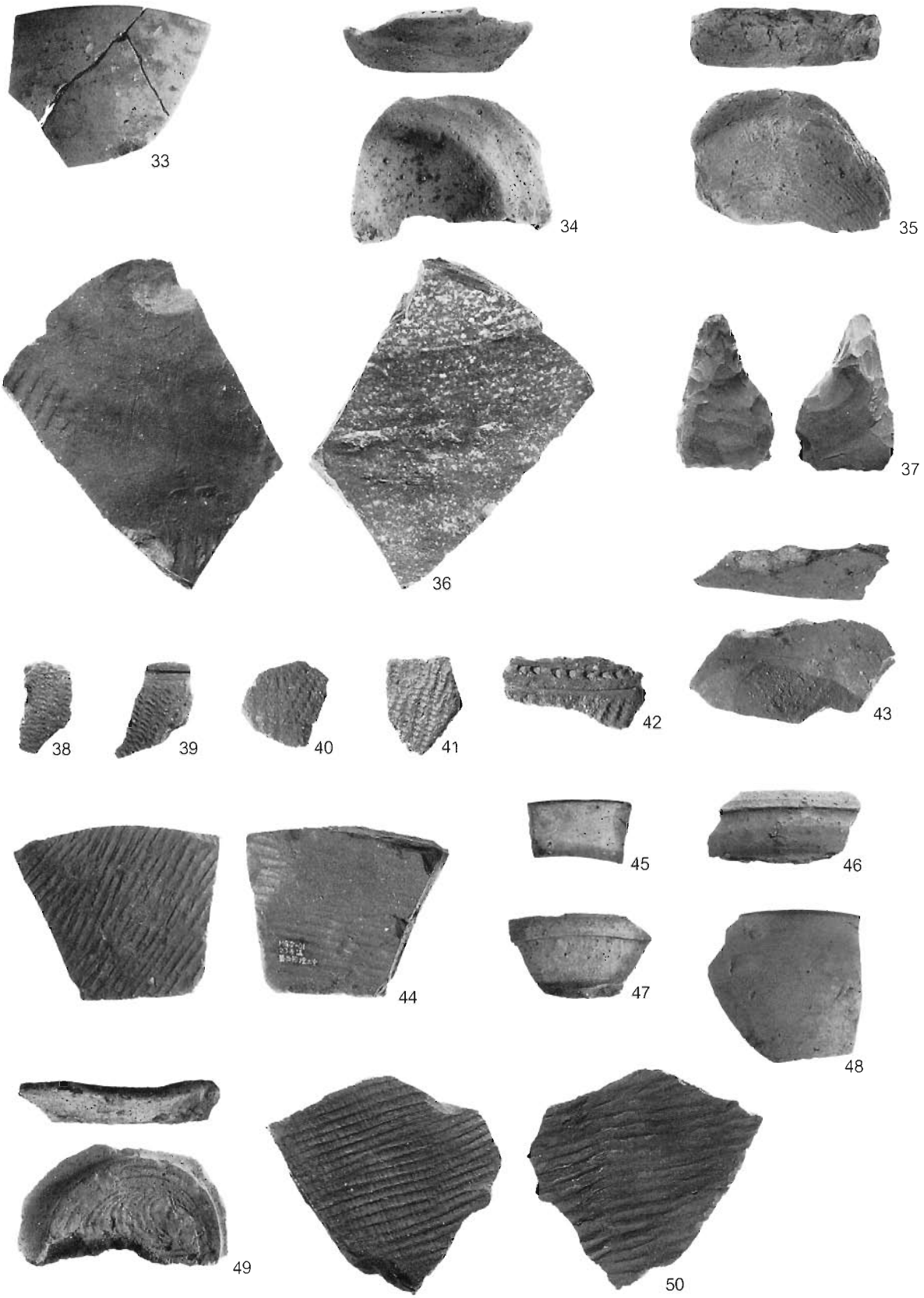


写真図版32　A′～D′区の遺物

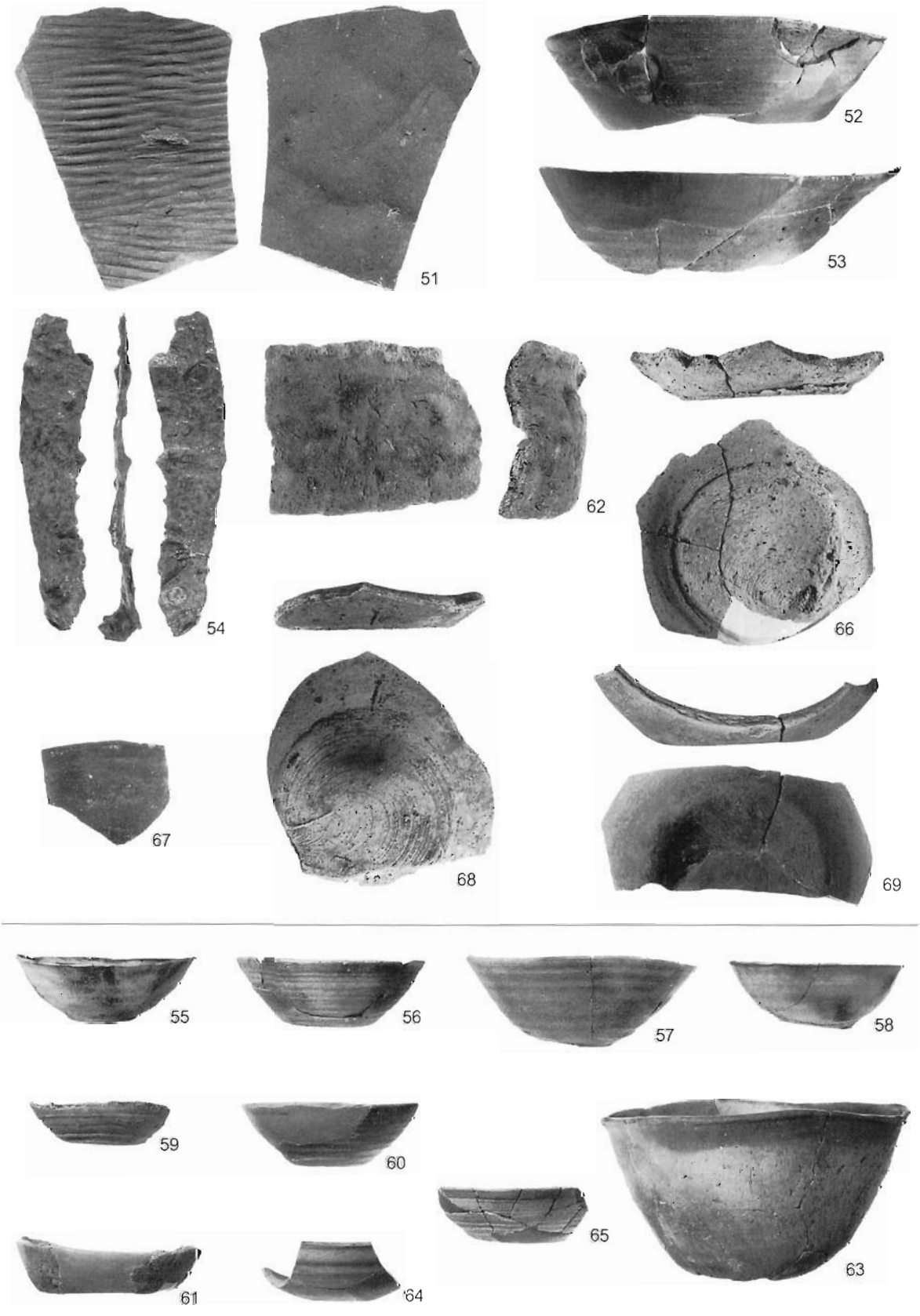




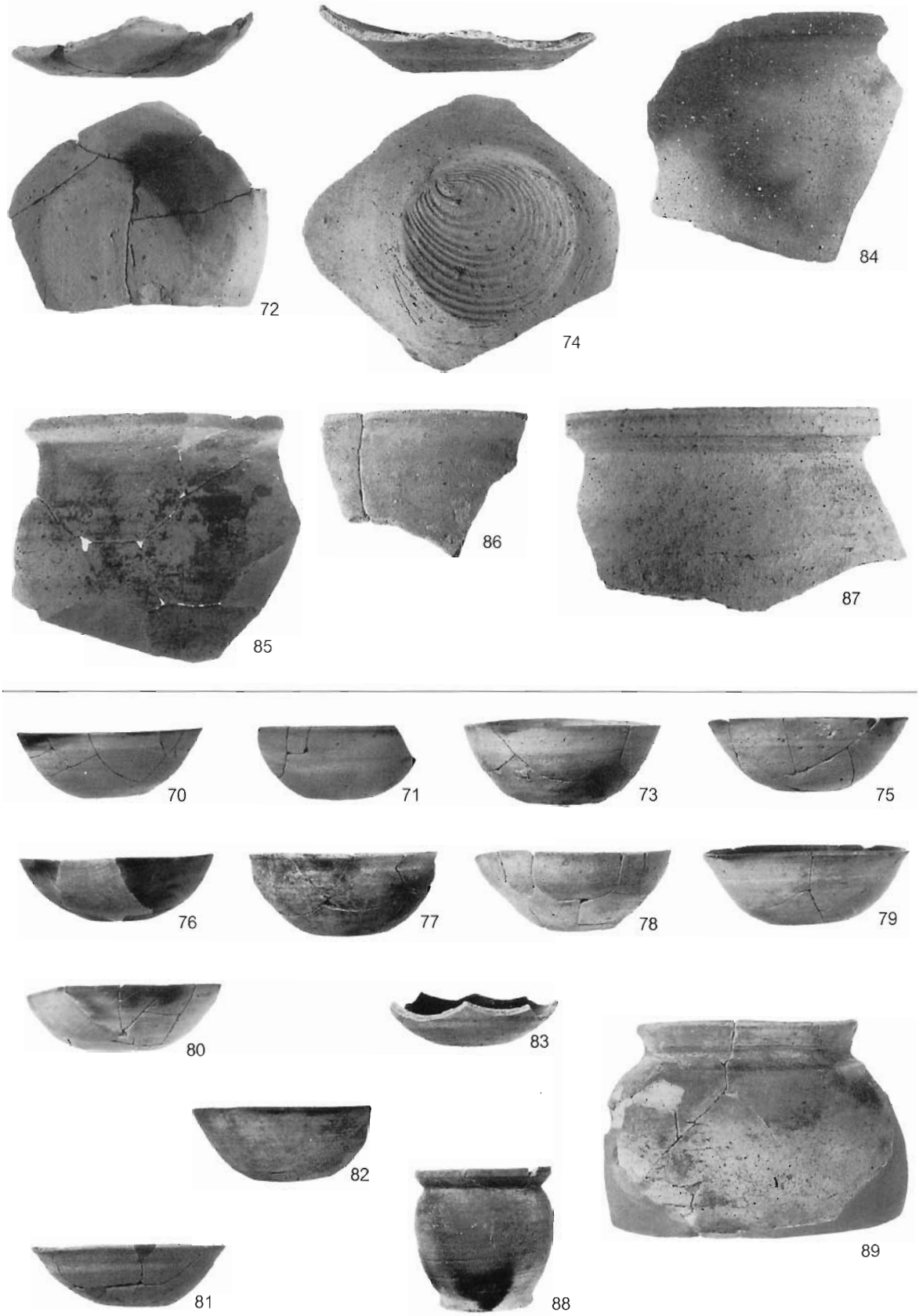
写真図版33　C′・D′区の遺物



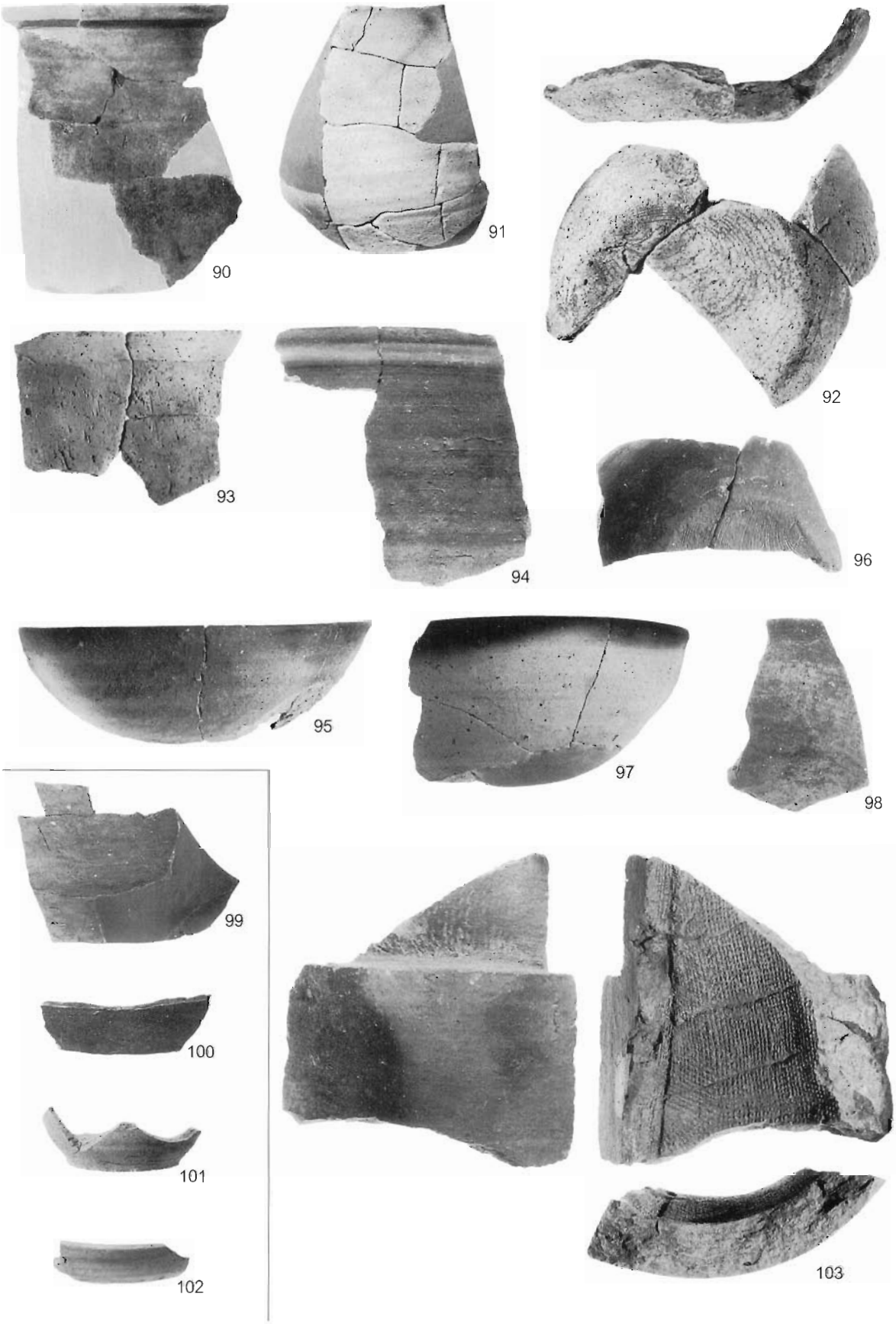
写真図版34　C′・D′区の遺物



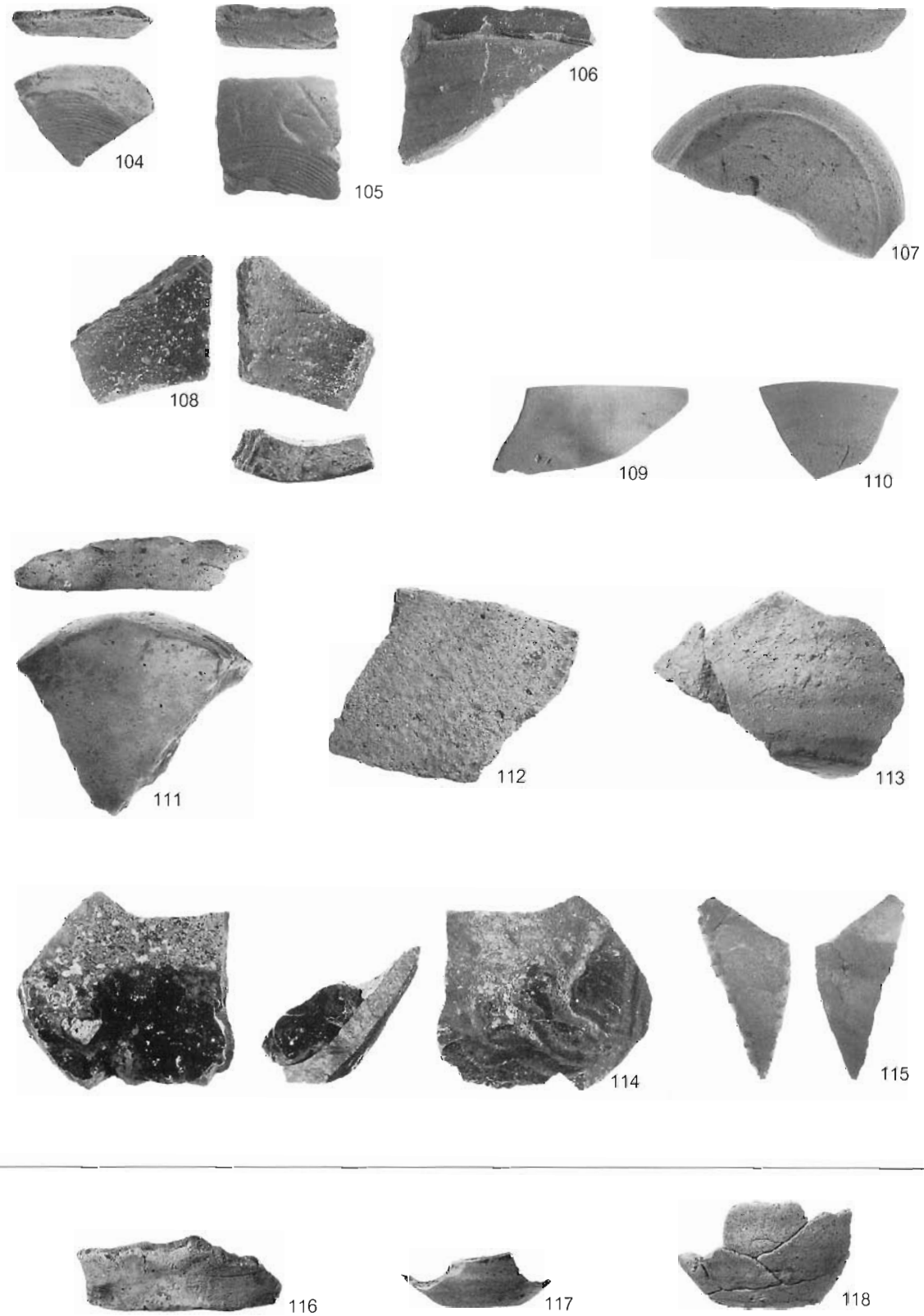
写真図版35　C′～F′区の遺物



写真図版36　E′・F′区の遺物



写真図版37　E′・F′区の遺物



写真図版38　E′・F′区及び遺構外の遺物

報告書抄録

ふりがな	みょうごさわいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書名	明後沢遺跡群発掘調査報告書
副書名	ほ場整備姥沢上野地区工事関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第411集
編著者名	亀大二郎、鳥居達人
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　TEL 019－638－9001
発行年月日	西暦　2003年2月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
明後沢遺跡群	岩手県胆沢郡前沢町古城字幅123－1他	03382	NE36-2175	39度 05分 00秒	141度 08分 00秒	20010412 ～ 20010806	4,720㎡	ほ場整備姥沢上野地区工事に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
明後沢遺跡群	散布地	縄文時代	陥し穴　8基	縄文土器 石器（石鏃・掻器）	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡　5棟 竪穴状遺構　5基 土坑　21基 溝跡　58条 ほか	土師器（甕・坏） 須恵器片・古瓦片 かわらけ片ほか	土坑・溝跡は時代不明の物も含む

平成14年度　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長	木村	昇
〔管理課〕		
課長	韮澤	正吾
課長補佐	山崎	善光
〃	山岸	直美
主査	中嶋	賢一
〔調査第一課〕		
課長	佐々木	勝
課長補佐	佐々木	清文
〃	高橋	義介
文化財専門員	小山内	透
文化財調査員	吉田	充
〃	亀	大二郎
〃	佐々木	信一
〃	早坂	淳也
〃	小松	則進
〃	金野	真盛
〃	金野中子部	昭彦
〃	阿部	孝明
〃	阿部	勝則
〃	羽柴	直人
〃	高木	晃
〃	長村	克稔
〃	星	幸文
〃	杉沢	昭太郎
〃	村上	拓
〃	本多山	準一郎
〃	青澤	紀和
〃	西木	正晴
〃	村島	敬和
〃	福村	正昭
〃	北木	忠枝
〃	八田	勝寛
〃	米山	浩治
〃	丸田	勲
〃	北原	弘征
〃	島村	絵美
期限付調査員	中部	恵造
〃	坂地	剛
〃	巽山	健一
〃	玉田	真美
〃	吉林	由卓
〃	小洞	弘
〃	長原	ひかり
〃	藤又	大輔
〃	川代	晋
〃	太藤	一彦
〃	江花	敦
〃	立	公志

副所長	高橋	正儀
嘱託	高橋	照雄
〃	加藤	美代子
〃	湯沢	邦子
〃	伊藤	滋子
〔調査第二課〕		
課長	高橋	與右衛門
課長補佐	中川	重紀
文化財専門員	金子	佐知子
文化財調査員	赤石	登
〃	阿部	眞澄
〃	飯坂	一重
〃	鈴木	裕明
〃	久慈	泰彦
〃	(濱田	宏)
〃	安藤	由紀夫
〃	星	雅之
〃	佐藤	淳一
〃	半澤	武彦
〃	皆川	英香
〃	溜	浩二郎
〃	丸山	直美
期限付調査員	齋藤	麻紀子
〃	吉田	里和
〃	菊池	賢
〃	立花	裕
〃	駒木野	智寛
〃	原	美津子
〃	石崎	高臣

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第411集

明後沢遺跡群発掘調査報告書

ほ場整備姥沢上野地区工事関連遺跡発掘調査

印刷　平成15年２月21日
発行　平成15年２月28日

発　　行　㈶　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185
電　　話　（019）638－9001
Ｆ　Ａ　Ｘ　（019）638－8563
印　　刷　㈲　博光出版
〒020-0122　盛岡市みたけ５丁目８番43号
電　　話　（019）641－0671

© ㈶ 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003